

市ヶ谷ボランティアセンターについて

2021年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要	5
2021年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会	7
2021年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計	8
2021年度 市ヶ谷ボランティアセンターイベントカレンダー	11
2021年度 市ヶ谷ボランティアセンター活動の報告	21

2021 年度市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要

1. 活動目的と活動目標

■活動目的：本学学部生のボランティア活動の促進

■活動目標

- (1) 東京 2020 応援プログラムの実施
- (2) 近隣の大学・施設と連携した新規プログラムの実施
- (3) 震災復興支援・防災啓発活動への取り組みの継続
- (4) 基幹プロジェクトの継続的实施と見直しの実施
- (5) 学内イベントの継続的实施と見直しの実施
- (6) 学生スタッフの育成
- (7) キャンパスボランティアセンターの連携

2. COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の活動への影響について

2021 年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、その影響は 2020 年度に比べて限定的であった。特に昨年の課題であった新規スタッフの獲得については、対面で新歓ができたことに加えオンラインでのボランティア・教プロ説明会を新たに実施したことにより、例年以上のスタッフの獲得に成功した（VSP：37 名、チーム・オレンジ：33 名）。なお、2021 年度に入会したスタッフは 1 年生ばかりではなく、昨年サークルに入れなかった 2 年生も多い。

ボランティア活動については、5 月の「富士山トレイル整備ボランティア」及び 3 月の「岩手・宮城被災地スタディツアー」については中止となってしまったが、10 月の「富士山自然保護ボランティアツアー」は実施でき、他の大型企画である、「防災キャンプ」「福島スタディツアー」も当初の予定通り実施できた。「東北被災地ボランティアツアー」に関しては 8 月の実施は叶わなかったが、延期し 11 月に実施することができた。その他の学生発案の企画は概ね問題なく実施することができた。

一方で学外と連携しながら行っているボランティア活動については少しずつ再開している活動もある一方で今年も中止、ボランティアを募集していないなどもあり 2020 年度と比較すると活動の間口は広がったが依然としてコロナの影響があったと言わざるを得ない 1 年となった。

3. プログラム数及び学生参加人数

2021 年度活動の総プログラム数は 189 個、学生参加者総数は 2,496 名となった。なお、その他に学生募集などを行ったうえで中止になった企画も 16 個あった。

4. 2021 年度活動の報告

(1) 東京 2020 応援プログラムの実施

東京 2020 組織委員会が東京 2020 大会の延期を受け、本プログラムも期間の延長の措置が取られたため引き続き、「チーム対抗！運動しながら素敵な街に！（スポーツごみ拾い企画）」「ユニバーサルシアター～バリアフリー映画観賞会～」「補助犬×ボランティア～私たちに何ができる？」など、東京 2020 応援プログラムを 5 プログラム実施し、学内の東京 2020 大会の気運の醸成に貢献した。

(2) 近隣の大学・施設と連携した新規プログラムの実施

- 「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」に働きかけを行い「水辺の環境改善 作戦会議」や「「誰か」じゃなく「みんな」が生きやすい社会とは？～ダウン症のある人とのかかわりから共生社会を考えよう～」などの企画に参加してもらった。また、三輪田学園様よりボランティア活動を大学と共同して行いたいとの依頼があり、上記企画などに三輪田学園の生徒の皆様も参加いただいた。
- 例年行われている「神田すずらん祭り」や「神保町ブックフェスティバル」などは引き続き中止となったが、「手賀沼での外来魚駆除保全活動」「高円寺子供食堂でのボランティア活動」などできる範囲で近隣施設・団体と協力してボランティア活動を行った。

(3) 震災復興支援・防災啓発活動への取り組みの継続

- 被災地ボランティア、被災地スタディツアーの継続実施
ボランティアセンター学生スタッフが主体となり、「福島スタディツアー」を継続的に実施し、一般

学生の被災地に対する理解を深め風化防止に貢献することができた。「岩手・宮城被災地スタディツアー」に関しては残念ながら中止となった。また「東北被災地ボランティアツアー」に関しては新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが11月に延期をして、学生29名を現地に派遣、ボランティア活動を実施することができた。

●学外での防災啓発活動

例年行われている「防災ゲーム DAY」や「未来の防災リーダー」などの学外のイベントが軒並み中止となったため活動ができなかったが、災害支援・防災教育コーディネーターの宮崎氏にご紹介いただき「ぼうさいこくたい 2021」「石川県学生災害ボランティア講座」などでチーム・オレンジの活動紹介や防災クイズカルタをオンライン上で実施することで防災啓発活動ができた。

●学内での被災地支援・防災啓発活動の実施

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の対策をしたうえで、学内宿泊訓練である「防災キャンプ」を実施することができた。

(4) 基幹プロジェクトの継続的实施と見直しの実施

●東京メトロ飯田橋駅ボランティアの実施

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で例年6月に実施していた研修を延期し11月に実施することができた。駅での活動は10月末から1月中旬までという短い期間であるが活動を再開することができた。また、11月、12月と定例会、3月には3年ぶりに活動報告会を実施し、東京メトロの担当者の方と活動に関する情報共有を実施することもできた。

●継続実施活動

キャンパス周辺清掃及びエコキャップ回収ボランティアについては通年を通して実施できた。九段・靖国清掃についても11月から再開している(1月以降再度中止となったため、独自開催している)。なお例年2回行われている富士山でのボランティアについて5月は実施できなかったが、10月に実施することができた。

(5) 学内イベントの継続的实施と見直しの実施

「衣食住企画ファストファッション沼救出作戦!」「自主法政祭献血企画」「3.11 つながるゼミ〜10年経った被災地をオンラインで学ぼう〜」等の新しい視点を取り入れた企画を実施、学内に提供することができた。また、その時々の情勢に合わせて、オンラインを並行して使用した。

(6) 学生スタッフの育成

●学生イベントの企画・運営支援

学生スタッフが開催するミーティング(VSP、チーム・オレンジ)への参加や、各プロジェクトごとの打ち合わせに職員が同席、学生企画の進捗状況を確認し、必要に応じて企画の促進やアドバイス、相談等を行った。

●コロナ禍でのコミュニケーション不足を補うため、入会する学生スタッフと面談を行った。面談では学生スタッフやボランティアセンターの役割、各団体のイベント情報などを案内した。

●例年、年2回行われているピアネット研修会を12月に1回実施した。

(7) キャンパスボランティアセンターの連携

六大学連絡協議会を10月に実施、本学3キャンパスの連携を図る全学運営委員会を1月に実施した。

2021年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会

回	日程	参加人数	議 題
第1回	4月23日(金)	9名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（交流会、活動再開について）・VSP（にこまるHP作成、3大学報告会、定期活動、今後の企画の進捗状況）・チーム・オレンジ（東北スタディツアー報告、防災ゲーム、被災地とのオンライン中継についてなど）・各団体より2021年度の抱負など ※引き続き学生来校数は少なくZoomでのやりとりが多いが、 コロナウイルス感染症の状況を見ながらできる事を実施していくことを目指す。
第2回	5月21日(金)	8名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（交流会、研修会の延期）・VSP（にこまるのぼり作成、スポゴミ企画報告、富士山、ボート清掃中止、インクルーシブデザインワークショップ、ユニバーサルシアター、ダウン症企画、外来魚駆除企画について進捗状況）・チーム・オレンジ（防災ゲーム「なまずの学校」、始めの一步カフェ、オンラインスタディツアー、東北被災地ボランティアツアーについて進捗状況）・大学より 緊急事態宣言延長によるボランティアセンターの活動について ※5月前半の企画いくつかについては実施できた。Zoomと対面での実施が半々といった状況であった。
第3回	6月24日(木)	9名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（交流会、研修会について）・VSP（外来魚駆除について考えよう、補助犬企画、ボート企画、生理から考える「やさしい社会」の実現に向けて、LINE使い方講座、水辺の環境改善・作戦会議、献血企画、富士山企画、子ども食堂企画等 衣食住企画、進捗状況）・チーム・オレンジ（東北被災地ボランティアツアー、エイチ・ユーとの被災地支援グッズ、防災キャンプ 福島スタディツアー 共同通信社からの取材について 進捗状況）※災害救援ボランティア講座について ※現時点でのボランティアセンターの活動方針について、引きつづき状況を見ながら実施していく。
第4回	7月26日(月)	7名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（研修会について）・VSP（インクルーシブデザインワークショップ、ダウン症企画、外来魚駆除活動、ユニバーサルシアター実施報告、補助犬企画、ボート企画、生理から考える「やさしい社会」の実現に向けて、献血企画、富士山企画、子ども食堂企画等 進捗状況）・チーム・オレンジ（3.11つながるゼミ実施報告、東北被災地ボランティアツアー、エイチ・ユーとの被災地支援グッズ、防災キャンプ 進捗状況）※災害救援ボランティア講座、多摩ボランティアセンター主催勉強会、報告書の完成、前期新入会員についてなど ※多くの企画が対面で行えるようになったと共に、Zoomを用いたオンラインでの交流も続けている。
第5回	9月29日(水)	8名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（清掃×散策ボランティア、研修会の延期について）・VSP（ペイラー大学との日本語・英語交流ボランティア、琵琶湖オンライン勉強会・交流会、富士山企画（講義、活動）、関西大学との琵琶湖外来植物駆除活動の延期、献血企画、子ども食堂講義、衣食住企画、パラスポーツ企画）・チーム・オレンジ（オンラインで行く東北被災地ボランティアツアー、防災キャンプ、東北被災地ボランティアツアーの延期、法政フェア動画、福島被災地スタディツアーについて）※手話の実施、あすチャレAcademy、MIW祭り出展について ※比較的感染状況が落ちつき出している為、各企画進めることができた。
第6回	10月22日(金)	8名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（清掃×散策ボランティア、研修会の実施について（11/13）・VSP（富士山企画（講義・活動）、献血、フードロスヘキサゴン、ファストファッション、子ども食堂、住企画、ダウン症企画、パラスポーツ企画など）・チーム・オレンジ（防災キャンプ、法政フェア動画、防災こくたい、東北被災地ボランティアツアー、福島被災地スタディツアー）※交代、大学祭等、関西大学との琵琶湖外来植物駆除活動、九段靖国清掃再開について ※11月実施の企画が多く、学生スタッフも各自準備を進めている。感染症に留意しつつ活動できている。
第7回	12月7日(火)	7名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（研修会の実施、定例会の実施について）・VSP（献血企画、フードロスヘキサゴン、ファストファッション、子ども食堂、住企画、ダウン症企画、パラスポーツ企画、スポゴミ with 関西大学、実践知大賞など）・チーム・オレンジ（防災こくたい、東北被災地ボランティアツアー、福島被災地スタディツアー、若手・宮城スタディツアーなど ※手話講座、あすチャレAcademy！、千代田学「KUG」、ピアニネット研修、千代田区と福島県の農家の方によるお米配付について、手話講座特別講演会について ※感染症が落ち着いている事で、多くの企画を実施することができた。
第8回	1月24日(月)	9名	・ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：メトロ（東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会について報告）・VSP（手話講座特別講演会、パラスポーツ企画、フードロスヘキサゴン2、スポゴミ with 関西大学、その他子ども食堂、Oluluなど）・チーム・オレンジ（東北被災地ボランティアツアー報告会、若手・宮城被災地スタディツアーなど）※お米の追加配付について、全学ボランティアセンター運営委員会、ボランティア説明会、1年間の総括（朝比奈先生、吉田次長、小林課長）※新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中で、学生スタッフの工夫や努力が功を奏し、多くの企画を実施することができた。2022年1月再び感染者数が増加している。引き続き感染症の状況を鑑みながらの活動となりそうである。

【付記】 ●運営委員会は新型コロナウイルス感染症の影響の為、Zoomにて開催。
●ボランティア依頼審査は、審査基準（2011年4月作成・一部2019年改定）に照らし合わせて判断。

2021 年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計

月	来室者総数	学生	その他	相談数	開室日数
4月	291	282	9	38	20
5月	188	179	9	5	18
6月	259	247	12	16	22
7月	222	205	17	7	18
8月	215	195	20	8	16
9月	107	105	2	12	20
10月	171	158	13	17	20
11月	299	288	11	41	18
12月	220	207	13	45	18
1月	91	89	2	19	16
2月	182	158	24	10	18
3月	164	162	2	7	19
合計	2,409	2,275	134	225	223

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者数に、Zoom 窓口への訪問を含む

※ 3月は Zoom 窓口の開設を中止

市ヶ谷ボランティアセンター 学生団体の紹介 ～学生スタッフのことは～

学生スタッフの視点で行うボランティアの企画・実施

VSP（ボランティア支援プロジェクト）

学生スタッフが興味のある分野のボランティアプログラムの企画を、交渉から携わり進めていきます。環境・福祉・地域貢献など様々なジャンルのボランティア活動を行っています。

昨年に引き続き、今年もコロナ渦での活動だったため対面での企画実施が難しいという場面に何度も直面しました。しかし、“コロナ渦だからできない”とやりたいことを諦めるのではなく、“コロナ渦でもできることは何か”を常に考え、自分の得意なこととボランティアを掛け合わせた活動を実施しました。例えば、コミュニティ広場の運営者さんからの「ホームページを作成して欲しい。」という依頼には、ITに強い学生とデザインに興味のある学生が集まって協力し合い、一つのホームページを完成させました。打ち合わせや情報共有、メンバー間の連絡も全てオンライン上で行ったため、綿密なやり取りが繰り返されました。直接会うからこそ感じることや得られることは沢山あると思いますが、このように対面でなくても自分の得意なことを活かせる場所があるという意味では、オンラインでのボランティアは自分たちがよりパワーアップできる一つのツールなのではないかと思えます。

来年度も、全てを対面で実施することは難しいと思いますが、オンラインでの企画を数多くこなしてきた私たちなら、困難な状況に陥ったとしても試行錯誤を繰り返し、アイデアを出し続けることができると思えます。VSPにしかできないボランティア活動を追及していきます。

2022年度VSP代表 法学部法律学科2年 飯村 美南

被災地支援・防災に取り組む

チーム・オレンジ

チーム・オレンジは、東日本大震災の被災地・被災者のために「何かしたい」という学生が集まってできた組織です。被災地支援及び防災全般について、学部生に活動の輪を広げるために教職員と協働し、活動しています。

大学二年生の春からチーム・オレンジの所属し、様々な学びと経験、そして人との繋がりを作ることが出来たと感じています。今年も昨年と同様、新型コロナウイルスの影響により、普段の活動が十分にできませんでした。その中で、他大学との交流や、現地の方とオンラインで繋がるなど、自分たちで出来る事を行いました。また、様々な方のご協力の下、実際に現地へ行くことも出来ました。震災から11年が経ち、東日本大震災による現地の課題は、ハード面からソフト面へ変化しています。その一方で、震災を風化させないこと、現地を知って欲しいという思いは震災当時から変わりません。私達は、現地で学ぶだけでなく、次の活動に繋げる必要があります。その1つが防災啓発活動です。近年、災害や防災の関心は高まっているといえます。その中で、チーム・オレンジの防災啓発活動は重要な役割を担っています。現地での学びや東日本大震災での教訓を生かし、今後は防災啓発活動にも力を入れていきたいです。

2022年度チーム・オレンジ代表 文学部地理学科2年 宮本 花穂

市ヶ谷ボランティアセンター 学生団体の紹介 ～学生スタッフのことは～

大学から一番近い地域貢献

東京メトロ飯田橋駅ボランティア

サービス介助基礎研修の受講を通して高齢者や身体の不自由なお客様の介助方法を学び、飯田橋駅にて見守りや道案内などのボランティア活動を行っています。

サービス介助基礎研修の受講を通して高齢者や身体の不自由なお客様の介助方法を学び、飯田橋駅にて見守りや道案内などのボランティア活動を行っています。

2021年度は前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響を受け、普段通りの活動ができませんでした。その代わりとしてZoomでの交流会をしたりVSPさんとコラボして大学周辺のゴミ拾いと散策をする新しい企画を始めたりしました。この企画は参加者から好評で今後も企画する価値があると感じました。このように本来の活動ができない中でも各メンバーの熱意によってメトボラの求心力が無くなることはなかったと言えます。

10月末には念願の駅での見守り活動が再開され久しぶりの活動に熱心に取り組むことができ、11月には新たに5期生を迎えて研修会を行い見守り活動の基本を学びました。5期生の参加も活発で日々見守り活動の基本を吸収しています。

1月にはオミクロン株の流行により駅での活動が再びできなくなってしまいました。残念なことではありますがこのような状況はコロナ禍で慣れてはいるはずで、今後とも飯田橋駅を誰もが利用しやすい駅にするためにできることを考え実行することはもちろん、活動できなくともZoom等を用いてメンバー間の交流を維持しメトボラで新たなことができないか模索していきたいと思えます。

東京メトロ飯田橋駅ボランティア学生スタッフ（4期生代表）人間環境学部人間環境学科2年 齊藤 総一郎



VSP（ボランティア支援プロジェクト）



チーム・オレンジ



東京メトロ飯田橋駅ボランティア

2021 年度市ヶ谷ボランティアセンターイベントカレンダー

NO.	実施日	プログラム	概要
1	4月1日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
2	4月3日(土) ～6日(火)	新入生歓迎祭	新入生、新2年生に向けた新入生歓迎会に参加、団体の紹介を行った
3	4月4日(日)	オンラインキャンパスツアー	新入生やコロナ禍で大学に足を運ぶことが難しい学生を対象としたオンラインキャンパスツアー
4	4月5日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
5	4月8日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
6	4月10日(土)	ボランティア・KYOPRO 説明会	新1・2年生を対象としたVSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、KYOPROの合同活動説明会
7	4月11日(日)	OluOlu CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア
8	4月12月(月)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
9	4月12日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
10	4月13日(火)	令和3年度「キリン・地域のちから応援事業」贈呈式	チーム・オレンジ「岩手・宮城被災地スタディツアー」活動に対するキリン福祉財団より助成金の贈呈式
11	4月16日(金)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
12	4月17日(土)	オフラインキャンパスツアー	新入生やコロナ禍でこれまで大学に足を運ぶことが難しかった学生を対象としたオフラインキャンパスツアー
13	4月19日(月)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
14	4月19日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
15	4月23日(金)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
16	4月24日(土)	OluOlu CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア
17	4月24日(土)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア交流会	東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフおよび一般学生を交えた交流会
18	4月26日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
19	4月28日(水)	なまずのクイズ学校 (防災啓発) 企画	チーム・オレンジが、防災啓発ゲーム「なまずのクイズ学校」をオンラインで行い、災害時に必要な知識について紹介
20	5月上旬～11月	チーム・オレンジ HU コラボグッズ作成企画	HUとチーム・オレンジが協力してつくるコラボグッズ、売り上げの一部を義援金とする
21	5月10日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
22	5月11日(火)	コミュニティ広場にこまる のぼり作成企画	コミュニティ広場にこまるさんののぼりのデザイン作成
23	5月12日(水)	はじめの1歩カフェ ～防災啓発編～	社会問題やボランティアについてカフェにいるような感覚で気軽に話をする企画
24	5月15日(土)	[東京2020応援] チーム対抗! 運動しながら素敵な街に!	チームに分かれ大学周辺エリアでごみ拾いを行い、拾ったごみの量や種類に応じて獲得した得点を競う、スポーツごみ拾い企画
25	5月17日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
26	5月17日(月)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
27	5月20日(木)	九段靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
28	5月23日(日)	OluOlu CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア
29	5月23日(日)	富士山トレイル整備ボランティア	富士山トレイル整備と清掃
30	5月24日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
31	5月25日(火)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
32	5月29日(土)	[東京2020応援] 3.11 つながるゼミ～10年経った被災地をオンラインで学ぼう～	リアルタイムで被災地とつながり、被災地の現状や現地の方のお話を聞く
33	5月30日(日)	東京運河ごみゼロカヌーツーリング	カヌーに乗って行う河川の清掃、運営ボランティア
34	5月31日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
35	6月6日(日)	OluOlu CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア
36	6月7日(月)	[東京2020応援] インクルーシブデザイン講座	プロセスの上流から巻き込むデザイン手法(インクルーシブデザイン)について学ぶ
37	6月7日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
38	6月14日(月)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
39	6月14日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
40	6月15日(火)	「誰か」じゃなく「みんな」が生きやすい社会とは?～ダウン症のある人とかかわりから共生社会を考えよう～(第2弾)	ダウン症のある方たちと実際にオンラインでコミュニケーションを持つことで、ダウン症を理解しお互いに分かり合うことや相手を思いやることの大切さを学ぶ
41	6月16日(水)	外来魚駆除保全活動	千葉県我孫子市手賀沼での外来魚駆除活動
42	6月17日(木)	九段靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	大妻女子	東京家政学院	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他
VSP、ベイラー大学	Zoom	3							3	
VSP、チーム・オレンジ	市ヶ谷キャンパス構内	未集計	-	-		-	-	-	未集計	
VSP	Zoom	36							36	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	3							3	
VSP、ベイラー大学	Zoom	3							3	
VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、KYOPRO	Zoom	140							140	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	1							1	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	17							17	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	1							1	
チーム・オレンジ	Zoom	1							1	11団体 18名
VSP、ベイラー大学	Zoom	2							2	ベイラー大学 7名
VSP	市ヶ谷キャンパス構内	19							19	
VSP	外濠周辺	21							21	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	5							5	
VSP、ベイラー大学	Zoom	5							5	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	3							3	
東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ	外濠校舎 529・530 会議室・Zoom	9							9	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	3							3	
チーム・オレンジ	Zoom	10							10	
チーム・オレンジ	Zoom	4							4	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP	Zoom、対面（埼玉県）	4							4	3月より開始、5月11日は納品日
VSP、チーム・オレンジ	Zoom	21							21	
VSP	市ヶ谷キャンパス周辺（神楽坂・飯田橋・靖国周辺）	27							27	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	6							6	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	11							11	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	4							4	
富士山クラブ、VSP	富士山麓周辺	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP	外濠周辺	16							16	
チーム・オレンジ、遠野山・里・暮らしネットワーク、一般社団法人おらが大槌夢広場代表理事 神谷未生氏	Zoom	45	9			1	3	13	71	
VSP、公益財団法人ブルー・アンド・グリーンランド財団法人	江戸川区・墨田区	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により延期
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	5							5	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	2							2	
VSP、インクルーシブデザイン・ソリューションズ 高山希氏	ハイフレックス型（対面 & Zoom）	35							35	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	14							14	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	4							4	
VSP、アクセプションズ（代表 古市理代氏、他）	Zoom	13	3					9	25	
VSP、手賀沼水生生物研究会、NEC 我孫子事業場担当者	千葉県我孫子市手賀沼四つ池	4							4	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA 麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により中止

NO.	実施日	プログラム	概要
43	6月19日(土)	災害救援ボランティア講座 第1回	災害救援ボランティアの基本、災害と防災対策の基本、千代田区社会福祉協議会・区内学生の活動、災害ボランティア活動ケースワーク、被災地での安全衛生
44	6月20日(日)	むすびえフォーラム「IT ノウハウ伝授イベント “こんな使い方をしています” 第2弾」	NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ主催勉強会への登壇
45	6月21日(月)	キャンパス周辺清掃	VSP の定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
46	6月21日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
47	6月23日(水)	[東京2020応援]ユニバーサルシアター～バリアフリー映画観賞会～	視覚障がい者、聴覚障がい者、車いすの方も映画を楽しめるユニバーサルシアターについて学ぶ
48	6月24日(木)	外来魚、外来生物駆除について考えよう!	外来魚問題について、千葉県手賀沼・四つ池の事例を通じ、実践的に学ぶ
49	6月26日(土)	OluOlu CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア
50	6月26日(土)	災害救援ボランティア講座 第2回	災害模擬体験と実技、出火防止と初期消火、災害ボランティア活動図上演習
51	6月28日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
52	7月3日(土)	災害救援ボランティア講座 第3回	応急手当活動(上級救命技能講習)、認定証授与
53	7月4日(日)	OluOlu CP サッカー障がい児向けサッカー) 教室 (オンライン)	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア (オンラインでエクササイズ)
54	7月5日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
55	7月6日(火)	[東京2020応援]補助犬×ボランティア～私たちに何が出来る?	聴導犬を本校に招いて実際の活動を様子を紹介し、また補助犬の存在をより広めるために学生ができるボランティアについて考える
56	7月12日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
57	7月13日(火)	生理から知る「やさしい社会」を作る方法-思いやりへの小さな1歩-	「生理」の多様な症状やその対処法を知り、周りの人がどのように接したら良いのかを学ぶ
58	7月15日(木)	LINE の使い方講座 (オンライン) ①	地域の高齢者を対象に、LINE の使い方をレクチャーする
59	7月15日(木)	九段靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
60	7月16日(金)	水辺の環境改善 作戦会議	河川や海が抱えている環境問題について、生活や生態系へどのような影響を及ぼすのかを知り、河川や海での環境問題を改善するためにはどうしたらよいか、ワークショップを交えて考える
61	7月18日(日)	OluOlu CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア
62	7月20日(火)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
63	7月26日(月)	キャンパス周辺清掃	VSP の定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
64	7月26日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
65	8月2日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
66	8月3日(火)	<キリン福祉財団助成事業>東北被災地ボランティアツアー事前説明会	岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア事前説明会
67	8月5日(木)	日本補助犬協会でのボランティア活動	日本補助犬協会でのボランティア活動
68	8月12日(木)	<キリン福祉財団助成事業> オンラインで行く「東北被災地ボランティアツアー」	東北被災地ボランティアツアー中止にともなう代替として、例年活動している施設を中心に被災地を巡るオンラインツアー
69	8月16日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
70	8月23日(月)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
71	8月23日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
72	8月24日(火)～29日(日)	<キリン福祉財団助成事業>東北被災地ボランティアツアー(第43、44次隊)	岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア
73	8月26日(木)	キャンパス周辺清掃	VSP の定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
74	8月29日(日)	OluOlu CP サッカー障がい児向けサッカー) 教室 (オンライン)	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア (オンラインでエクササイズ)
75	8月30日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
76	9月2日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
77	9月6日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
78	9月9日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
79	9月11日(土)	NPO 法人すまいる 空き家再生完成見学会、子ども食堂ボランティア	完成済みの再生空き家を見学、子ども食堂のボランティア活動
80	9月11日(土)	OluOlu CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア
81	9月13日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
82	9月14日(火)～15日(水)	(3大学連携協定) 琵琶湖岸での外来水生植物駆除	関西大学主催の琵琶湖での外来水生植物駆除ボランティア活動
83	9月15日(水)	[3大学連携事業] 琵琶湖ツーリズム! 大学生で考える環境ボランティアの未来 (オンライン講座)	琵琶湖の環境保全(外来生物)および後日実施予定の関西大学主催の琵琶湖での外来水生植物駆除ボランティア活動に係る心構えなどについて
84	9月16日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
85	9月16日(木)	渋谷4大学連携共同「SD 研修」登壇	渋谷4大学連携共同「SD 研修」において、チーム・オレンジが活動紹介を行った。
86	9月16日(木)	九段靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
87	9月18日(土)	飯田橋駅周辺散策×清掃ボランティア(東京メトロ飯田橋駅ボランティア&VSP 合同企画)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア学生スタッフが、飯田橋駅周辺を清掃しながら案内し散策するツアー

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	大妻女子	東京家政学院	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他
災害救援ボランティア推進委員会	大内山校舎 Y606 教室	29							29	
NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、VSP	Zoom	3							3	フォーラム参加者 60 名程度
VSP	外濠周辺	13							13	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
シティ・ライツ、シネマチュブキタバタ、VSP	シネマチュブキタバタ (北区)	12							12	
VSP、手賀沼水生生物研究会	Zoom	24	7				1		32	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	3							3	
災害救援ボランティア推進委員会、千代田区社会福祉協議会	本所防災館、大内山校舎 Y606 教室	28							28	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	3							3	
災害救援ボランティア推進委員会、東京防災救急協会	市ヶ谷総合体育館	29							29	
OluOlu、VSP	Zoom	3							3	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	1							1	
VSP、公益財団法人日本補助犬協会	富士見坂校舎体育館、Zoom	40							40	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	3							3	
VSP、ユニ・チャーム (株)	外濠校舎 S204 教室、Zoom	31							31	
ちよだボランティアセンター、富士見二丁目町会、VSP	Zoom、千代田区役所富士見出張所・区民館	3							3	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
VSP、公益財団法人 B&G	Zoom	13		3			2	5	23	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	4							4	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	10							10	
VSP	外濠周辺	15							15	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	4							4	
チーム・オレンジ	大内山校舎 Y805 教室、Zoom	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により延期
VSP	日本補助犬協会	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ	Zoom	40							40	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	10							10	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	3							3	
遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ	陸前高田市、大槌町	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により延期
VSP	外濠周辺	11							11	
OluOlu、VSP	Zoom	4							4	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、ベラー大学	Zoom	3							3	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、ベラー大学	Zoom	4							4	
VSP	神奈川県藤沢市 (長後)	2							2	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	2							2	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
関西・法政各大学学生、職員	滋賀県大津市内、琵琶湖博物館	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により延期
関西・明治・法政各大学学生、職員	Zoom	8				18	19		45	関西大学主催イベント
VSP、ベラー大学	Zoom	2							2	
防災教育コーディネーター 宮崎賢哉氏、チーム・オレンジ	Zoom	1							1	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ、VSP	飯田橋駅周辺 (神楽坂コース・靖国コース)	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により延期

NO.	実施日	プログラム	概要
88	9月21日(火)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
89	9月22日(水)	<キリン福祉財団助成事業>東北被災地ボランティアツアー報告会	各隊の被災地での活動報告、ふりかえり
90	9月23日(木)	東京運河ごみゼロカヌーツーリング	カヌーに乗って行う河川の清掃、運営ボランティア
91	9月23日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
92	9月26日(日)	OluOlu CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア
93	9月27日(月)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
94	9月27日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
95	9月30日(木)	富士山オンライン企画～美しい山の抱える問題～	10月に実施予定の富士山の森づくりに関わる保全活動に先駆けて、富士山が抱える様々な問題を取り上げ問題の予防と対策について講義とワークショップを通じて考える
96	9月30日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
97	10月1日(金) ～10月2日(土)	千代田区男女共同参画センター 第9回MIW祭り	男女共同参画センター MIWにて、ボランティアセンター団体の活動発表展示
98	10月2日(土) ～3日(日)	大学で被災したらどうする? 「防災キャンプ」	大学構内にて首都直下地震を想定したキャンプ
99	10月4日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
100	10月6日、13日、 20日 11月10日、17日、 24日 12月1日、8日 (水)	手話講座(入門編)	手話講座入門(手話ゲームブック)歌やゲームを交えて手話の基礎、聴覚障がいについて学ぶ
101	10月7日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
102	10月9日(土)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会	東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の事前研修
103	10月11日(月)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
104	10月11日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
105	10月14日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
106	10月14日(木)	外来魚駆除保全活動	千葉県我孫子市手賀沼での外来魚駆除活動
107	10月14日(木)	LINEの使い方講座(オンライン)②	地域の高齢者を対象に、LINEの使い方をレクチャーする
108	10月16日(土)	飯田橋駅周辺散策&清掃ボランティア～清掃しながら自分のお薦めスポットを見つけよう～	清掃しながら、飯田橋駅周辺を散策し、交流を深める
109	10月16日(土)	阿佐ヶ谷ガヤガヤ食堂でのボランティア	子ども食堂でのボランティア活動
110	10月17日(日)	富士山自然保護ボランティアツアー	富士山の森づくりに関わる保全活動
111	10月20日(水)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
112	10月21日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
113	10月24日(日)	(3大学連携協定)琵琶湖岸での外来水生植物駆除	関西大学主催の琵琶湖での外来水生植物駆除ボランティア活動
114	10月25日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
115	10月28日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
116	10月29日(金) ～30日(土)	自主法政祭献血企画	自主法政祭で献血を実施
117	10月31日(日)	OluOlu CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア
118	11月1日(月)	[3大学連携事業]琵琶湖ツーリズム!大学生で考える環境ボランティアの未来(事前交流会)	琵琶湖での外来水生植物駆除ボランティア活動に向けた関西・法政各大学学生のオンライン交流会
119	11月1日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
120	11月4日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
121	11月7日(日)	防災推進国民大会2021(ぼうさいこくたい2021)	ワークショップにて防災カルタの実施
122	11月8日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
123	11月11日(木)	あすチャレ!Academy	障がい者の"リアル"を当事者講師から聞き、学び、一緒に考える
124	11月11日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
125	11月13日(土)	<キリン福祉財団助成事業>つながるゼミ with 岩手大学「三陸委員会ここより」	岩手大学「三陸委員会ここより」さんと被災地支援についての情報交換、東北被災地ボランティアツアー事前説明会
126	11月13日(土)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会	東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の事前研修
127	11月14日(日)	[3大学連携事業]琵琶湖ツーリズム!大学生で考える環境ボランティアの未来(実践編)	関西大学主催の琵琶湖での外来水生植物駆除ボランティア活動
128	11月15日(月)	"食べること地球に手助け"フードロスヘキサゴン	食品ロスの現状と改善策について考える
129	11月15日(月)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
130	11月15日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
131	11月18日(木)	ファストファッション沼救出作戦!～環境に配慮した自分なりのおしゃれを見つけたたい人大集合!～	ファッション産業が環境に与えている影響とその実態についての講義をふまえ、洋風の購入についてディスカッションを行う

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	大妻女子	東京家政学院	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	11							11	
チーム・オレンジ、ボランティアツアー参加学生	大内山校舎 Y603 教室、Zoom	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により延期
VSP、公益財団法人ブルー・アンド・グリーンランド財団法人	江戸川区・墨田区	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により延期
VSP、バイラー大学	Zoom	2							2	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	1							1	
VSP	外濠周辺	8							8	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	1							1	
VSP、富士山クラブ	外濠校舎 523～526 会議室、Zoom	41				10		9	60	
VSP、バイラー大学	Zoom	3							3	
VSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア	千代田区役所	展示のみ							0	
防災教育コーディネーター 宮崎賢哉氏、チーム・オレンジ	大内山校舎 Y703 教室、市ヶ谷総合体育館	23							23	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	1							1	
手話通訳士 中野佐世子氏	大内山校舎 Y506 教室	282							282	全 8 回の延べ人数
VSP、バイラー大学	Zoom	1							1	
東京メトロ、ケアフィット共育機構、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ	法政大学市ヶ谷キャンパス	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により延期
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	10							10	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	3							3	
VSP、バイラー大学	Zoom	4							4	
VSP、手賀沼水生生物研究会、NEC 我孫子事業場担当者	千葉県我孫子市手賀沼四つ池	2							2	
ちよだボランティアセンター、富士見二丁目町会、VSP	Zoom、千代田区役所富士見出張所・区民館	5							5	
東京メトロ飯田橋駅ボランティア、VSP	飯田橋駅周辺	24							24	
阿佐ヶ谷ガヤガヤ食堂	阿佐ヶ谷ガヤガヤ食堂	3							3	
VSP、富士山クラブ	富士山麓	46							46	
VSP	外濠周辺、靖国、神楽坂周辺	17							17	
VSP、バイラー大学	Zoom	1							1	
関西・法政各大学学生、職員	滋賀県大津市内	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により延期
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、バイラー大学	Zoom	1							1	
VSP、日本赤十字社	F309	101							101	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	2							2	
関西・法政各大学学生、職員	Zoom	3					17		20	関西大学主催イベント
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、バイラー大学	Zoom	3							3	
防災教育コーディネーター 宮崎賢哉氏、チーム・オレンジ	Zoom、釜石市民ホール TETTO	6							6	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
日本財団パラリンピックサポートセンター、馬島誠氏（パラ・パワーリフティング選手）	Zoom	12	5			4	2		23	
VSP、バイラー大学	Zoom	4							4	
チーム・オレンジ、岩手大学「三陸委員会ここより」	大内山校舎 Y506 教室、Zoom	34							34	岩手大学学生 14 名
東京メトロ、ケアフィット共育機構、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ	学生ホール、東京メトロ飯田橋駅	18							18	
関西・法政各大学学生、職員	滋賀県大津市内	8					29		37	関西大学主催イベント
VSP、NPO 法人日本もったいない食品センター	Zoom	26	6						32	
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎	6							6	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、国際環境NGOグリーンピース・ジャパン	大内山校舎 Y603 教室	18	3						21	

NO.	実施日	プログラム	概要
132	11月18日(木)	九段靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
133	11月18日(木)	ベイラー大学「お茶の時間」	ベイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
134	11月19日(金)	ダウン症のある人と巡る市ヶ谷キャンパス!〜ミッションを通して新たな仲間と繋がる〜	ダウン症のある方たちと市ヶ谷キャンパスを歩き、お互いを理解、学びを深める
135	11月20日(土)	むすびえ子ども食堂講座	子ども食堂の中継、講義を通じて子ども食堂とは何かを知ってもらい、子ども食堂に関わる一歩を踏み出す機会をつくる
136	11月21日(日)	OluOlu CP サッカー(障がい児向けサッカー)教室	CP サッカー(障がい児向けサッカー)教室でのスポーツボランティア
137	11月20日(土)~21日(日)	<キリン福祉財団助成事業>東北被災地ボランティアツアー(第43次隊)	岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア
138	11月21日(日)~12月24日(金)	法政フェア2021 オンライン(動画作成)	法政フェア(オンライン)で「HU コラボグッズ」の紹介動画の作成
139	11月22日(月)	空き家リノベx地域再生~空き家を生かした地域再生方法を考えよう~	空き家問題について講義を受けた後、空き家の利活用方法等を考える
140	11月22日(月)	バイタル・プロジェクトxVSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
141	11月24日(水)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会飯田橋駅ボランティア定例会①	東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会
142	11月27日(土)	石川県学生災害ボランティア講座	石川県の講座にチーム・オレンジが登壇し、防災啓発に関する活動説明を実施
143	11月27日(土)~28日(日)	<キリン福祉財団助成事業>東北被災地ボランティアツアー(第44次隊)	岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア
144	11月29日(月)	バイタル・プロジェクトxVSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
145	11月30日(火)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
146	12月4日(土)	ピネット学生スタッフ合同研修会	ピネット学生スタッフの合同研修会
147	12月4日(土)	KUG 体験会	KUG(帰宅困難者支援施設運営ゲーム)の体験
148	12月4日(土)・5日(日)	学生応援!お米の配付①	新型コロナウイルス感染症の影響で困窮する学生へお米の寄付をいただいた
149	12月5日(日)	福島被災地スタディツアー	福島の被災地等をめぐり学ぶツアー
150	12月6日(月)	バイタル・プロジェクトxVSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
151	12月8日(水)	外来魚駆除保全活動	千葉県我孫子市手賀沼での外来魚駆除活動
152	12月10日(金)	<キリン福祉財団助成事業>東北被災地ボランティアツアー事後報告会	東北被災地ボランティアツアーの報告およびふりかえり
153	12月13日(月)	バイタル・プロジェクトxVSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
154	12月15日(水)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
155	12月15日(水)	手話講座特別講演会	手話講座(入門編)の受講後、実際にろう者の通訳士の方の講義をいただいた
156	12月16日(木)	九段靖国通り地区清掃ボランティア	地域(千代田区)の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動
157	12月18日(土)	「大学・短大における学生ボランティア活動支援連絡会〜様々な危機と共存する時代に学生ボランティア活動支援をどう展開するか〜」	コロナ禍における大学ボランティアセンターの状況・課題・対応についての報告
158	12月18日(土)	阿佐ヶ谷ガヤガヤ食堂でのボランティア	子ども食堂でのボランティア活動
159	12月18日(土)	高円寺子ども食堂でのボランティア	高円寺子ども食堂でのボランティア活動
160	12月18日(土)	自由を生き抜く実践知大賞表彰式	VSPの活動が自由を生き抜く実践知大賞にノミネートされたため、表彰式に出席。今回は残念ながら受賞には至らず。
161	12月19日(日)	OluOlu CP サッカー(障がい児向けサッカー)教室	CP サッカー(障がい児向けサッカー)教室でのスポーツボランティア
162	12月20日(月)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会飯田橋駅ボランティア定例会②	東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会
163	12月20日(月)	バイタル・プロジェクトxVSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
164	12月20日(月)~24日(金)	学生応援!お米の配付②	新型コロナウイルス感染症の影響で困窮する学生へお米の寄付をいただいた
165	12月21日(火)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
166	12月27日(月)	バイタル・プロジェクトxVSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
167	1月12日(水)	外来魚駆除保全活動	千葉県我孫子市手賀沼での外来魚駆除活動
168	1月14日(金)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
169	1月15日(土)	高円寺子ども食堂でのボランティア	高円寺子ども食堂でのボランティア活動
170	1月17日(月)	バイタル・プロジェクトxVSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
171	1月20日(木)	九段靖国通り地区清掃ボランティア(本学で自主的に実施)	九段靖国通り地区清掃ボランティアが中止となったため本学独自で同地区の清掃活動を実施
172	1月24日(月)	バイタル・プロジェクトxVSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
173	1月27日(木)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
174	1月29日(土)	OluOlu CP サッカー(障がい児向けサッカー)教室	CP サッカー(障がい児向けサッカー)教室でのスポーツボランティア

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	大妻女子	東京家政学院	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麴町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	7							7	
VSP、ベイラー大学	Zoom	4							4	
VSP、NPO 法人アクセプションズ	市ヶ谷キャンパス	14	5						19	
NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、VSP	大内山校舎 Y405 教室、Zoom	29	8		13				50	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	1							1	
遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ	陸前高田市、大槌町	14							14	
チーム・オレンジ	-	-							0	動画作成のみ参加
VSP、NPO 法人すまいる	Zoom	20	4		2			2	28	
VSP、NPO 法人バイタル・プロジェクト	Zoom	3							3	
東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ	外濠校舎 523～526 会議室	8							8	
チーム・オレンジ（石川県内の大学生、一般県民の方々）	石川県地場産業振興センター、Zoom	8							8	
遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ	陸前高田市、大槌町	15							15	
VSP、NPO 法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP	外濠周辺、靖国、神楽坂周辺	7							7	
ピアネット加入団体（VSP、チーム・オレンジ）	Zoom	11							11	ボランティアセンターのスタッフのみ集計
チーム・オレンジ、伊藤マモル（法学部教授）	法政大学市ヶ谷キャンパス	5	合計 20 名						25	
福島県西会津町農業者の方々（千代田区社会福祉協議会経由）	市ヶ谷ボランティアセンター	200							200	
チーム・オレンジ	福島県内（田村市等）	39							39	
VSP、NPO 法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、手賀沼水生生物研究会、NEC 我孫子事業場担当者	千葉県我孫子市手賀沼四つ池	2							2	
チーム・オレンジ、麒麟福祉財団太田氏、遠野山・里・暮らしネットワーク田村氏	大内山校舎 Y501 教室、Zoom	26							26	
VSP、NPO 法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	8							8	
手話通訳士 高桐尊史氏、中野佐世子氏	大内山校舎 Y506 教室	32							32	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麴町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	3							3	
東京ボランティア・市民活動センター	Zoom	0							0	ボランティアセンター職員登壇
阿佐ヶ谷ガヤガヤ食堂	阿佐ヶ谷ガヤガヤ食堂	3							3	
高円寺子ども食堂	高円寺子ども食堂	2							2	
VSP、本学ブランディング推進チーム	法政大学市ヶ谷キャンパス	5							5	ボランティアセンターのスタッフのみ集計
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	1							1	
東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ	外濠校舎 523～526 会議室	11							11	
VSP、NPO 法人バイタル・プロジェクト	Zoom	1							1	
福島県西会津町農業者の方々（千代田区社会福祉協議会経由）	市ヶ谷ボランティアセンター	100							100	
VSP	外濠周辺、神楽坂周辺	8							8	
VSP、NPO 法人バイタル・プロジェクト	Zoom	1							1	
VSP、手賀沼水生生物研究会、NEC 我孫子事業場担当者	千葉県我孫子市手賀沼四つ池	2							2	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	6							6	
高円寺子ども食堂	高円寺子ども食堂	2							2	
VSP、NPO 法人バイタル・プロジェクト	対面、Zoom	3							3	
千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麴町警察署、九段商店街振興組合	靖国通り周辺、九段商店街	9							9	
VSP、NPO 法人バイタル・プロジェクト	Zoom	1							1	
VSP	外濠周辺、靖国、神楽坂周辺	11							11	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	2							2	

NO.	実施日	プログラム	概要
175	1月31日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
176	2月2日(水)	バイラー大学「お茶の時間」	バイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
177	2月6日(日)	OluOlu CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア
178	2月7日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
179	2月11日(金)	HAPPY VALENTINE 2022 法政大学×バイラー大学	バイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
180	2月14日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
181	2月16日(水)	外来魚駆除保全活動	千葉県我孫子市手賀沼での外来魚駆除活動
182	2月17日(木)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
183	2月19日(土)	高円寺子ども食堂でのボランティア	高円寺子ども食堂でのボランティア活動
184	2月21日(月)	HOSEI パラ五輪 きみもパラリンピアン!	パラスポーツについての知識を深め、その後実際にパラスポーツ(ゴールボール・ボッチャ・シッティングバレー)を体験する
185	2月21日(月)	3.11を再考する	東日本大震災から11年を迎えようとしている今、改めて地震・津波災害について学ぶ
186	2月21日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
187	2月22日(火)	九段靖国通り地区清掃ボランティア(本学で自主的に実施)	九段靖国通り地区清掃ボランティアが中止となったため本学独自で同地区の清掃活動を実施
188	2月24日(木)	フードロスヘキサゴン2～廃棄されてしまう食材を使った調理対決企画。私たちの工夫でロスを楽しく減らそう～	昨年11月に実施した「フードロスヘキサゴン企画」(講義編)の第2弾として、普段使わずに棄てられてしまう食材を使った「今日からできるフードロス対策」調理企画
189	2月25日(金)	バイラー大学「お茶の時間」	バイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
190	2月26日(土)	OluOlu CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室	CP サッカー (障がい児向けサッカー) 教室でのスポーツボランティア
191	2月28日(月)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動
192	2月28日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
193	3月2日(水)	バイラー大学「お茶の時間」	バイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
194	3月2日(水)～4日(金)	岩手・宮城被災地スタディツアー	震災学習、風化防止目的とし、岩手県・宮城県の被災地を巡るスタディツアー
195	3月5日(土)	災害救援ボランティア講座登壇(立教大学)	立教大学で実施された災害救援ボランティア講座の宮崎氏担当の講座でチーム・オレンジが15分程度活動の紹介を実施
196	3月7日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
197	3月14日(月)	東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会	学生スタッフによる東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会
198	3月14日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
199	3月15日(火)	エコキャップ回収ボランティア	外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア
200	3月17日(木)	九段靖国通り地区清掃ボランティア(本学で自主的に実施)	九段靖国通り地区清掃ボランティアが中止となったため本学独自で同地区の清掃活動を実施
201	3月21日(月)	足立区制90周年記念イベント「なぞときSDGs」	90周年記念イベントの運営補助
202	3月25日(金)	バイラー大学「お茶の時間」	バイラー大学の学生と日本語・英語を交えたオンライン交流会
203	3月28日(月)	もしもの体験をしてみよう～HUGと防災食体験会～	避難所運営ゲームを通して避難所運営を考える。防災食を食す体験をする。
204	3月28日(月)	バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援	オンラインで繋がる子どもの居場所づくりボランティア
205	3月30日(水)	キャンパス周辺清掃	VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンターの職員と行う外濠周辺の清掃活動

189 プログラムに延べ 2,496 名が参加

団体名、講師、協力先	場所	法政	共立女子	大妻女子	東京家政学院	明治	関西	三輪田学園	学生数合計	その他
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、バイラー大学	Zoom	4							4	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	2							2	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、バイラー大学	Zoom	20							20	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、手賀沼水生生物研究会、NEC 我孫子事業場担当者	千葉県我孫子市手賀沼四つ池	3							3	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	9							9	
高円寺子ども食堂	高円寺子ども食堂	2							2	
ゴールボール元日本代表主将 信澤用秀氏 ゴールボール国際審判員 小野和人氏、 VSP	富士見坂校舎体育館、富士見坂校舎 F407、F408 教室	33							33	
人間環境学部 杉戸信彦教授、チーム・オレンジ	大内山校舎 Y406 教室、Zoom	24	2			2	3		31	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP	靖国通り周辺、九段商店街	10							10	
VSP	千代田区役所神保町区民館(2F調理室)、大内山校舎4階Y404教室	19							19	
VSP、バイラー大学	Zoom	3							3	
OluOlu、VSP	品川区内のフットサルコート	1							1	
VSP	外濠周辺、靖国、神楽坂周辺	20							20	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	2							2	
VSP、バイラー大学	Zoom	1							1	
チーム・オレンジ	岩手県・宮城県の沿岸地域	-							0	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
チーム・オレンジ、防災教育コーディネーター 宮崎賢哉氏、災害救援ボランティア推進委員会	Zoom	5							5	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	3							3	
東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ、東京メトロ、日本ケアフィット共育機構	Zoom	17							17	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom、対面	3							3	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	10							10	
VSP	靖国通り周辺、九段商店街	15							15	
VSP、NPO法人アンドスプーン	シアター1010(北千住マルイ11階)	4							4	
VSP、バイラー大学	Zoom	2							2	
チーム・オレンジ	大内山校舎Y504教室	16							16	
VSP、NPO法人バイタル・プロジェクト	Zoom	4							4	
VSP	外濠校舎、富士見坂校舎	11							11	

1. エコキャップ回収ボランティア

1. 日程 2021年4月～2022年3月（毎月1回・全12回）

2. 場所 市ヶ谷キャンパス各校舎、ペットボトル回収場所

3. 概要

VSPが定例活動として、毎月1回行っているエコキャップ回収ボランティアは、昼休みの短い時間ながら、多くの学生が参加しました。学内で回収されるキャップは、無料で引き取ってくださる業者さんにお渡し、ポリオワクチンの材料などへと加工されます。昨年度からキャップを回収して数量などを記録することにしたため、回収量の変化を見る事ができ、参加者の活動に対する意識も変わったように思います。また、数名ずつ分かれたグループごとに簡単な「ジェスチャーゲーム」や「共通項探しゲーム」を行いながら回収を行うこととしたため、参加者同士の交流を持つことができました。VSPメンバーのさまざまな工夫によって魅力あるボランティア活動となったエコキャップ回収ボランティアを今後も継続していく予定です。

4. 学生参加者数 全12回合計122名

日程	参加者数	日程	参加者数
4月12日（月）	17名	10月11日（月）	10名
5月17日（月）	11名	11月15日（月）	6名
6月14日（月）	14名	12月15日（水）	8名
7月20日（火）	10名	1月14日（金）	6名
8月23日（月）	10名	2月17日（木）	9名
9月21日（火）	11名	3月15日（火）	10名

5. 運営学生の感想

この企画には毎回多くの人に参加いただきボランティアというものに触れるいい機会になってくれたと思います。僕自身もこの企画を通して多くの人と知り合い、貴重な経験ができました。この回収に参加していただいた方達だけではなく、回収箱にキャップを入れていただいた方達、このような場を提供して下さる大学に感謝したいと思います。

人間環境学部人間環境学科2年 徳橋 拓

6. 参加学生の感想

参加して良かったと感じました。参加したのが3月の春休み期間中で中々友人と交流できる機会がありませんが、参加したことによって新しい方と知り合うことができ、とても有意義な時間となりました。また、法政大学内でエコキャップ回収に協力的な方が多いのも驚きました。次のエコキャップ回収にも是非参加したいと思います。本当にありがとうございました。

文学部日本文学科1年 高橋 梨咲



キャンパス内のBOXからキャップを集める



回収したキャップを分別する作業

2. キャンパス周辺清掃ボランティア

1. 日時 2021年4月～2022年3月 基本は毎月1回休み

2. 場所 市ヶ谷キャンパス周辺
(大学周辺、神楽坂、靖国神社周辺)

3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフVSP主催。毎月1回、日程や清掃場所を決め清掃をしています。今年度から30分、60分両コースを設け、神楽坂や靖国神社周辺などキャンパスの周辺を知ることにも目的とした為、新型コロナウイルス感染症の影響で大学に来られない学生同士の交流という成果も得ることができました。学生スタッフVSPのメンバーが、アルコール消毒やビニール手袋の使用、少人数でのグループ分けなどの感染予防対策を施し、安心して活動することができました。

4. 学生参加者数 のべ158名

日程	参加者数	日程	参加者数
4月19日(月)	21名	10月20日(水)	17名
5月25日(火)	16名	11月30日(火)	7名
6月21日(月)	13名	12月21日(火)	8名
7月26日(月)	15名	1月27日(木)	11名
8月26日(木)	11名	2月28日(月)	20名
9月27日(月)	8名	3月30日(水)	11名

5. 参加学生の感想

草木の中、排水溝の溝蓋の間などといった人目につきにくい場所にも多くのゴミがあり驚きました。一緒に活動をした人と、なぜこの道にはたばこの吸い殻が多いのか、なぜマスクが捨てられているのかなどを話し合いながら活動しました。ゴミの種類から時期背景や道の利用者層などを考え、他の人と意見交換ができ楽しかったです。この活動は大学の周辺がきれいになるだけでなく新たな交流をすることができるので今後も参加していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部地理学科1年 小林 咲穂

清掃をすれば街が綺麗になることに加えて自分自身も気持ちが良いため、毎月参加させていただいています。街の人から「ご苦労様。ありがとうございます。」という言葉が掛けていただく機会が多く、自分の活動が誰かの役に立っているのだと実感することができ大変嬉しく思います。清掃活動はただゴミを拾って終わりではなく、参加者同士、学部学年問わずコミュニケーションをとることができ、キャンパスに通えていない人にとっても良い機会になっているのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科2年 飯村 美南



グループに分かれて地域を清掃



達成感でいっぱいになって全員で撮影

3. 九段・靖国通り地区清掃ボランティア

1. 日程 2021年4月～2022年3月（基本は毎月第3木曜日）

2. 場所 九段さくら館→靖国通り周辺→市ヶ谷駅周辺
→九段さくら館

3. 概要

毎月第3木曜日に、千代田区環境安全部および九段環境整備協議会（九段地区の町内会連合）、麹町警察署の職員、九段商店街、九段地域の小学校PTAの方々と共に、九段・靖国通り地区の清掃ボランティア・巡回パトロール活動に参加しています。新型コロナウイルス感染症の影響で例年より実施回数が少なかったですが、地域や警察署の方たちと話をしながらの清掃は、普段知らない大学周辺を知ることができ、学生にとっても楽しいボランティアとなっています。

4. 学生参加者数 のべ44名（4月～10月は中止、1月～3月についてはボランティアセンター主催で実施）

4. 学生参加者数 のべ44名

日程	参加者数
11月18日（木）	7名
12月16日（木）	3名
1月20日（木）	9名 （ボランティアセンター主催で実施）
2月22日（火）	10名 （ボランティアセンター主催で実施）
3月17日（木）	15名 （ボランティアセンター主催で実施）

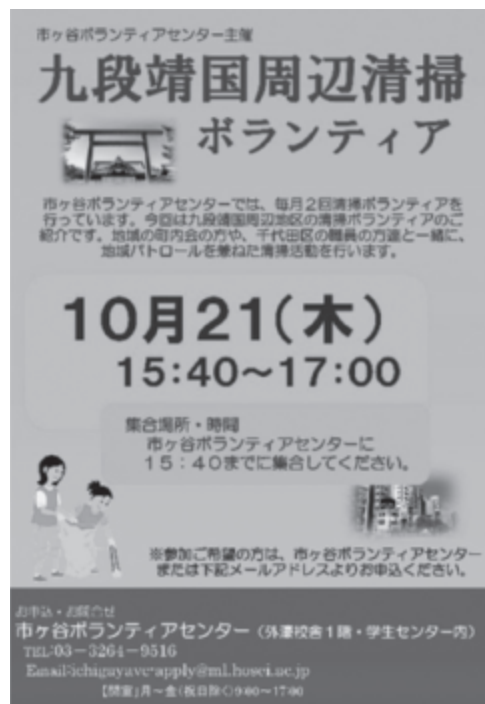
5. 参加学生の感想

当日は、地元の警察署の方々や地域の組合の方々、他学部の学生等と一緒に清掃を行いました。九段靖国周辺の歩道の真ん中はかなりきれいでしたが、意外と歩道の端の溝や街路樹の辺りにはちらほらとたばこの吸い殻や紙切れのようなものが落ちており、ポイ捨てを行う人の多くが、人の目に触れにくいような場所にごみを落としていくということがわかりました。また、清掃活動に参加された方々と一緒に和気あいあいと様々な会話を楽しみながら、街を散策できたことは、私にとってとても良い思い出になりました。

法学部法律学科4年 押方 弘晃

九段靖国周辺清掃には初めて参加したのですが、終始和やかな雰囲気でも楽しかったです。大学がある町なのでよく知っているつもりでしたが、まだまだ自分の知らない素敵な所がありました。他の学部や学年の人とお話するのは興味深く、いい交流の場になりました。また、地域の方々と関わることができるのは九段靖国周辺清掃ならではのようです。清掃が終わった後に警察の方のお話を聞き、今まで知らなかった防災知識を知ることができたのがよかったです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科1年 富島 祐菜



富士見町内を清掃する様子



地域のパトロールも兼ねている活動

4. 子ども食堂ボランティア

1. 日 程 2021年9月～2022年2月

2. 概 要

市ヶ谷ボランティアセンターでは地域の子ども食堂と連携し学生が子供食堂でボランティアができる体制を整えています。2021年度前半は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ボランティアを受け入れができない、子ども食堂自体が閉鎖している団体も多かったですが、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が発出されていない期間は人数制限や活動に内容に制限があるものの、ボランティアの受け入れをしてくださる団体があり、数名の学生に子ども食堂でのボランティア活動を案内することができました。

今後、状況がよくなり、コロナ禍以前の様に子どもたちの笑い声で賑わう子ども食堂を見ることが楽しみです。

市ヶ谷ボランティアセンターでは今後も地域の子供食堂と連携し子ども食堂でボランティアをしたい学生に対して活動の場を提供していきたいと考えております。

3. 2021年度学生の受け入れにご協力いただいた子供食堂とボランティア参加学生数

- ・高円寺子供食堂（杉並区） 3回合計 6名
- ・阿佐ヶ谷ガヤガヤ食堂（杉並区） 2回合計 6名
- ・すまいる食堂（神奈川県藤沢市） 1回合計 2名
- ・バイタルプロジェクト（荒川区） P27に別途報告書あり

4. 参加学生の感想

お弁当やお菓子、お米を詰めて手渡しをするフードパントリーの活動を通して、生活に困っている方々と実際に笑顔で話をでき、微力ではありますが、生活に困る方を支援する主催者様の活動の力になってとても嬉しかったです。よい時間を過ごせたと思っています。

法学部法律学科2年 笠松 遥香

「子ども食堂」は、主に社会福祉に関連して触れられる話題の一つであり、今まで私の周囲では肯定的な文脈で語られることが多かったのですが、今回このボランティアに参加したことで、ある種の批判的・客観的な視点を持つことができました。今回のような一日だけの参加であっても、食堂運営のための場所確保、お弁当・食糧の費用やその資金源、支援対象者との関係性など、様々な要素を踏まえた上で「子ども食堂」というシステムが成り立っているのだということが実感できました。今後、私が「子ども食堂」について言及する際には、机上の空論にならないように注意しなくてはならないという意識も芽生えました。とても有意義な経験になりました。参加の機会を設けて頂き、ありがとうございました。

文学部日本文学科1年 高橋 梨咲



フードパントリー（高円寺子ども食堂）



子ども達に配るお菓子の準備（阿佐ヶ谷ガヤガヤ食堂）

5. OluOlu CPサッカー (障がい児向けサッカー) 教室

1. 日程 2021年4月～2022年3月
2. 場所 品川区中央公園、大井町イトーヨーカドー屋上など
3. 概要

毎月1～2回(天候などにより異なる)品川区の公共施設でOluOluの方が運営を行っているCPサッカー・障がい児サッカー教室に参加しボランティアさせていただいております。

このサッカー教室は、脳性まひ、もしくは手足に何らかの障がいがあり、独歩ができる小・中学生、または、身体の障がいやダウン症、発達障害により運動が苦手、独歩ができる小・中学生がスポーツを楽しみ、心も体も笑顔になれる場を提供することを目的としています。私たちは理学療法士や児童の発達に関する有識者であるコーチの方々と共に子どもたちが安全に活動できるようサポートしたり、子どもたちと一緒に楽しんでサッカーしています。2021年度の活動は新型コロナウイルスの感染状況もふまえ、屋外での活動のみではなく、Zoomを用いたオンラインでの活動ということでお家の中でタオルや風船など使って身体を動かすなど屋内ならではの練習も行いました。サッカー教室のお手伝いを通して子ども達が心身共に成長していく姿を間近に感じることができます。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科3年 武田 大空

4. 学生参加者数 のべ 36 名

日程 (月1～2回実施)	参加人数 (延べ人数)	日程 (月1～2回実施)	参加人数 (延べ人数)
4月	4名	10月	2名
5月	4名	11月	1名
6月	5名	12月	1名
7月	7名	1月	2名
8月	4名	2月	3名
9月	3名	3月	0名

5. 参加学生の感想

私はもともとサッカーに関するボランティアに興味があり、この企画に参加しました。ただ、体が少し不自由な子になにか教えるという経験は今までなかったので、最初は緊張しました。ですが、いつも愉快的なOluOluさんの方々にアドバイス等もらいながら子供たちと関わることで、元気とエネルギーを毎回いただいて、帰ることができます。子供たちも元気よく喋ってくれるので僕達も楽しませて頂いています！これが継続的に続いていくと嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 杉山 裕都

スポーツを通じて身体の不自由な子どもたちのサポートができればいいなと思い、OluOluに参加させていただいています。初めは、子どもたちとのコミュニケーションの取り方やどこまで手助けしていいのかかわからず、自分自身があたふたしていました。しかし、回数を重ねるごとに距離を縮めることができ、また、サッカーの上達具合に驚きを感じています。月に2回という限られた時間しか一緒に居られないからこそ、子どもたちの成長に気付くことができているのだと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科2年 飯村 美南

6. NPO法人 OluOlu様より

「ボランティア活動」は、「私も社会のために何かできれば！」と思って始めることが多いと思います。もちろんそれをもって大切ですが、貴団体の学生さんはみんな口を揃えて、「私が元気をいっぱいもらっています！」と最高の笑顔で言ってくれます。そして、子どもたちに「一緒にやるうか。」ととてもさりげなく、優しく声がけをしてくれます。子どもたちを一生懸命に応援したいと思う気持ちがとてもストレートに伝わってきます。だからOluOluの子どもたちは、そんなお兄さんお姉さんが大好き！これからもいっぱい一緒にサッカーボールを蹴ってくれると嬉しいです。

NPO法人 OluOlu CPサッカー・障がい児サッカー教室 恩田雅子さん・ウォーク梨恵子さん

【OluOluについて】

HP <https://www.oluolusports.org/>

FB <https://www.facebook.com/oluolusports/>



チームに分かれてゲーム開始



声を掛け合ってボールを追う



すっかり仲良しのお兄さんになりました



参加者全員で集合写真

6. バイタル・プロジェクト×VSP オンライン居場所支援

1. 日程 2021年5月～2022年3月（毎週月曜日・全44回）

2. 場所 Zoom、吉まぐれ屋（荒川区）

3. 概要

新型コロナウイルス感染症拡大により、子ども食堂の運営が難しくなっている実態を受け、NPO 法人バイタルプロジェクトの協力のもと、昨年度から、オンライン上で子どもたちの居場所づくりに取り組んでいる。同時に、情報リテラシーの必要性の高まりに注目し、子どもたちに楽しみながらインターネットに触れてもらうことも目的とした。

毎週月曜日に Zoom を使用して子どもたちと「絵しりとり」「なぞなぞ」「ワードウルフ」などのゲームを取り入れた交流を行った。これらのゲームでは画面共有機能やチャット機能を活用し、子どもたちがオンラインツールに触れる機会を提供したり、子ども食堂で配られたお弁当を子どもたちにカメラ越しに紹介してもらうこともあった。また、今年度は他大学の学生とも協力して運営を行った。

感染拡大状況にに応じて、自宅などからのオンライン参加になったり、子ども食堂で現地参加することが可能になったり、形態はその時々で変化せざるを得なかったが、1年間を通して活動を継続することができた。感染状況に関わらず活動を継続できることがオンラインの利点であり、安定して子どもたちに居場所を提供できる点がオンライン居場所の必要性であると再認識した。

活動を続けていく中で子どもたちがオンラインツールの使用に慣れていく様子が見られ、初めて参加する人に、子どもたちが Zoom の機能の使い方を教えることもあった。

今後は、子どもたちが他者とコミュニケーションをとる機会をつくるために、この活動を継続していくことが第一の目標とし、ゲームでの交流だけでなく学びとなるような機会を提供し、他の子ども食堂と連携して事業を行ったりすることも目指したい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科1年 藤倉 まなみ

4. 学生参加者数 のべ107名

日程 (毎月4回程度実施)	参加人数 (延べ人数)	日程 (毎月4回程度実施)	参加人数 (延べ人数)
4月	12	10月	6
5月	15	11月	11
6月	11	12月	6
7月	6	1月	6
8月	11	2月	8
9月	5	3月	10

5. 企画学生の感想

毎回の活動ではクイズ、ワードウルフ、絵しりとりなどをし、子ども食堂の手伝いをしていた他大学の方たちとも交流することが出来た。オンライン居場所を通じて、子どもたちの居場所を作ることはもちろん、普段交流できないような他大学の人たちともコミュニケーションが取れ、私たちにとっても居場所にもなっているのだと感じた。今後は遊びに学びを取り入れるなど工夫をし、楽しく学べる場も提供していきたい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科1年 佐藤 莉乃

オンライン上でも、子供たちの居場所を作れないかという想いで始まった活動だったが、コロナ禍という状況の中で、想定以上の成果があったのではないかと感じた。また、協力してくださるバイタルさんがiPadやzoomの用意を十分にしてくださったため、とても良い環境で子供達と繋がる事ができた。今後も子供たちが、簡単に楽しくこの活動に参加できるように試行錯誤していきたい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 田中 みのり



オンラインで「絵しりとり」をする様子



毎回子ども達と楽しく交流した

7. ベイラー大学「お茶の時間」

1. 日程 2021年4月1日～4月23日、9月2日～11月18日、2022年2月2日～3月25日

2. 場所 Zoom

3. 概要

本企画は市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）による国際交流ボランティアです。ベイラー大学の授業期間中の週一回、日本語を学ばれているアメリカのベイラー大学の生徒さんと Zoom をつないでコミュニケーションを図りつつ、楽しく交流を深めていくものとなります。その名も「お茶の時間」ということで、グループに分かれて日本語を交えながら交流をし、時には日本語を教えてあげるなどしてアットホームな雰囲気のもと新たなつながりを構築することができます。

本企画の目的は2つで、1つ目は日本語を母国語としている人が参加することでベイラー大学の学生への刺激、2つ目は異文化のリアルな体験、以上の2つです。今年から西南学院大学、東北大学も加わり、より充実したプログラムを提供できた印象です。さらには今年から毎回一般学生も募り、一般学生がボランティアする「場」を提供したことも新たな試みでした。また、コロナ禍によってつながりの重要性が高まる中で、容易につながれるという点においては国際交流を身近に感じていただけるでしょう。企画メンバーだけでなく、ベイラー大学の先生方、ボランティアセンターの職員さんの協力も得ながら、成り立っているボランティアだと思えました。今後も継続的に続けていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 杉山裕都

4. 学生参加者数 のべ 55 名

日程 (毎月4回程度実施)	参加人数 (延べ人数)	日程 (毎月4回程度実施)	参加人数 (延べ人数)
4月	13	11月	11
9月	14	2月	7
10月	7	3月	3

5. 企画学生の感想

今年は、西南学院大学の国際交流団体 SGS をはじめとして多くの大学が「お茶の時間」に参加しました。ベイラー大学生がホストをした回では、施設紹介や部活動の様子などを通してベイラー大学と法政大学の学校生活の比較ができました。また、SGS がファシリテーターを担当した回では自分の趣味に関することや今行きたい観光地、自分の住む地域のおすすめの場所などについて話し、アメリカなどの国外のことはもちろん、九州や東北といった国内のことについても知ることができました。

前回のチームとは異なる形式でしたが、英語と日本語を交え楽しく交流をすることができました。より多くの学生に参加してもらえるように、引き続き企画、広い呼びかけを行ってまいります。 ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 太田 健介

6. 参加学生の感想

ベイラー大学、そして東北や九州の大学の学生とも交流し、名所を紹介してもらったことで、カテゴリーに縛られることなく、自分の知見を広げていける良い機会だと感じた。また、予め設定されたテーマ以外にも、参加者の言葉の節々や、Zoom 画面に映り込んでいるポスターや楽器などから、お互いの国の違いやその人自身を知ることができた。しかし、交流の中で各々が学んでいる言語で会話をし、齟齬が生まれる場面もあった。使用言語で時間を区切った上で、母語話者は学習者へのサポートに徹底すべきだとも感じた。

文学部日本文学科1年 高橋 梨咲



交流が深まるよう工夫して進行が行われた



西南学院大学など国内の大学との交流の場にもなった

8. 新入生歓迎祭

1. 日 程 2021年4月3日(土)～6日(火)

2. 場 所 外濠校舎

3. 概 要

4月3日(土)～6日(火)の期間で、各サークル、団体の新入生歓迎祭が開催されました。ボランティアセンター学生スタッフ VSP とチーム・オレンジもそれぞれブースを設け、新入生への説明、勧誘を行いました。新型コロナウイルス感染症予防のために、説明の人数や方法に制限があったため、見やすい掲示物を作成し、できるだけ分かりやすい説明を心掛けました。多くの新入生がサークル、団体のブースを熱心に回り、大学生活をスタートさせる意欲に溢れた様子でした。思うように課外活動ができず、どの団体も苦労しながらの新歓となりましたが、学生スタッフの努力の甲斐もあり、多くの入会希望者を獲得することができました。



VSPメンバーが説明する様子



チーム・オレンジは大きな掲示で活動を紹介した



VSP、チーム・オレンジ、メトロ各団体の紹介展示スペース



3団体の紹介をボードで学生センター前に設置

9. オンラインキャンパスツアー

1. 日程 2021年4月4日(日)

2. 場所 Zoom

3. 概要

新入生が安心して素敵な大学生活を送れるためのボランティアの一環として、コロナ禍により十分に訪れることのできないキャンパス内を案内しようと思い、本企画を実行しました。本企画は、Zoomを使用しオンラインでの開催にすることで、コロナの感染状況に左右されずに、安心して参加してもらえることと、カメラ・マイクオフ可での参加により、気楽に楽しんでもらえることも目的としました。

本企画はZoom内でルームを分け、それぞれのルームで企画者の解説と共にキャンパスツアーの動画やスライドの視聴を行いました。動画は市ヶ谷キャンパスの全校舎の説明や大学生活においてよく使う施設の紹介などで構成され、撮影・編集は全て企画学生が行いました。解説は堅苦しくせずに、知っておくと役立つ豆知識などを、ユーモアを交えながら紹介しました。長すぎない1時間という時間設定で行ったため、詳しく紹介しきれぬか懸念していましたが、参加者からのアンケート結果では好評であったため、しっかりとまとめられたのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 田中 みのり

4. 学生参加者数 36名

5. 参加学生の感想

勉強の事や人間関係など大学生活について様々な不安があった中、オンラインキャンパスツアーを開催していただいたことにより、施設に対する不安がなくなりました。また、大学の歴史を知れたり、施設の具体的な使い方やアドバイスなども聞けたのが良かったです。そして何より先輩方がとても優しく、大学へ行くのが楽しみになりました！

人間環境学部人間環境学科1年 佐藤 莉乃

私は対面授業が始まるに当たって、キャンパス内が分からないことが不安であったため、「オンラインキャンパスツアー」に参加させていただきました。このイベントでは実際にキャンパス内の映像を使って紹介していただいたため、対面授業が始まってからもキャンパス内で迷子にならずに済み、とても感謝しています。本当にありがとうございました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 田中 日奈子



お薦めのスポットを紹介



ルームに分かれ、楽しい雰囲気で行われた

10. ボランティア・KYOPRO説明会

1. 日程 2021年4月10日(土)

2. 場所 Zoom

3. 概要

ボランティアセンターに所属するVSP、チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアの3団体と課外教養プログラム(KYOPRO)を合わせた計4団体合同の説明会を実施した。新入生が自分に合う団体を見つけやすくするとともに今後の団体間でのつながりを促進することを目的として実施した。4団体合同のミーティングから生まれた企画で、コロナ禍でどのように新入生を獲得するかが主な議題となった。各団体がどのように活動を行ってきたかを共有したり、現2年生に新入生になったばかりの頃の経験を聞き、新入生にどのような支援が必要か話し合うことができた。

説明会は2部構成で実施し、前半は、学生団体について・各団体の概要、Zoom操作についての説明の後、新入生を4つのグループに分け、そのグループを説明者が順番に回っていくという方式で活動紹介を行った。少人数体制を作ることにより新入生が集中しやすい・質問しやすい環境を作ることが目的とした。また、新入生同士で顔を知っている人を増やすということも目的の一つである。新入生が比較しやすいように各団体の説明内容については統一した。ただスライドの方式などには特に規定を設けず、各団体の色が出るようにした。

後半は参加者がより団体のことを知れるように双方向的なものにした。各団体のブースをZoomのブレイクアウトルームに作り、各団体が順番に行う企画疑似体験ブースと各団体の個別相談ブースを作成した。団体への入会前と入会後のイメージの違いをなるべく小さくするために、企画疑似体験の内容は各団体に考えてもらい、それぞれの団体の色が出るようにした。また、それと並行して個別相談ブースを設け、新入生が前半で興味を持った団体により詳細に話を聞けるようにした。

今回の説明会はコロナ禍でオンラインツールを駆使した。難しいことも多かったが、各団体が話し合い、新入生のためにどんな説明会がいいのか模索できた。協力しながら足を止めずに前に進み続けられたことに大きな意味があると思う。今まであまりつながりがなかった団体についても知るきっかけとなったのではないかな。

ボランティアセンター学生スタッフVSP デザイン工学部建築学科3年 遠山 開

4. 学生参加者数 約140名

5. 企画学生の感想

私は、ボランティア説明会にて司会を担当しました。初めての試みで緊張しましたが、多くの方の支えのおかげで無事に成功することができました。今回の貴重な体験を様々な面で活かしていきたいと思いました。説明会を通して、ボランティアの魅力、それぞれの団体の魅力を多くの方々に最大限発揮し、伝えられたと感じます。今後の活動も、新たな仲間と一緒に助け合いながら精一杯頑張りたいです。

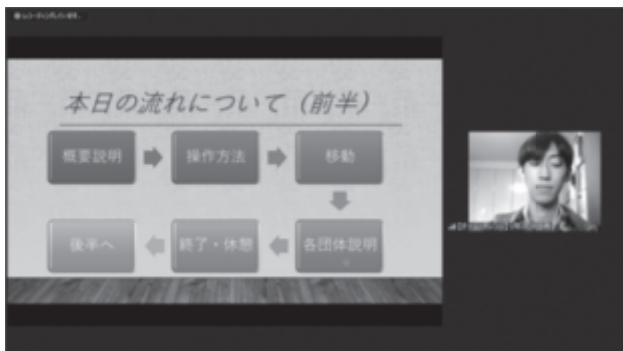
ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科2年 常盤 歩未

自分たちのことを、ボランティアの一団体として、知ってもらいたい良い機会になりました。企画疑似体験を通して、よりリアルな活動内容を理解していただけたと思います。企画疑似体験という試みはとてもユニークで、自分たちも楽しみながら企画を考えていました。他団体の具体的な活動内容を改めて知り、刺激を受けました。活動へのモチベーションにもつながり、参加して良かったと感じています。

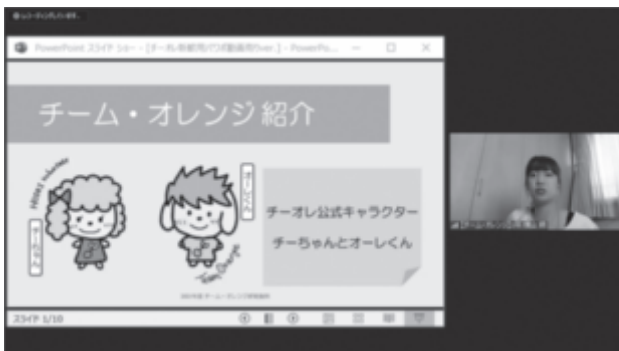
ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア 文学部哲学科3年 蒲生 幸穂

今年度の説明会では、100人を超える新入生及び2年生の方々が集まり、またKYOPROの模擬企画にも多くの方々が参加してくださいました。模擬企画において見学者の方が出してくださった意見にこちらも学ばせてもらえ、有意義な会となりました。最後にはなりますが、このような機会を設けてくださった学生センター職員の皆様や、他のボランティア団体の方々にお礼申し上げます。

課外教養プロジェクトプログラム市ヶ谷キャンパススタッフ 法学部国際政治学科2年 藤井 航一



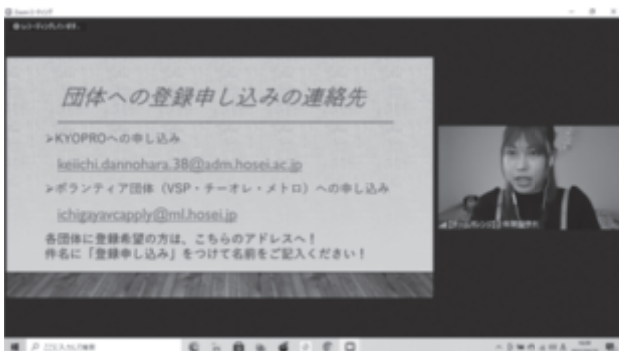
学生スタッフによる司会、進行



チーム・オレンジの活動紹介の様子



後半は活動疑似体験と個別相談が行われた



説明会終了後、各団体へ入会希望者があった

11. 令和3年度「麒麟・地域のちから応援事業」贈呈式

1. 日程 2021年4月13日(火)

2. 場所 Zoom

3. 概要

法政大学学生スタッフ「チーム・オレンジ」の主たる活動の1つである「東北被災地ボランティアツアー」の活動に対して、麒麟福祉財団より助成いただくことが決定、4月13日に開催された贈呈式に参加しました。

今回の贈呈式は新型コロナウイルス感染症の影響により、Zoomでの開催となりました。贈呈式には助成が決定した11団体18名が参加、冒頭ではキリングループの皆様よりお祝い及び激励の言葉、パートナーとして伴走しますという暖かい言葉をいただき、心強さを感じると共に身の引きしめる思いがしました。また、式では各団体ごとに贈呈文の授与、日ごろの活動報告や助成金の使い方や意気込みなども報告し合いました。各団体とも様々な思いから社会課題解決に向けて活動されており、活動領域は異なりますがとても良い刺激になりました。「チーム・オレンジ」からは代表の横山萌さんが出席し、贈呈文を受け取り、チーム・オレンジの活動や、「東北被災地ボランティアツアー」の説明、今後の意気込みなどを発表しました。

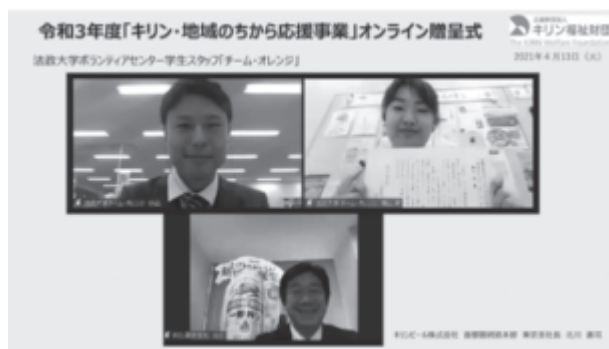
本助成をいただいた「東北被災地ボランティアツアー」については本年度8月に実施予定です。新型コロナウイルス感染症対策を万全に行い、助成金を有意義に使い実りあるボランティア活動を行いたいと思います。

4. 学生参加者数 1名

5. 参加学生の感想

麒麟福祉財団の贈呈式では、チーム・オレンジが10年という長きにわたり継続してきた、東日本大震災の復興支援活動や防災啓発活動を評価していただき、遠野ボランティアに対して助成金を頂けることになった。私たちの活動にご賛同頂いた麒麟福祉財団と、活動の歴史を築いてくださったチーム・オレンジの先輩方に感謝の意を表するとともに、今後も被災地域のコミュニティ支援を続けていき、学内外に防災の知見を広めていきたい。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 人間環境学部人間環境学科3年 横山 萌



麒麟福祉財団より贈呈文を受け取る



贈呈式に集まった11団体で記念撮影

12. オフラインキャンパスツアー

1. 日程 2021年4月17日(土)

2. 場所 Zoom

3. 概要

ボランティアセンター学生スタッフ VSP は、新歓企画としてオフラインキャンパスツアーを行った。本企画はキャンパスについて知ってもらうことはもちろん、オフラインで実行するという点を生かし参加者同士が交流することを目的とした。

参加者はキャンパスについてあまり知らない新入生だけでなく、昨年度がオンライン授業中心であったためキャンパスに行った経験がほとんどない2年生にも参加していただいた。

当日はオンラインキャンパスツアーの振り返りを生かし、キャンパス内を実際に回りながら説明するだけでなく、豆知識を交えながら紹介することでオフラインキャンパスツアーに参加してよかったと感じてもらえるよう努めた。

今回はコロナ禍での実施であったため参加者が定員に達するのか自信がなかったものの、当日はそれ以上の方に参加していただけて励みになり、また達成感も得られた。キャンパスツアーメンバー自身も打ち合わせの際などに、豆知識を共有したため、キャンパスについて再度詳しく知ることができとても良い経験となった。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部国際文化学科2年 山本 綾夏

4. 学生参加者数 19名

5. 参加学生の感想

校舎同士の連絡口の存在や食堂が3箇所もあること、知らないことばかりで驚きました。何より、大人数ではなく3つほどのグループに分かれてツアーをしていただいたことで、VSPの先輩方とも近い距離で話すことができ、普段の教室の使い方や過ごし方を聞くことができたのが楽しかったです。また、先頭に立って説明して下さった方が事前にしっかり調べて、一生懸命説明して下さる姿が嬉しかったし可愛かったです。ありがとうございました。

人間環境学部人間環境学科1年 田中 菜生

今回キャンパスツアーに参加したのは、キャンパスをしっかりとって4年間有効的に使っていきたいという理由からでした。1人で応募したためグループ行動での空気感がとても不安でしたが、先輩方がすぐに声をかけてくださり緊張せず過ごせました。

私の班は五味先輩がキャンパスの説明をして下さったのですが、学食のしくみや設備の説明、大学の歴史などたくさん教えて下さったおかげで、今では友達と一緒に活用させて頂いています。キャンパスツアー後に履修の相談も引き受けてくださり、とても助かりました。

国際文化学部国際文化学科1年 長尾 美紅



学食ではお薦めメニューを紹介



学習ステーションについて説明を聞く

13. なまずのクイズ学校（防災啓発）企画

1. 日程 2021年4月28日（水）

2. 場所 Zoom

3. 概要

4月28日（水）の12:35～13:05に防災知識を学べる5択クイズ形式のなまずの学校をオンラインで行いました。災害時に起こりうる状況を提示し、その問題を解決するために役立つであろう5つのアイテムを選択肢にあげ、最も適すると思うものを参加学生に選んでもらいました。その後、参加学生になぜそのアイテムを選んだのか理由を説明してもらい、意見を述べてもらいました。5択クイズに答える形式だったので、気軽に意見を述べる事ができた様子でした。最後に獲得した総合ポイントに応じてランクが与えられるので、ゲーム感覚で問題に取り組むことができたと思います。

またこの問題に不正解はなく、問題を解決するためにはどのようなものを用いてもいいですが、より効率的に、安全に解決するための知識を身につけてもらえたのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部法律学科3年 福田 桃子

【備考】

本企画で使用する「なまずのクイズ学校」は、「防災の楽しさを、世界中のみんなに。」を掲げるNPO法人プラス・アーツが作成した「なまずの学校」（下記URL参照）を基に、チーム・オレンジスタッフによって、答えの解説にチーム・オレンジが実際に活動した中で得た知識を交え、大学生がオンラインで楽しめるようにルールや形式を変更、修正したものとして実施した。

<https://plusarts.theshop.jp/items/11299756>

<https://www.kobe-sonae.jp/study/cat01/000133/>

4. 学生参加者数 10名

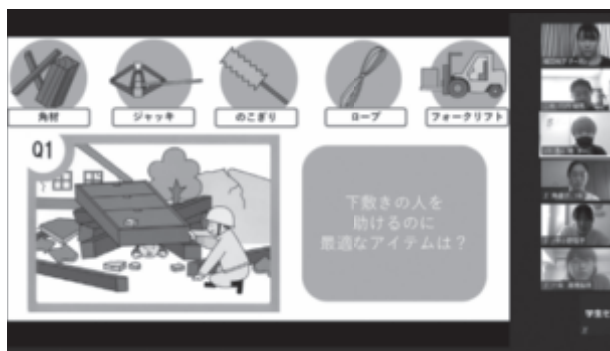
5. 参加学生の感想

今回初めてなまずの学校に参加しましたが、知らないことがたくさんあって、参考になることがとても多かったです。特に食料の問題ではレトルト食品や缶詰が良いと知ることができ、これから用意しておきたいと思います。他の問題も、その場にある材料でとか、人を傷つけないようになどと、その場の状況も考えて答えを考える必要があって、改めて防災を考えることは自分や周りの人を助けることにつながるのだと思いました。ありがとうございました。

経営学部経営戦略学科1年 小野 陸子

問題の難度や時間などもちょうど良く、楽しく参加させていただきました。また、説明も丁寧でわかりやすく、有意義な時間を過ごすことができました。一番よかったなと思うことは、間違えてもポイントがもらえることです。あまりマイナスな気持ちにならずに参加できるのでとてもいい方法だなと思いました。まだまだ知らないことがあることを再認識し、自分から勉強してみようという意欲がわきました。

文学部地理学科1年 角 優子



災害時に最も適すると思うものを各自選択



さまざまな意見を聞くことで視野が広がった

14. チーム・オレンジ HUコラボグッズ作成企画(紹介動画も作成)

1. 日時 2021年5月～11月
2021年11月21日(日)～12月24日(金)の「法政フェア2021」用にグッズ紹介動画も作成

2. 販売場所 法政大学生協同組合、外濠校舎1階セブンイレブン、一戸坂校舎1階法政グッズショップ、
法政大学オリジナルグッズショップ(ネットショップ)など

3. 概要

ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」が、5月から11月にかけて、被災地応援グッズとグッズ紹介動画を、株式会社エイチ・ユーと共同して作成しました。またプロモーション用の動画の作成も行ないました。今回作成した商品は4種類で、売り上げの一部は岩手・宮城・福島・熊本の被災地へ寄付されます。今年度は合計で19,354円を寄付することができました。

・ボトルスリーブ 1,430円(税込)

岩手県で活動されているハートニットさんとのコラボ商品で、法政大学の頭文字で「HU」のロゴが入ったデザインのスリーブを一つ一つ手作りで作っていただきました。

・えこびよんマスコット 1,375円(税込)

えこびよんがエイチ・ユーで販売されているパーカを着ており、しっぽの部分がオレンジになっています。誰でも手に取りやすいシンプルなデザインとなっています。

・えこびよんステンレスサーモボトル 1,650円(税込)

保温保冷に優れたステンレスサーモボトルです。災害時には飲料水がととても貴重です。コンパクトで持ち歩きやすいのでいざというときの備えになります。

・シャープペン&ボールペンセット 286円(税込)

法政大学のロゴの横にオレンジのマークと、えこびよんが描かれています。購入しやすい価格帯なので、誰でも復興支援に参加しやすくなっています。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ デザイン工学部都市環境デザイン工学科3年 阿部 花奈子

4. 学生参加者数 4名

5. 企画学生の感想

自分たちが考えたアイデアが、さまざまな方の協力によって、商品になるという経験は中々できることではないと思います。何度も話し合いを重ね、大変なこともありましたがとてもやりがいのある活動でした。グッズをきっかけに一人でも多くの方が、チームオレンジの活動や、被災地について、防災について興味を持ってくれたら嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部英文学科 1年 鈴木 陽凪



えこびよんマスコット



えこびよんステンレスサーモボトル

15. コミュニティ広場にこまるのぼりデザイン作成企画

1. 日程 2021年5月11日(火)

2. 場所 Zoom

3. 概要

埼玉県で地域の食堂を運営されているコミュニティ広場にこまるさんの“のぼり”デザインを作成しました。VSPでは2020年11月よりオンラインで出来るにこまるさんのお手伝いをしています。以前はWebサイト作成を手伝い、現在もメンテナンスのサポートをしています。今回の企画は、サイト作成中の打ち合わせの際や、現地訪問の折に「食堂実施日やイベントで用いるのぼりが欲しい」と仰っていたことを受けてスタートしました。

のぼりのデザインを考える際は、限られた面積でにこまるさんの雰囲気や伝えること、通りすがりの方が一眼で食堂だと分かるようにすること、景観との相性から見えやすい色合いにすること、他の食堂と差別化すること…沢山のことを考慮する必要がありました。様々な切り口からメンバーとデザインを考えていき、最終的には計17個の案を作成しました。にこまる代表の高橋さんとは、必要な情報や雰囲気に関するご要望からデザイン要素の細かい点までメールで何度もやりとりをし、確認し合いました。Zoomで行ったデザイン最終チェックでも、最後の最後まで色の微調整を行い、オンラインでありながら“一緒に”のぼりデザインを完成させることができました。

前回のWebサイト作成企画に引き続き、オンライン化について行けず悩まれている地域の食堂と、オンラインやデザインに関する知識・スキルが豊富な大学生が助け合いながら活動するスタイルを発展させることができたと感じています。これからも既存の枠に囚われないボランティアを立案・実施し、新しい助け合いの関係を生んでいきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部心理学科3年 青木 怜奈

4. 学生参加者数 4名

5. 企画学生の感想

前回のWebサイト作成に引き続き、にこまるさんのお手伝いをさせていただきました。Webサイトでものぼりでも、デザインを作成するにはやはりパソコンを使用する必要があります。そのため、“オンライン世代”ともいえる大学生の得意分野を活かすことができたと感じます。にこまるさんや他の地域食堂だけでなく、オンライン化に対応しきれていない施設はたくさんあるはずです。そういった施設に向けた、SNSでの発信やオンラインツールを用いたボランティアなど現代の大学生ならではの手助けがあると考えます。模索しながら提案・実施していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科3年 富岡 凜

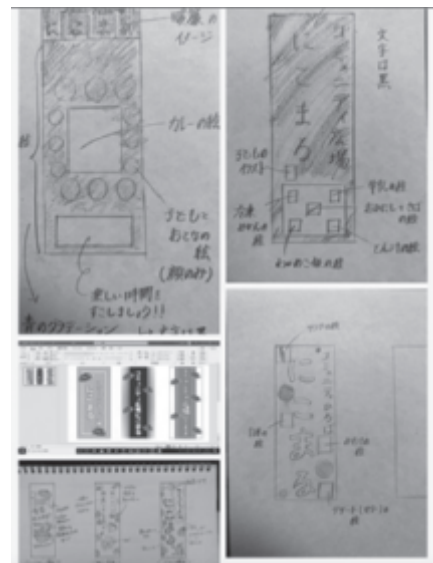
コミュニティ広場にこまるさんからWebサイト作成の延長で、のぼりデザインの話を受け「飯村美南と言ったら〇〇」というものができたらいいな」と思ったため、「本企画に参加すれば“デザイン”が自分の得意分野になるかもしれない」と思い、携わらせていただきました。

作成にあたり、「代表である高橋さんの雰囲気にあったのぼりができたらいいな」と考えていたのですが、お会いすることができませんでした。そのため、以前から交流があったメンバーから、高橋さんの雰囲気や人柄、活動についてレクチャーしてもらった内容を基に作成するという形になりました。どの色を使えば目立つのか、団体の色を表すことができるのは何色なのか、作成したのぼりを誰に見てもらいたいのか、など考えなければいけないことが沢山あり、デザインの難しさに直面しました。本企画を通して、デザインのことだけでなく、子ども食堂や地域食堂の抱える問題点や活動内容についても自ら調べ深く考えることができ、企画に携われたからこそ新たな知識を得ることができたのだと思います。今後も、私たちに何かできることはないか常に考えていきたいと思っています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP
法学部法律学科2年 飯村 美南



完成したのぼりデザイン



メンバーの作成したデザイン案

16. はじめの1歩カフェ ～防災啓発編～

1. 日程 2021年5月12日(水)

2. 場所 Zoom

3. 概要

○企画を起こした推移

今年は東日本大震災から10年ということもあり、同じような地震が起きたらどのように行動すれば良いか、同じ失敗を繰り返さないためにも、防災について考え直すきっかけ作りが重要なのではないかと考えたことが発端です。「硬い」「真面目な」イメージの社会問題やボランティアについて友達とカフェでお喋りする感覚でラフに考え・話し・行動する「はじめの1歩カフェ」を活用し、学生たちが防災について見直すことを目的に、VSPとチーム・オレンジ合同で企画を行いました。

○企画当日までの準備

3月の初めの会議で「防災啓発」の詳細テーマについての案だしを行いました。決まったテーマは、「大震災を知らない世代にどのように伝えるか」「大震災が起こった時、自分とその周りの人が助けるためにできること」「災害への対策 備えておくべきものは？」の3つです。それぞれの担当決めも行き、当日のスケジュール決めなども行っていきました。事前資料を参加学生に事前に配布し、気になるテーマを1つに絞ってもらい、4、5人という少人数制で実施していく方向性を決めました。企画を実施するまでに広報用のポスター、参加申し込みフォーム、事前資料、アンケートも作成しました。2週間に1回程度ミーティングを実施し、各自確認、意見交換、役割分担、注意点、当日の流れの確認、最終確認としてリハーサルを行いました。

○当日の様子

- 12:20 資料スライド
- 12:25 はじめのあいさつ
- 12:30 ブレイクアウトルームにて自己紹介(積み木アイスブレイク)
- 12:35 ディスカッション開始
- 12:50 メインルームにて各グループの意見共有
- 12:55 はじめの1歩書く
- 12:57 指名して各テーマ1人はじめの1歩共有してもらう
- 13:00 写真撮影
- 13:01 各SNSのQRコード共有、アンケートのお願い、終了

○反省点・良かった点

反省点：時間が足りなく、1人に任せていたタイムキーパー力が弱かった点です。またグループにより、ファシリテーションの人と参加者が一人一人話す形式になっていたり、カフェ感があるところとそうでないところがありました。対面でないと温度が感じにくい部分もあり、テーマをもっと詳細にしても良かったのではと感じました。

良かった点：詳細テーマを決め事前資料を配布したことで予備知識があった点と、ブレイクアウトルームの少人数制で討論でき、話しやすい雰囲気を作ることができたのは良かったです。アンケートで参加者の声を聞くことができましたが、「防災啓発」への意識が変わり、何か率先して行いたいと思った人や、またこのような企画に参加したいと感じる方々が多く、企画を実施して良かったと思います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科2年 常盤 歩未



4. 学生参加者数 21名

5. 企画学生の感想

はじめの1歩カフェ防災啓発編に参加して、防災について多角的に考える事ができるようになりました。参加者の中には実際に被災地に行った事がある人もない人もいて、それぞれの面から震災を後世に伝える意味や伝え方について考える事ができました。自分とは違う経験をしてきた方、自分とは違う世代の方のお話を通して、今までの自分にはなかった視点を心得る事ができ、とてもよかったです。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ デザイン工学部建築学科3年 遠山 開

今回私は資料作りと当日の話し合い場面のファシリテーターとして活動しましたが、やはり全体として時間的制約が強く感じられました。もっとスムーズに話し合い部分までつなげられると、より深い話を短い時間の中でできるのではないかと思います。また、自分の進行がカフェの感覚にならず、企画としての一面を強く出す形になってしまったので、オンラインの場でのリラックスした雰囲気づくりの難しさを改めて感じました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部政治学科2年 河井 悠希

6. 参加学生の感想

「災害は防ぐことはできないが、備えることができる」ということを強く感じた。

私は、今回参加するまでは、防災啓発とは単に防災グッズを揃えたり、避難場所を確認しておくことだと思っていた。しかし、それだけではなく、実際に災害が起きたらどういう状況になるのか、どう困るのかということまで考えてこそ防災啓発だと感じている。また、こうしたことを自分だけ知っていてもダメで、家族をはじめ地域のすべての人にこうした意識が備わっている必要があると思った。

法学部法律学科1年 村石 果奈

私が参加したのは災害への備えについて話し合う場所でした。その中で挙げられた意見には私がこれまで思いつかなかったものも多くあったのでとても勉強になりました。例えば、非常食として缶詰などを準備することは有名ですが、その他に日持ちして栄養価の高いものとして羊羹が紹介されていました。このように他者の意見を聞くことは自分の見解を広める上でとても役立つので、今後もこのような機会があれば参加したいと思いました。

文学部史学科3年 菅原 遼平



VSP とチーム・オレンジ合同企画となった



震災を今に伝える事の意義を問う



自分なりの「はじめの1歩」を紹介



新入職員も熱心に聞き入った

17.【東京2020応援プログラム】

チーム対抗！運動しながら素敵な街に！

1. 日程 2021年5月15日（土）
2. 場所 神楽坂、靖国神社、靖国通り、東京大神宮付近、
大内山校舎5階 Y504 教室

3. 概要

VSPが行っている定例活動の清掃では昼休みの限られた時間での活動であったため拾えるゴミに限られてしまったり、狭い範囲での清掃になってしまったりという問題がありました。また、コロナ禍で外出が減り、体を動かす機会や人と会って交流できる機会も減少していました。そこで、掃除をしながら体を動かすことができるよう今回の企画を実施しました。

先の問題を解決するためにエリアを5つに分け、それぞれを広範囲に設定したり、1時間という時間制限がある中で時間内に戻らなければ減点というルールを作りました。グループ分けでは、初対面の人も多いのでこの企画後も交流を続けてもらいたいと考え、同じキャンパスや学部の人を同じグループにするという工夫をしました。他にも、よりこの企画を楽しんでもらうためにクイズをしたり、拾ったゴミに応じてつけた得点を競ったりというゲームの要素を加えることで、あらゆる学生を巻き込んだボランティアができたと思います。

企画当日は時間制限により最後は走って学校に戻ったのでとても良い運動になり、実際に参加者の方からも「久しぶりに汗をかけた」などの声や、「初対面だったけれど仲良くなれて楽しく参加できた」という声も聞きました。この企画ではスポーツやゲーム要素も加えたことでボランティアのハードルの高さや堅いイメージを払拭できたと感じています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科2年 松村 百紗

4. 学生参加者数 27名

5. 企画学生の感想

普段歩いている道であんなにたくさんのゴミがあることに気づいていなかったのに少し恐怖を感じた。これから道を歩いているときにゴミが落ちてくるのに気づいたら無視出来なくなると思う。今回、VSPに入ってはじめて企画に参加して、同じVSPの仲間だけではなく、今回のスポゴミに参加してくれた人たちとうまく交流することができたと思う。本当に今回は参加して良かったと思う。せっかくこのVSPに入ったからには色々な企画に積極的に関わっていきたくて考えている。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部建築学科2年 車田 瑛紀

僕は、ボランティアは『自分がやりたいからやる』ということが1番大切だと思います。それは楽しいからでもいいと思うし、自分の経験になるからでもいいと思います。今回は、自分が楽しみたいとの思いで参加しました。そのため、今までの企画の中でもどうしたらより楽しくなるかに自分の中では重きを置いた企画でした。その甲斐もあってか、当日参加して下さった方たちの楽しむ姿を見ることができました。ボランティアをする理由なんて何でもいいと思うし、大規模なボランティアやまだ自分が会ったことない人へのボランティアでなくても、小規模なボランティアや自分と接しているものに対するボランティアでも良いと思います。それらが連鎖しあってより良い社会になっていくと思っているからです。そのことがこの企画を通して参加者に少しでも伝わったのなら嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科3年 川上 健太

6. 参加学生の感想

初めは軽い気持ちで参加したボランティアだったが、地域の方々に感謝され、汗をかいて活動するうちにとってもやり甲斐を感じました。ゴミ拾いという一見お堅いイメージのある活動だと思っていましたが、スポーツゴミ拾い大会というユーモアのある形で行ったことで非常に積極的に参加することが出来ました。また、自分自身も街を綺麗にするためにゴミのポイ捨てや環境保全という視点から生活するようになりました。今回のスポーツゴミ拾いに参加して本当に良かったと思いました。企画していただいた方々、ありがとうございました。

経済学部経済学科2年 橋本 悠史

今回の清掃活動を通して、街中のゴミは、人の心の健やかさを促進するより良い環境づくりという面で、減らしていくべきものだと実感しました。海洋プラスチックのような、生態系に多大な影響のある問題とは少々異なっていたようです。実際に、清掃活動をしていて地域の方に励ましのお声をいただいたことを思えば、「素敵な街に！」という方向へ少しずつですが動けていたのではないのでしょうか。私たちが行えたことは僅かではありましたが、今回のように楽しみながら行えたり、交流が生まれたりする企画を通して、多くの人がボランティア活動に興味を持ち、大きな力となってくれたらと思います。

人間環境学部人間環境学科1年 川島 大和





各チームのゴミのポイントを計算する



回収したゴミをもとに地域の特徴を話し合う



市ヶ谷キャンパス中庭がゴール



ゴミ回収後、全員で集合写真

18. 【東京2020応援プログラム】 3.11つながるゼミ～10年経った被災地をオンラインで学ぼう～

1. 日程 2021年5月29日(土)

2. 場所 Zoom

3. 概要

被災地支援と防災啓発活動を行っているチーム・オレンジが、東日本大震災の被災地である岩手県大槌町の文化交流センター「おしゃっち」とZoomで繋ぎ、現地でガイドをなさっている神谷氏から震災についての講義をして頂き、その後参加者からの質問に答えていただきました。また、事前に東日本大震災の概要について調べ、参加者に向けて発表する時間も設けました。

このプログラムを行った趣旨は以下の三つです。

- ① チーム・オレンジの企画の中で被災地と関わる内容のものが4～7月にないため、この期間でも被災地と関われるようにするため。
- ② 現地の方から直接お話を聞くことで、知らなかったことを知る機会になり、一般参加者やチーム・オレンジ内で被災地に行ったことがない人たちに実際に現地まで足を運んでもらうきっかけにするため。
- ③ 今年度からチーム・オレンジに入ってくれた1、2年生に、会議に参加したり被災地について調べてもらったりすることで、企画の進め方を知ったり被災地について学んでもらうため。

今回の3.11つながるゼミは初回ということもあり、いくつかの場面で手際や事前の確認不足がありました。事後の反省会でそれらを全員で確認したので、次回以降はそのようなことがないように、スケジュールにも余裕を持ちながら改善していけたら良いと考えています。

・当日の詳細なスケジュール

・13:00、プログラム開始、運営側からの挨拶（ボランティアセンター小山さん、チーム・オレンジ代表横山）

・13:05、動画の再生による、チーム・オレンジの紹介

チーム・オレンジのメンバーが作成した、約3分の紹介動画を再生。

これまでのチーム・オレンジの活動と今後の活動予定が含まれている内容となった。

・13:10、東日本大震災の概要説明を開始

震災によって大きな被害を受けた東北3県と、液状化などの被害があった関東地方の合計4つに分けて、それぞれについて被害の概要を説明した。PowerPoint49枚となった発表資料だった。

・13:30、神谷氏による講和

大槌町のおしゃっちと繋ぎ、神谷氏に講和をして頂いた。おしゃっちの外から街の様子についてのお話の後、おしゃっち内から資料を使いながら大槌町を中心とした震災についてのお話、という流れだった。

・14:10、参加者と神谷氏による質疑応答

チーム・オレンジのメンバーから事前に募集していた質問に加え、一般参加者からのその場での質問にもそれぞれ神谷氏に答えて頂いた。

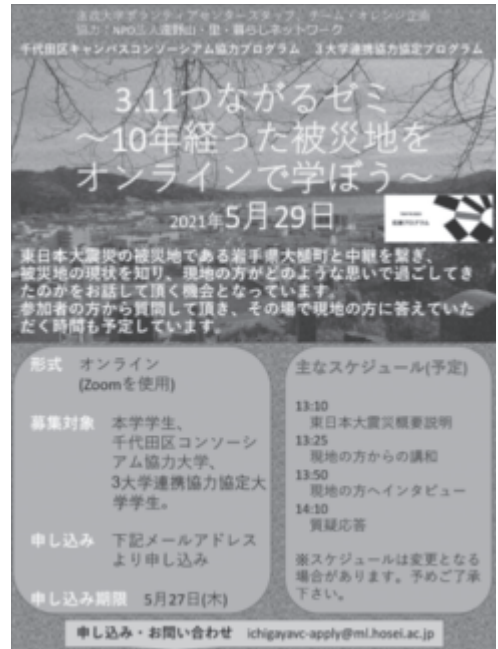
・14:30頃、プログラム終了

GoogleフォームのURLでアンケートを共有し、それに答えてもらった人からZoomのルームを退室してもらうという流れで、今回のプログラムは終了した。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ デザイン工学部都市環境デザイン工学科3年 島田 知樹

協力：・NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク様

・一般社団法人おらが大槌夢広場代表理事、神谷未生氏



4. 学生参加者数 71名

5. 参加学生の感想

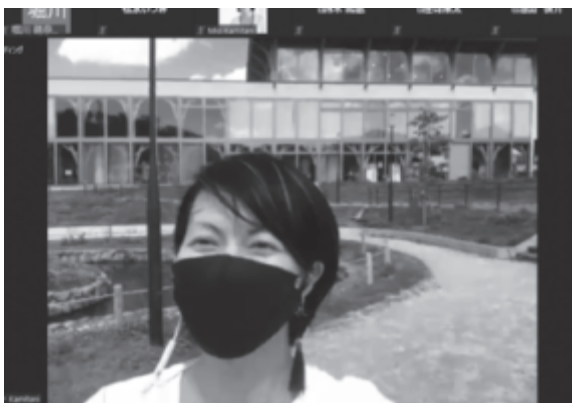
- ・とてもスムーズな進行で、多くの考えるきっかけとなるお話をいただきました。有難うございました。
「支援」という言葉は、やはりどこか一方的なものを含んでいるのだな、と今回の講話を聴いて感じました。服の送り届けなど、こちらの考える「支援」は相手にとっての「ありがた迷惑」になっていないか、もう一度深く考える必要があるのではないかと強く感じました。神谷さんの仰る復興は、おそらく地域や属性を超えた「共有と理解」にその核があるのではないかと思います。支援する、されるの関係ではなく、対等な関係で、一緒に進んでいく姿勢でありたいと心から思います。
- ・僕は将来、公務員として農山漁村の地域づくりに参画したいと考えているのですが、日頃の行政内でのコミュニケーション不足や判断の遅さなど耳が痛くなるようなご指摘を聞いて、自分は有事に責任をもってより早く決断する・させられるような人材になりたいと思いました。また物資の分配における女性の必要性も同時に感じたところです。
僕は男子中高出身ということもあり、もし有事の際に物資分配を任されても女性の側に立った支援や適切な物資の分配ができないなどお話を聞く中で思いました。また男性からすると「触れてはいけない事柄」というイメージがあるものなので、避難所や役所における女性管理職・女性のリーダーの存在の重要性を改めて認識させていただきました。
- ・この企画を通して、震災の残酷さを知り、被災者の方々がどんな気持ちなのかを感じることができました。今まで自分は本当に表面の部分しか理解していなかったのだとわかりました。この企画に参加し、東日本大震災への意識が変わりました。今度、被災地を訪れてみたいと思います。この企画を考えていただき、ありがとうございました。



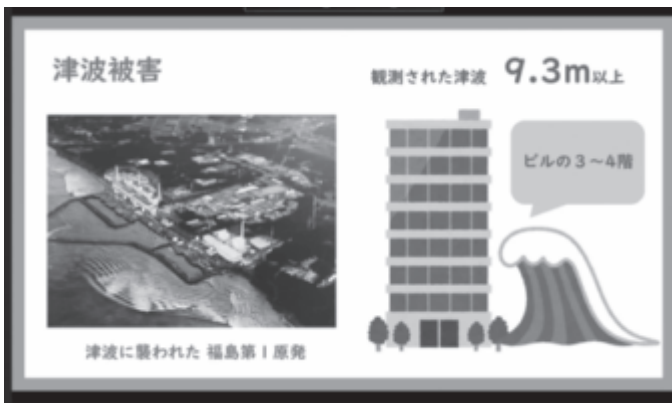
司会進行を務めたチーム・オレンジメンバー



学内外から多くの参加者が集まった



地域交流施設おしゃっから神谷さんの中継



チーム・オレンジ作成の関連資料

19.【東京2020応援プログラム】インクルーシブデザイン講座

1. 日時 2021年6月7日(月)
2. 場所 Zoom、対面(外濠校舎5階523会議室)

3. 概要

2020年に開催予定であった東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、大会組織委員会は、障がいの有無に関わらず、すべての人々にとってアクセシブルでインクルーシブな大会となるような様々な取り組みを推進してきました。本学においても、その取り組みを理解し、相互の人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に貢献できるようにという意図で、2016年に発足したこの企画を、(株)インクルーシブデザイン・ソリューションズの高山希氏を講師に、また一般社団法人日本ダイバーシティ推進協会理事である久保博揮氏をリードユーザのゲストとして招き、対面とオンライン(Zoom)のハイフレックス型で実施しました。

講義に続き、買い物をする際の一連の動きに伴う心情(快、不快)を線グラフに表し、今まで気付いていなかった不便さを発見するミニワークショップを行いました。久保氏との質疑応答からは、リードユーザの方の意見を取り入れることの重要性を感じる事ができました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科2年 伊東 菜鈴

4. 学生参加者数 35名

5. 企画学生の感想

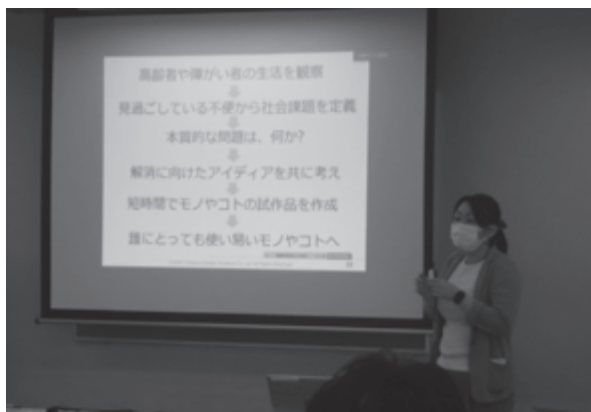
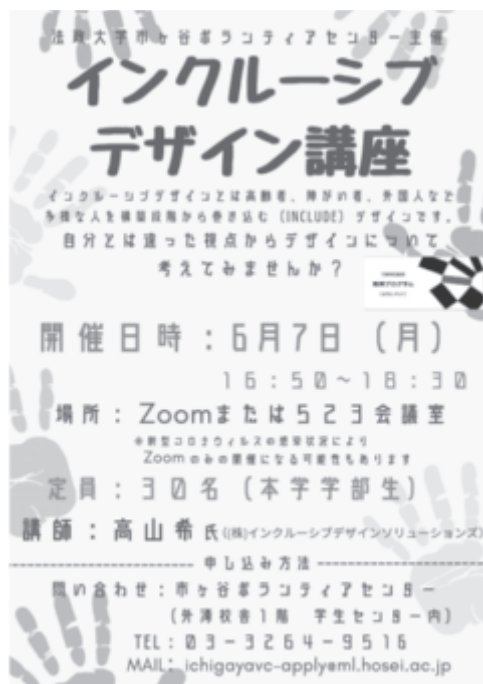
ハイフレックス型でオンライン参加者に声が伝わらなかったり共有画面がうまく表示されなかったりといくつかトラブルあった際に、私はうまく対処できず職員さんに任せっきりになってしまった。しかし、参加者に意識が高い学生が多く質問が絶えなかったことや参加者の満足度が高かったことは良い成果だと思った。また、この講座を通して障がいのある方とオンライン上でお話しできたこと、商品開発について知れたことで物事を新たな視点から考え直すきっかけになり、勉強になった。遠くにお住まいの方の話が聞けることやオンラインという選択肢があることで学生が気軽に参加できることはハイフレックス型の良い点だと思う。この企画での課題と成果を今後活かせるように頑張りたい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科1年 守 綾乃

6. 参加学生の感想

生活に不便を感じている一部の人の声を聞くことが、その他大勢の便利にも繋がる、というインクルーシブデザインの普遍性を教えて頂きました。それがインクルーシブな取り組みに対して親近感を持っていなかった私も、自分事化するきっかけになったと思います。お話しして頂いた久保さんのアクティブさには驚きました。「目が見えないという特性」と仰っていたように全盲であることを悲観することなく、むしろ強みとして能動的に社会に関わっている姿に、多様性が尊重された社会のあり方を見ることができました。

人間環境学部人間環境学科1年



インクルーシブデザインについての講義



行動に伴う心情をグラフにするワーク

20. 誰かじゃなくみんなが生きやすい社会とは？

～ダウン症のある人とのかわりから共生社会を考えよう～(第2弾)

1. 日程 2021年6月15日(火)

2. 場所 Zoom

3. 概要

ダウン症のある子どもが生まれる確率は約1,000人に1人とされており、この数は決して少なくはないが、現在の社会はダウン症への理解が進んでいるとは言い難いと感じています。そのことについて問題意識を持ち、昨年12月15日にはダウン症から共生社会について学ぶ講義形式の企画「誰か」じゃなく「みんな」が生きやすい社会とは？」を実施しました。そして、さらに共生社会について理解を深め、実践していくためには、実際にダウン症のある方と直接コミュニケーションを取ることが大切だと感じました。そのため、今回はダウン症から共生社会を考える企画の2回目として、新型コロナウイルス感染症の影響も考慮し、オンライン上でダウン症のある方とコミュニケーションを取り、共生社会への理解と実践に一步近づくことを目的としました。

本企画の前半では、NPO法人アクセプションズさんよりダウン症のある方とのコミュニケーションについて説明していただいた後、3・4人のグループに分かれ、オンライン上で実際にダウン症のある方とお話をしました。後半は、共有の時間とし、コミュニケーションを取る中で考え感じたことを共有しながら、共生社会にはどんな意識が必要か、実現に向けてどのようなことができるかなどを議論し、共生社会実現に向けて学びを深めることができました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部英文学科1年 菅原 光里

4. 学生参加者数 25名

5. 企画学生の感想

第2弾として今回もオンラインで実施した当企画は、100分という時間があっという間に感じるほどこれまでにない達成感を経験しました。参加者が口を揃えて「楽しかった」と感想を述べてくれたこと、また、ただ楽しかっただけではなく「障がいは境界線が引けないと思った」「ダウン症としてではなく個人としてみることの大切さに気付いた」等、企画の目的を達成できたと受け取れる感想も共有してもらい、学生達にとって貴重な学びの場になったという事を実感しました。各班に分かれて少人数で交流した際は、「もうお別れの寂しい」という言葉が飛び交うほど、互いに充実した時間を過ごすことができました。このように満足度高く、企画を成功に収めることが出来たのは、ダウン症のある参加者の方々を持つ人柄、ユーモアさといった力が大きいと気づきました。メインルームで見た参加者全員の表情が明るく、楽しそうな様子が画面上で伝わってきた時の感動は今でも忘れられません。次回は第3弾として可能な限り対面でイベントを開催し、より多くの学生達に考えるきっかけとなるような内容を考案していきたいと思っています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 宇野 瑠奈

コロナ禍での企画実施となり、当初の予定であった対面で企画を行うことは叶いませんでした。第1弾の企画内容やアンケート結果、振り返り会などを踏まえて、ダウン症のある方と実際に会って交流してみたいという思いがあり今回の企画を立案したため、はじめは非常に残念に思っていました。しかしながら、私たち企画立案者だけでなく、参加学生やアクセプションズからの参加者の方からも、「楽しかった」や、「もっと話したかった」などのお声をたくさんいただきました。企画実施までのミーティングもオンラインで実施し、不安なこともありましたが、参加いただいた人にとって深い学びの場となり、安心しました。オンライン上ではありましたが、ダウン症のある方と交流できて楽しかっただけでなく、ダウン症をはじめとする障がいのある方をより身近に感じること、先入観を少しでも取り払うことなど、たくさんの気づきを得ることができたと思います。

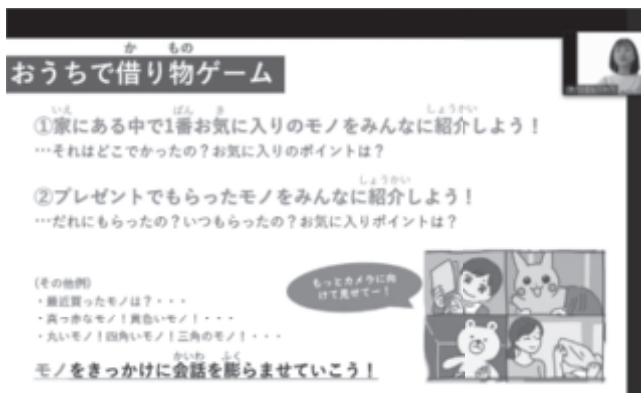
第3弾の企画を実施できるのであれば、今回叶わなかった対面での開催を目指し、より多くの学生に障がいのある方に対して他人事としてとらえるのではなく自分事としてとらえられるような企画を立案していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 高師 桜子



6. 参加学生の感想（アンケート結果のまとめ）

本企画全体の満足度を、5の満足から1の不満という、5段階評価で回答してもらった。学生側の参加者では、「5」が74.1%、「4」が14.8%、「3」が11.1%という結果だった。またアクセプションズさん側の参加者では、「5」が64.3%、「4」が35.7%という結果となった。いずれも過半数の方に「5」と回答をいただき、満足度の高い企画になったのではないだろうか。学生側の感想としては、「ダウン症に対して抱いていたイメージが変わった」、「『障がいがあるから〜』と限定的になるのではなく、みんなの個性を生かした社会作りに関わりたい」など、ダウン症の理解や共生社会に繋がる感想が多くあり、目的を達成できたことを嬉しく思う。一方で、「オンラインでは話すタイミングがなかなか合わなかったり少し難しかった」のようなオンラインならではの難しさや、「もう少し他のダウン症の方とも話してみたかった」のような反省点も挙がった。また、アクセプションズさん側の参加者の感想では、「とにかく楽しかった」のようなポジティブな意見を多くいただいた。しかし、「聞き取ることが苦手なので、少しフォローがあるとさらに楽しめるように思います」や「言葉が出ずなかなかオンラインの空間に入っていけない時間が続いた」のような、改善すべき点も見つかった。学生側、アクセプションズ側両方から、対面の企画にも参加したいという声を多くいただいたので、次回は対面で、今回の反省を生かして有意義な企画を行いたいと思った。



借り物ゲームでアイスブレイクを行った



全員で「パプリカ」を歌って踊る様子



参加者が自分の作品を皆に紹介



最後は笑顔で記念撮影を行った

21. 災害救援ボランティア講座

1. 日程 2021年6月19日、26日、7月3日（毎回土曜日）

2. 場所 大内山校舎Y606、Y705教室、本所防災館、
市ケ谷総合体育館

3. 概要

市ケ谷ボランティアセンターでは、災害救援ボランティア推進委員会、東京防災救急協会、千代田区社会福祉協議会のご協力のもと「災害救援ボランティア講座」を実施しました。

第1日目は、市ケ谷キャンパス大内山校舎にて千代田区社会福祉協議会の取り組み、災害救援ボランティアの基本、被災地での安全衛生、防災対策の基本などを学びました。

第2日目は、本所防災館で災害模擬体験を行った後、大学に戻り講義形式で出火防止と初期消火について、グループワーク形式で災害ボランティア活動図上演習を学びました。

第3日目は、本学市ケ谷総合体育館柔道場にて、上級救命技術講習として応急手当活動について学び、AEDの使用法、胸骨圧迫、災害時などでのけがの応急処置などは実際に人形などを使い実践しました。

災害救援ボランティア講座は毎年行われており、全講座受講により、上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定書が交付されます。今年も多くの学生が認定証を交付されました。市ケ谷ボランティアセンターでは引き続き災害時に活躍できる学生の育成に取り組んでいきます。

4. 学生参加者数	6月19日	29名
	6月26日	28名
	7月 3日	29名

5. 参加学生の感想

私はこの災害救援ボランティア講座を経て、災害を未然に防ぐ方法、シミュレーションを通して災害をどう対処するのか、人命救助、手当ての行い方を学ぶことが出来ました。今まではボランティア活動全般に対して関心があまり無く、むしろ他人事のように考えてしまっており、実は参加させて頂いた動機も自発的なものではなく、友達の誘いによるものでした。しかし、この貴重な機会を経てボランティアに対する新たな興味を持つ事ができたほか、災害、人命救助に対する重要性を改めて認識することができ、終わってみればとても充実した時間になったと心から思えます。災害、事故を未然に防ぐ為にはどうすれば良いのかという事をこの3日間で学ぶ事ができたので、今後はその知識をアウトプットできるよう、より自発的になれる努力を行うつもりです。たとえ災害、事故を目の当たりにしても、行動への責任感や命を扱う事に対する恐怖に怯えず、胸を張ってどのような場でも進んで活動を行える人になれるよう、励んでいきたいと思います。

経営学部経営戦略学科3年 細川 玲輝

私は消防士を目指しており、災害について詳しい知見を得るためにボランティアに参加しました。1,2日目の講義では災害に関わる消防士の姿をイメージすることができました。また、元消防士の方のお話を実際に聞いて消防への意志がより一層強くなりました。先日起こった熱海の災害でより関心を抱きました。ボランティアが要請されるようなことがあれば、積極的に参加したいです。

3日目の救命講習では、練習を通して人を助けることの難しさを実感し、勇気を持つことが大切だと理解しました。私は身近にいる大切な人や誰かの大切な人を守るために、これからも消防士を目指したいと思います。

経営学部市場経営学科3年 小澤 瞬

災害救援
ボランティア
講座

受講生全員、資格が得られます！

① 上級救命技術認定証（東京消防庁より交付）
② セーフティリーダー認定証
（災害ボランティア推進委員会より交付）

6月19日（土）9:00～16:50
6月26日（土）8:50～16:30
7月 3日（土）9:00～17:00

◆講座内容◆
◆第1日目（市ケ谷キャンパス大内山校舎6階Y606教室）
災害救援ボランティアの基本、被災地と初期消火、災害ボランティア活動ワークス
被災地での安全衛生
◆第2日目（本所防災館）
出火防止と初期消火、AEDの使い方、胸骨圧迫、災害時などでのけがの応急処置
災害ボランティアの役割
◆第3日目（市ケ谷キャンパス総合体育館3階柔道場）
応急手当の練習（上級救命技術講習、認定取得）

申込み・問い合わせ
市ケ谷ボランティアセンター（所属科舎1階学生センター内）
03-3264-9516 9:00～17:00受付（月～金） ichigayevc-apply@mf.hosei.ac.jp

3日間の講習を受けて、災害救援と応急手当について多くの知識を学び、大変勉強になりました。この講座を受ける前、私は地震や津波などに関する知識を少し持っていましたが、自分の命だけを守れば十分だと思いました。この講座を受けて、「自助」だけでなく、「共助」の重要性がわかりました。そして、「自分の街は自分たちで守る」という連帯責任を理解しました。また、心肺蘇生などの実技を身につけることはできて、とても素晴らしいことだと思います。今後、自分を守るだけでなく、家族も近隣の人も守ろうと思っています。この度はありがとうございました。

文学部哲学科3年 宮本 宇錦



1日目の講習の様子



胸骨圧迫の実習を行う



想像以上に視界が遮られる煙体験



地震体験で震度7の揺れに耐える

22. むすびえフォーラム

「ITノウハウ伝授イベント“こんな使い方しています”第2弾」

1. 日程 2021年6月20日(日)

2. 場所 Zoom

3. 概要

2020年11月に参加したNPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ開催の勉強会がご縁で、VSPのメンバーは同じく参加者であったコミュニティ広場「にこまる」さんのHPや職(のぼり)のお手伝いボランティアを行ってきました。そのようなご縁があり、6月20日のむすびえフォーラム「ITノウハウ伝授イベント“こんな使い方しています”第2弾」で登壇の依頼を受け、VSPメンバー3名が出席しました。

フォーラムではオンライン学習支援やプログラミング事例の紹介などの後、「実践ホームページ作成奮闘記+ノウハウ公開」と題し、コミュニティ広場ににこまるの高橋氏と共にVSPメンバーが、実際に作成したサイト作成の様子やノウハウについて資料を交えて紹介しました。完成したにこまるさんのHPについては、60名以上の参加者の中から「わかりやすい!」「アットホームな雰囲気が伝わった」、またサイト作成方法の説明についても「自分達でもできそうだと感じた」といった意見が出ました。VSPメンバー自身も、サイト作成のイメージを『難しく、挑戦しにくいもの』から『誰でも手軽にでき、色んなメリットが得られるもの』とポジティブに変換することを目的にしたので、思った通りの反応が寄せられたことは嬉しい驚きでした。前半の子ども食堂の子どもたちによるプログラミングの事例などもレベルが高く、オンラインの可能性はこれからも広がることを思わせるフォーラムとなりました。

4. 学生参加者数 3名

5. 参加学生の感想

子ども食堂さんの力強さを感じたフォーラムでした。コロナウイルスが蔓延し、思うように活動が出来ない中、新しい活動を打ち出したり、情報交換を通じて新たな活動を始めたり…。皆さんの熱意とパワーを感じた2時間は、あっという間でした。かつ、その一員として登壇させていただいた価値は、とても大きいです。今後も苦境をチャンスに変え、色々な方と共に楽しく活動していこうと、改めて思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部心理学科3年 青木 怜奈

今回のむすびえさんのフォーラムに参加し、web参加に関わらず参加者や他の出演者の熱量を強く感じて驚いた。子ども食堂に携わる皆さんがIT知識をどれだけ欲しているのかがとてもわかった。今回のサイト作成体験談の講演以外にも、IT知識などを活用して子ども食堂の皆さんのお手伝いをできたらいいと思った。

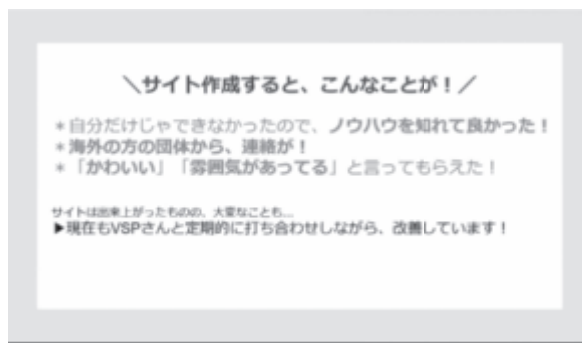
ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科3年 五味 祥紀

このフォーラムを通して、子ども食堂とITの関わり方について視野が広がりました。他の登壇者さまのお話を聞き、その取り組みに驚かされました。同時に、参加されていた方たちの姿勢からIT知識がいかに必要とされているか伝わりました。今後、IT知識など大学生の強みを活かして子ども食堂のお手伝いを実施していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科3年 富岡 凜



参加したVSPの3人とにこまるの高橋さん



発表に使用した資料

23.【東京2020応援プログラム】

ユニバーサルシアター～バリアフリー映画鑑賞会～

1. 日程 2021年6月23日（水）

2. 場所 シネマチュプキタバタ

3. 概要

ユニバーサルシアター企画では、視覚障がいの方も聴覚障がいの方も車椅子の人も小さなお子様連れのママたちも「誰もが一緒に」楽しむことができる映画館で、バリアフリー映画鑑賞会を行いました。バリアフリー映画推進団体シティ・ライツ Cinema Chupki TABATA 代表の平塚千穂子氏を講師に、ユニバーサルシアターについて講義して頂き、その後、映画「へんしんっ！」を実際にユニバーサルシアターで鑑賞しました。音声ガイドや字幕などのバリアフリー環境が整った日本初のユニバーサルシアターでの映画鑑賞を体験することで、新たな気づきや学びが多くありました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 萩原 美優

4. 学生参加者数 12名

5. 企画学生の感想

この企画を通してユニバーサルシアターとは何かを知ることができ、講師のお話は興味深いもので、勉強になった。映画も考えさせられるものであり、感想共有では参加者の方々からさまざまな意見を聞くことができ、非常に有意義な時間となった。当日は時間が押していたり司会進行が予定していたものと少々変わってしまったりという反省点はあったが、全体として満足のいく良い企画にすることができた。今回の成果や反省を今後の企画に活かしていきたいと思う。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 萩原 美優

「ユニバーサルシアター」と聞いて、どのようなものか疑問に思い、参加した。企画を組んでいく上でユニバーサルシアターについて詳しく学び、実際にユニバーサルシアターを体験するという貴重な経験ができたと感じる。障がいがない私たちでもより快適に映画を鑑賞することができ、すべての人を対象にしている映画館であることがひしひしと伝わってきた。企画運営に関しては、経験者のスタッフの方に頼りすぎてしまったように感じる。今後は自分から企画を進めていけるように励みたい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 平津 桜那

6. 参加学生の感想

副音声を使って耳だけで聞く映画なんてどうせそこまで楽しめないのだろうと勝手に決めつけてしまっていたのですが、目を瞑って映画を見てもちょうどいいタイミングで説明の声が入り、情景が浮かんできました。また、目を開け映画を見ている、普段では気が付かなかった、細かな仕草や場面の移り変わり、題名の字体など気にしていなかったものが新しい目で見ることができ、本当に色んな人のためのものなのだなと実感できました。人前で話したり自分を表現することに苦手意識を持ってしまっていたのですが映画を見たことにより、話すことだけが表現ではなく、人それぞれ色んな方法で自分の個性を表すことができることを学びました。人間同士お互いに伝え合うことが必要です。私もこれからもっと積極的に自分を伝え、相手を感じようと思いました。

人間環境学部人間環境学科2年 二宮 いこい



VSPの2人が司会進行を務めた



シネマチュプキタバタの平塚さんから説明を受ける

24. 外来魚、外来生物駆除について考えよう！

1. 日程 講義企画：2021年6月24日（木）
駆除ボランティア：6月～3月で計6回実施

2. 場所 Zoom（講義企画）
千葉県我孫子市手賀沼（駆除ボランティア）

3. 概要

千葉県我孫子市で活動されている手賀沼水生生物研究会様、並びに NEC 様の協力のもと、VSP メンバーによる外来種駆除の体験と、一般学生を対象としたオンライン講義を実施しました。6月の外来種駆除の体験では、VSP メンバー4人で NEC 我孫子事業場の四つ池を訪問し、釣りや定置網による駆除活動をお手伝いさせていただきました。またオンライン講義では、外来種とその対策として行われている取り組みについて、知識がない人でもわかりやすいように説明していただきました。

講義後に参加者から募集した感想では、「外来種に対する見方が変わった」などの好意的な意見を多くいただきました。また、「駆除活動に参加してみたい」という意見もあったので、今後は一般学生を巻き込んだ駆除活動も企画していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP

人間環境学部人間環境学科2年 松尾 威海

4. 学生参加者数 32名（講義企画）
13名（駆除ボランティア・5回合計）

5. 参加学生の感想

（講義企画）

• やっても無駄だなと思わずにその地域にとって何が適切かを考え抜いた上で生態系を守っていくことの大切さは、今まで自分の中で考えたことのないことだったため学びになりました。その中で在来種が戻ってきていることを知りそれも見ることが出来るのは素晴らしいことだと思いました。

• 四つ池では駆除釣りや、小型定置網、池干しや電気ショッカーなど、様々な作業が行われていることに驚くとともに興味を持ちました。外来種の問題については勉強することも多かったのですが、今回外来魚の駆除活動が具体的にどのように行われているのか知ることが出来ました。

（駆除ボランティア）

今回の活動を通して在来種の保全の難しさ、それでもそれを成そうとする人の努力を深く知ることができました。しかし外来種の繁殖力やそもそもの体の大きさを釣りなどを通して学び在来種が置かれている環境の厳しさが実感してまだまだ先は長く険しい道のりだと感じました。こうした活動に携わっている方々の努力が身を結ぶために多くの人に理解を得られるような状況になればいいと今回の体験を経て強く実感するとともに、自分もそうした活動の一助ができればと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科2年 徳橋 拓





駆除活動の体験の様子



手賀沼水生生物研究会の指導による活動



駆除された外来魚



講義企画の様子

25.【東京2020応援プログラム】

補助犬×ボランティア ～私たちに何ができる?～

1. 日程 2021年7月6日(火)
2. 場所 富士見坂校舎体育館・Zoom
3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPは、補助犬やその育成施設の現状をより多くの学生に知ってもらい、補助犬の存在を広めるための行動を起こすきっかけとなる場を提供するために本企画を実施しました。新型コロナウイルスの影響により、オンラインとオフライン両方を組み合わせたハイフレックス型での実施となりました。本企画には、公益財団法人日本補助犬協会から講師の方がいらして下さり、盲導犬・聴導犬・介助犬それぞれの実演講義を行って下さいました。講義後はその内容をふまえて、「学生の強みを活かしてできること」をテーマとしグループディスカッションを行いました。実際に3種の補助犬がどのような動きを普段行っているかを見ることができ、街で見かける機会の少ない聴導犬・介助犬について知識を深める様子が見受けられました。グループディスカッションでは積極的に意見が飛び交い、互いのアイデアを共有する良い機会となったと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 経営学部市場経営学科3年 富岡 凜

4. 学生参加者数 40名

5. 企画学生の感想

多くの方が参加してくれ、認知度の低い聴導犬や介助犬について知ってもらえる機会を提供できてよかった。また実際に補助犬が普段どのように働いているのか自分の目で見ることができ、より理解できた。

グループディスカッションが盛り上がり、予定していた時間内で満足に話し合うことができなかった。タイムスケジュールを決定する際、様々な事態を予測してそれらに対処できるようなスケジュールにする必要があると感じた。一方、想像以上に多くの意見が出て、すべてを把握することはできなかったが、今後のVSPの企画に少しでもつなげられたらと思った。また、補助犬協会のお手伝いを定期的実施するようにできたらと思った。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 経営学部市場経営学科3年 富岡 凜

6. 参加学生の感想

聴導犬のことは全く聞いたこともなかったので、小型犬がいたときは驚きました。また、アラームがなったときの起こしかたがとても可愛くて印象に残りました。今回の企画の中で一番衝撃を受けたことは、1頭を育成するのに500万円かかるということです。しかも、その費用が主に募金からでているということも驚きました。その話をきいて、今度募金をする機会があったら、積極的にしようと思いました。正直、自分はあまり動物のことが得意ではないのだが、だからこそこのような機会に補助犬について知ることができてよかったです。大学生ならではの強みを活かしてできることが意外と思ひ浮かばなかったので、他の人の意見を聞いて参考になることがたくさんありました。

人間環境学部人間環境学科1年 宮地 わかば



講師による盲導犬のデモンストレーション



補助犬ユーザーの講師と共に話し合う

26. 生理から知る「やさしい社会」をつくる方法 — 思いやりへの小さな1歩 —

1. 日程 2021年7月13日(火)
2. 場所 外濠校舎2階S204教室・Zoom
3. 概要

今回はコロナの影響を踏まえ、対面とZoomを使用したオンラインでのハイブリット型で行いました。講師にはユニ・チャーム株式会社様に企画段階からご協力いただき、同社のNoBagForMeプロジェクトの一環である「みんなの生理研修」、生理用品を扱う会社からの正しい知識を提供していただきました。当日はユニ・チャーム株式会社様からの講義+企画メンバーからの講義+ディスカッションワークの形式で行い、また博報堂様に撮影・取材をしていただきました。

講義ではユニ・チャーム株式会社の福田氏にZoomで登壇いただき、参加者には対面・オンラインともに講義をリアルタイムで受けてもらうことができました。企画メンバーの講義はパワーポイントで資料を作成し、「生理の貧困」について学生間での調査結果を発表しました。

後半のディスカッションワークでは講義を基に、男女混合グループに分かれて生理についての体験談や対処法・将来大切な人(自分の子供・パートナーなど)と生理の話をするためにどのような行動をしていくのがよいかについて話し合いました。

企画の結果としては、事後アンケートの結果男性の「非常に満足した」が100%だったのに対し、女性は「非常に満足した」「満足した」が93%となりました。男性にとっては女性と「生理」について話し「生理用品」を目の前でみるという普段はあまりない体験・正しい基礎知識を取り入れたことが、満足度につながったため、このような機会が増えるように活動していきたいと思います。事後アンケートのコメントから女性の方が専門的知識や、実際に悩んでいることに対する確かな回答を求めていることがわかり、女性のみ対象の「生理用品・世界の生理に対する考え方をすることで自分や周囲の生理に対する対処法を増やす」という目的の企画も必要だと感じました。今回は共立女子大学・法政大学のみ参加であったが、今後はより多くの法大生・他大学にもこのような活動を波及していけるように広げたいと考えています。

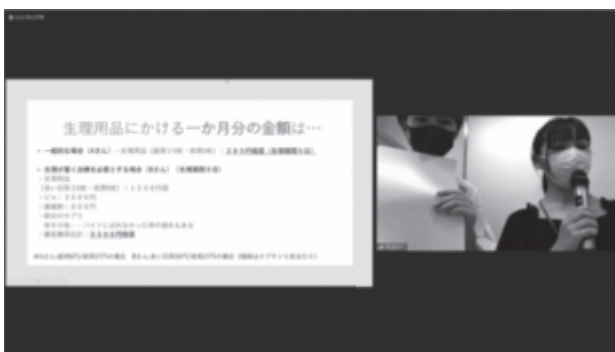
ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科3年 百瀬 沙彩

4. 学生参加者数 31名

5. 企画学生の感想

今回の講義を受けたことで、自分の体で起こっていることにも関わらず、生理についてあまり知らなかったことに気づきました。これからは自分に合う方法で、生理と付き合っていけたらいいなと思います。また、生理について学びたいと思う男性の方がとても多くて驚きました。グループディスカッションでは今まで聞いたことの無い男性目線の意見を知ることができたのでとても良かったです。このような方々が増えることで、この企画の名前にあるように「やさしい社会」が作られていくのではないかと思います。

KYOPRO 学生スタッフ 法学部国際政治学科1年 津嶋 千早



企画学生による「生理の貧困」講座



生理を通して相手への思いやりを考える

27. LINEの使い方講座

1. 日程 7月15日(木)、10月14日(木)

2. 場所 Zoom、千代田区役所富士見出張所・区民館

3. 概要

スマートフォンを使用される機会が増えた高齢者の中で、LINEの使い方が分からないという方々が見受けられます。千代田ボランティアセンターと千代田区富士見二丁目会(福寿会)からの依頼により、学生スタッフVSPのメンバーが、高齢者向けのLINE講座でボランティアを行いました。新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン(Zoom)での開催となったため、事前に当日までの準備内容や段取りについて詳しく打合せをしました。

当日は学生一人+高齢者の方1名ずつのブレイクアウトルームに別れ、スマートフォンにまつわる相談を受けたり、使い方のレクチャーをしました。Zoomの画面上でお互いのスマートフォン画面を見せ合いながらの交流では、双方の努力が必要とされました。

高齢者の方によって、LINEについての知識や習熟度が違ったため、説明方法が難しかったり、学生自身が改めてITの知識を学びなおす必要性を感じたりと、得ることの大きい結果となりました。大学近隣の町会の方々と法政大学との交流をさらに深めたいという気持ちが生まれたことを受け、今後もITに限らず良い関係を継続していきたいと考えています。

4. 学生参加者数 2回合計8名

5. 参加学生の感想

富士見二丁目町会さんと共同の町内会の人向けのLINE講座では、高齢者の皆さんを中心に遠隔の人とよりよいコミュニケーションをとりたいが、その手法が分からなくて困っているという人が多くいるという事実を痛感した。本企画を今後とも継続的に行っていくことで、学生の微力ながらも、少しでも多くの人々が他者とつながりたいという思いを成就させるお手伝いができればと思った。

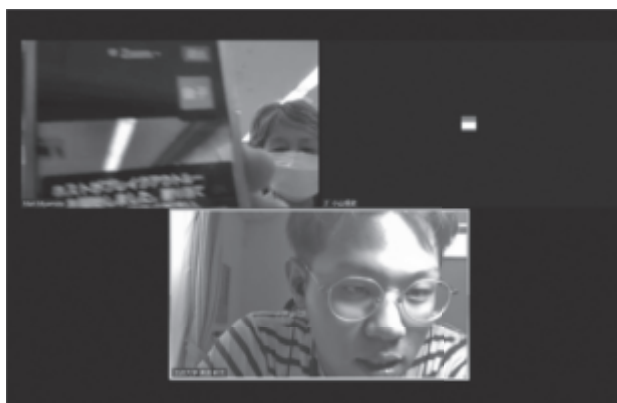
ボランティアセンター学生スタッフVSP 経営学部経営学科3年 五味 祥紀

今回私はお二人のお年寄りにラインを教えることになりました。ですが、お二人とも中々込み入った問題をお持ちだったので、私も上手く返答することが出来ませんでした。次回は、もっとスムーズにお答えできるといいかと思います。他にもこの情勢で、オンライン上ではありますが、お年寄りと関われる減多にない機会だったので、とても楽しかったです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部法律学科3年 清宮 幹太

高齢者の方の役に立ちたいという思いがあったため、今回LINE講座に参加させて頂きました。対面ではなくオンラインだったので、声が相手に通りにくかったり、操作が上手いかなかったりと少しトラブルが発生してしまいました。1時間半という短い時間ではありましたが、LINEを使いこなせるようになってきている姿を画面越しから見ることができ、任務を果たすことができたのではないかと思います。近々、第2弾も開催するとのことだったので、今回の反省を活かして、次回はよりわかりやすく、丁寧に教えることができればと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部法律学科2年 飯村 美南



Zoomでスマホ画面を見せ合い説明



学生1人+参加者2人のグループに分かれて実施

28. 水辺の環境改善～作戦会議～

1. 日程 2021年7月16日(金)

2. 場所 Zoom

3. 概要

多様化する環境問題への取り組みの一環として、特に人為的な地域環境汚染について問題意識を持つきっかけになるべく河川における清掃活動、またオンライン上でのワークショップを企画しました。感染症拡大に伴い閉塞感の漂う生活を送る学生にとって自然環境と触れ合うこと自体にも大きな意義があり、また身近な存在として水辺の環境汚染について触れることが出来る貴重な機会でもあります。人間が何気なく捨ててしまっているゴミが、河川へと流入しどのような経路をたどるのかを見てもらうのも面白いことであり、最終的に水辺の環境汚染が我々の生活にどのような影響を及ぼしているのか、また被害を軽減するための対策について考える機会を目的としました。

ワークショップでは講師としてB & G 財団大関様、大道様をお招きし、海洋などにおけるプラスチックやその他のゴミについてご講義いただいた後に、VSPの過去の清掃活動記録の紹介も行いました。また、ブレイクアウトルームではマンダラートなどを用いて自分の考えを整理し、身近なゴミ問題について話し合うことで、私たち自身のゴミに関しての意識や認識の変化を感じ理解を深めました。今後、B&G財団主催の「東京運河ごみゼロカヌーツーリング」に参加予定です。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科1年 鶴田 淳

4. 学生参加者数 23名

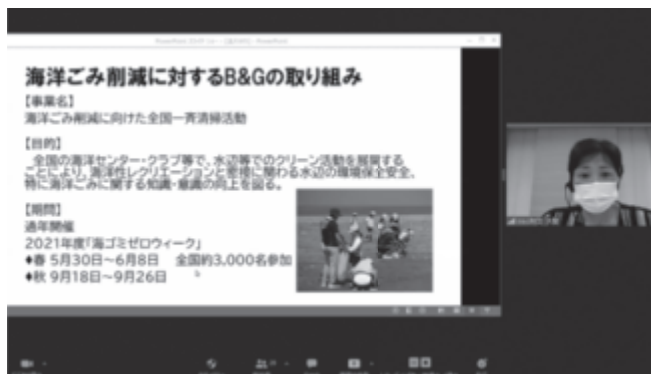
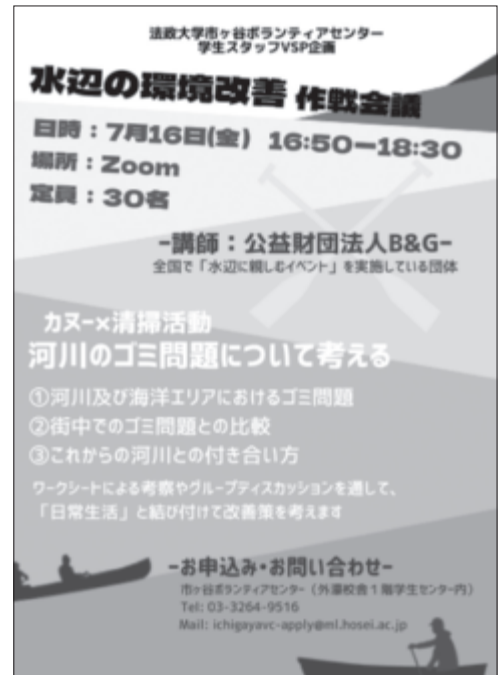
5. 企画学生の感想

オンライン上での開催となりましたが、そのような事態でも参加してくれた学生の方は積極的に水辺の保全活動に関する意見を言ってくれました。自分にとっても今回の講義は勉強となり、今後に役立てていければいいなと思っております。9月のあたりでポートを使って実際に清掃活動が行われるので、そこに向けて準備を進めていきたいと思えます。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科3年 清宮 幹太

6. 参加学生の感想

海洋、河川ゴミについて強く再認識することができた。それらはポイ捨てや放棄など、我々の行動に起因するものであることに改めて衝撃を受けた。講義後のブレイクアウトルームにおいても他の方々の意見を聞き、今回学んだことから、どのようなシステムやゴミに対する取り組みがあれば良いのか、考えを膨らませることができた。ボランティアやカヌーによるゴミ拾いなど、組織的な活動を通して、河川ゴミなどの現状を知ることができ、興味が湧いた。



海洋ゴミ削減の取り組みについての講義



各自のワークシートを紹介する様子

29. 〈麒麟福祉財団助成事業〉

オンラインで行く「東北被災地ボランティアツアー」

1. 日程 2021年8月12日(木)

2. 場所 Zoom

3. 概要

毎年実施している東北被災地ボランティアツアーが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となった為、訪れる予定であった陸前高田市と中継を結びオンラインツアーを行いました。活動への助成をいただいた麒麟福祉財団の太田様のお話につき、陸前高田市からは語り部の武藤さんより震災当時の状況や10年間の被災地の変遷などについての講話をいただきました。参加した学生から講話中に出た多くの質問に武藤さんがその都度答えてくださり、対話をしながら進められたため、臨場感を感じるオンラインツアーとなりました。特に、震災発生時の現地の方達がどのような気持ちであったか、また10年が経過した被災地の「精神的復興」についてのお話は、震災当時小学生だった学生たちの心を揺さぶるものがありました。

昨年からの被災地へのボランティアツアーが実施できていませんが、今回のオンラインツアーでの経験を無駄にせず、次に東北を訪れる際に活かしたいと思える企画となったと思います。 ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部政治学科2年 竹内 健晃

4. 学生参加者数 40名

5. 企画学生の感想

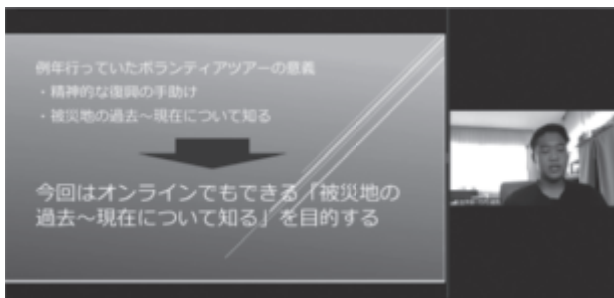
今までは東日本大震災についてはテレビから知ることしか出来なかったが、今回神谷さんの講話を聞き、多くの知識を得ることができた。具体的に言えば、震災発生後、必要になるのは我々が役に立つと思込んでいる衣服よりも生理用品だということなどである。そうした事実について想像したことが無く、被災地とそれ以外の地域の認識には大きな差があると思知らされた。今回の講話で学んだことはいずれ来るであろう南海トラフ地震や首都直下地震において非常に役に立つ知識だろうと感じた。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部政治学科2年 竹内 健晃

6. 参加学生の感想

・非常に有意義な時間で、貴重なお話をたくさん聞くことができた。それと同時に防災に対する自分の責任について意識をさせられた。東日本大震災のときは小学生で守ってもらおうという立場になっていたが、今の自分は守る側にもまわらなくては行けないと考えさせられた。他人を当てには出来ないという逼迫した状況下、人が変わってしまう人もいる中でどのように生きるための行動をとるべきか考えていきたい。また、この気持ちを家族や周囲の人にも伝えていきたい。

・私は高知県出身で、沿岸部にある地元にも数年から数十年の間に地震によって数十メートルほどの津波が来ると言われています。地元を重ね合わせてお話を聞いていました。震災当時のお話を聞いて、防災や減災についてできることがまだまだあることに改めて気がつきました。「精神的復興の支援」という言葉も、体を動かすボランティアばかりに意識が向いていたので少し意外な言葉でした。新たな気づきが多かったです。



司会進行を務めたチーム・オレンジメンバー



陸前高田から中継で講話をしていただいた

30. 渋谷4大学連携共同「SD研修」登壇

1. 日 程 2021年9月16日(木)

2. 場 所 Zoom、聖心女子大学

3. 概 要

今後首都圏で想定される首都直下地震や、西日本を中心に甚大な被害が想定される南海トラフ地震は各大学の学生・教職員の安全に関わる重要な課題のひとつです。その具体的なハザード(地震の概要)とリスク(被害想定や様々な課題)を各大学が共通の課題として捉えることで学生・教職員の安全安心の確保、各大学による地域貢献のあり方を検討していくことを目的として「渋谷4大学連携共同SD研修」が開催されました。

この研修で活動の事例紹介として、本ボランティアセンターからは職員1名と、チーム・オレンジから法学部の河井悠希さんが登壇し、「大学と連携して行う防災キャンプの事例」を紹介しました。河井さんからは「防災キャンプについての紹介と前・今年度の実施プログラムの紹介」について、また本学職員からは、「防災キャンプの実施に当たっての感染対策について」を説明しました。また、出席した各大学・学生団体からもそれぞれ10分程度取り組みや事例についての紹介があり、有意義な情報交換の場となりました。

4. 学生参加者数 1名

5. 参加学生の感想

今回、発表の場に参加させていただけたことで、自分たちの活動が改めて意義のあるものだと感じることが出来ました。発表後に実施した今年度の防災キャンプでは、構内を利用した企画を取り入れたほか、コロナ禍での実施ノウハウもより定着させることが出来たと思います。首都直下地震などの災害時には、学生だけでなく、大学全体が被災することになります。緊急時・平時間問わず学生と大学をつなげられるような、こうした取り組みがより広く知られ、またそれぞれの大学・団体などに合った形で取り組まれることを願います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部政治学科2年 河井 悠希



防災キャンプにおける感染症対策について



本学で実施した防災キャンプについての説明

31. 富士山オンライン企画～美しい山の抱える問題～

1. 日程 2021年9月30日(木)
2. 場所 外濠校舎5階523-526会議室・Zoom
3. 概要

本企画は「富士山」「環境問題」「ごみ問題」などを切り口としてボランティア啓発につなげることを目的とし、NPO 法人富士山クラブ様を講師に迎え、ハイフレックス形式で実施しました。前半は富士山クラブ様の講義、後半は参加者がグループに分かれてのワークショップを行いました。講義では富士山周辺で起きている獣害やごみ問題を中心に説明していただきました。ワークショップは前半の講義の内容を踏まえ、「どうしたら富士山周辺に捨てられてしまうごみを減らすことができるのか」をテーマに、観光客が出すごみについて話し合うグループ、業者が出すごみについて話し合うグループに分かれて進行していきました。富士山は2013年に世界文化遺産に登録されましたが、ごみ問題についてはあまり認知されておらず、本企画を通じてその深刻さを理解できたかと思います。10月には実際に富士山に赴き自然保護ボランティアを行います。この企画はその活動につながる事前学習として、実りのある講義となりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科 2年 山本 流功

4. 学生参加者数 60名(法政大学40名、明治大学10名、三輪田学園10名)

5. 企画学生の感想

猟友会で実際に活躍されている深澤様のお話が聞けてとてもよかったです。私は富士山に行ったことがなく、様々な動物が生息していることも知りませんでした。講義を受けて、富士山の多様な動植物の美しさとその問題について知識を深めることができました。特に印象深かったのは、人が捨てたゴミが動物の生命を危険にさらしていることです。私たちは、「捨ててはいけない」という意識を持つのはもちろんのこと、周囲の人にもそういった意識を持ってもらえるように情報発信をしていくことが重要だと感じました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科1年 富島 祐菜

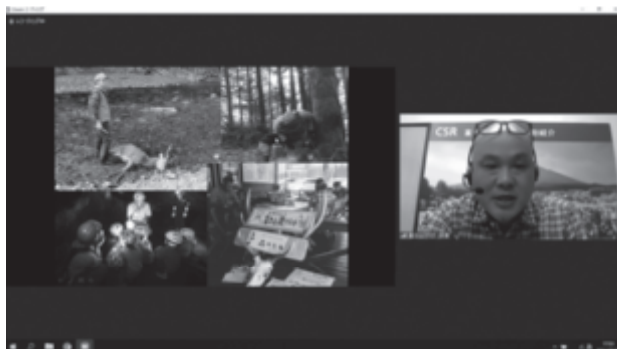
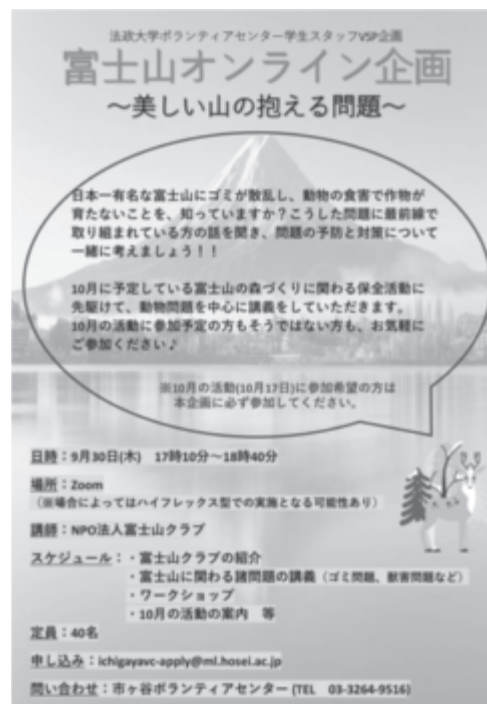
6. 参加学生の感想

富士山について知っているつもりだったが、知らないことだらけだと、学ぶことができました。きっと他の環境問題についても知っているつもり、協力しているつもりで本質については全然理解できていないのだと思います。そのため、今回の富士山自然保護ボランティアに参加し、実際に自分から問題を体験することで、実感を強めたいと思いました。

社会学部社会政策学科3年 戸田 達也

本講義を通じて富士山の諸問題について認知した。そして、これらの問題について各自意見を出し合い討論することで、自分だけでは考えつかなかったような意見や考え方があることを通して、色々な発見があった。中でも、SNSなどを通して情報発信していくという考えはとてもいい案だと思った。私自身も本講義を通して富士山の問題について知ったため、より多くの人に富士山の現状を知ってもらい多くの人で問題解決を目指すなど色々なメリットがあると思った。

社会学部社会学科3年 山森 樹



富士山クラブ深澤氏による講義の様子



対面でもワークショップが行われた

32. 千代田区男女共同参画センター 第9回MIW祭り

1. 日程 2021年10月1日(金)～2日(土)

2. 場所 九段生涯学習館

3. 概要

千代田区に住み・働き・学ぶ人々を主として構成される、男女共同参画社会に向けた取り組みを行っている千代田区男女共同参画センターMIW(ミュウ)が主催した「第9回MIW祭り」にボランティアセンターが展示協力という形で参加しました。

例年は大勢の参加団体がブースを設け、多くの来場者を迎えるMIW祭りですが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、いくつかの企画を除いて展示での参加となりました。

市ヶ谷ボランティアセンターからは「VSP」「チーム・オレンジ」「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」が、テーマ「なんか変? “フツー” って何?～それが未来を拓くカギ～」に沿った提言と、団体紹介のパネルや動画を紹介しました。

会場には興味深く各展示に見入る来場者が多く、また専修大学ではAED体験が行われていたこともあり、賑わっていました。

次年度以降は、再び実際に参加者が会場でブースを設け、多くの一般来場者が訪れるようになることを願っています。

4. 学生参加者数 展示のみ



多くの団体から展示が寄せられた



ボランティアセンターの展示

33. 大学で被災したらどうする？「防災キャンプ」

1. 日時 2021年10月2日(土)～3日(日)
2. 場所 大内山校舎Y703教室、市ヶ谷体育館、外濠校舎他
3. 概要

法政大学ボランティアセンター所属学生スタッフのチーム・オレンジが、今年も大学構内を利用した防災啓発企画「防災キャンプ」を実施しました。被災内容として首都直下型地震（震度6強、火災等の複合災害はなし、電気ガス水道等は使用不可）を想定し、昨年度に引き続き新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策を用意しての実施となりました。対策は、移動時、休憩時、長時間の作業の後などにアルコールによる消毒を徹底する他、食事の際の手洗い、黙食、内容のシェアの禁止、就寝時は床面への消毒と仕切りの用意・十分な社会的距離の確保などを実施しました。これらの内容は昨年のノウハウもあり、スムーズに実施することが出来ました。1日目は講師の宮崎賢哉氏から講義をいただいたのち、富士見ゲートを活用し実際に体を動かす避難体験ツアー、担架や車いすを利用した体験型学習、非常食の実食、応急手当・救命活動としてのAED・三角巾の使い方講習、段ボールなどを利用した寝床づくりを行いました。続く2日目は仮設トイレの作成と、水とようかんを利用しての模擬体験、日常、災害問わず役立つロープの結び方講習、防災グッズの紹介、輪ゴムや牛乳パックなどの家にある道具を活用したグッズ作成、とっさの判断能力を養うためのクロスロード企画などを実施しました。また、LINEのオープンチャット機能を使用して参加者の皆さんに体験を通して感じたことや考えたことを気軽に情報共有できる場を用意しました。

今年は「非常時における体験を重視しつつ、災害時にも役に立つ知識を」というテーマのもと、企画の準備を進めてきました。中には福祉的な視点を持った企画や、全く新しい内容の企画もあり、チームのほとんどが初企画という環境の中、テーマにあった多様な体験や学習を取り入れた、濃密な2日間にする事が出来たのではないかと思います。今後起こりうる首都直下地震などの巨大災害に備えた準備段階から実際に遭遇した直後の対策・対応に、今回の防災キャンプの経験が参考になれば幸いです。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部政治学科2年 河井 悠希

4. 学生参加者数 23名

5. 参加学生の感想

2日間の全プログラムを通して「日常生活の豊かさ」と「日頃からの訓練・準備の重要性」を感じました。「日常生活の豊かさ」については、特に食事と睡眠時に感じさせられました。支給された食料と水で決められた日数を生きるのに適切な食事量や栄養価を自分で配分しなければならぬということや、ダンボール2枚・タオルケット1枚・バッグで寝床を作らなければならぬといった貴重な経験を通じて、自分の生活がいかに豊かで他人任せなのかを気づかされました。

「日頃からの訓練・準備の重要性」については、特にAED講習と設備企画で感じさせられました。たとえ救命講習を受けたことがあっても時間が経つにつれて知識やスキルが失われていくことを実感したり、また身体の不自由な人の避難を考慮した避難シミュレーションができていなかったことから、日頃のうちから少しずつでも訓練したり考えたりすることが有事の際への最大の備えになるのだと理解しました。

人間環境学部1年

大学で被災したらどうする？

防災キャンプ

10月2日(土)～3日(日) 1泊2日
集合：2日(土)14:45
解散：3日(日)11:50

定員 30名
参加費 無料
持ち物 普段大学に行くときの所持品 (詳細はしおりをご確認ください)

集合場所 市ヶ谷キャンパス 大内山校舎Y703
講師 災害支援・防災教育 コーディネーター/社会福祉士 〇宮崎賢哉氏
会場 市ヶ谷キャンパス 大内山校舎他

内容 非常食体験/大学構内宿泊 防災グッズづくり/AED講習 オリエンテーション ETC.
申し込み/お問い合わせ 市ヶ谷ボランティアセンター ☎03-5264-9516 michigayavo-apply@i.hosei.ac.jp

企画：法政大学市ヶ谷ボランティアセンター チーム・オレンジ

三角巾講習、防災グッズ作りなど初めて実際に経験することが多く、とても貴重な経験となりました。特に上記の二つは、被災した際や、人を助けるときにも実用的な実践知識を学ぶことができました。また、寝床作りも避難所での寝床の種類や使用感、各ベッドの値段帯など身を持って知ることができました。簡易トイレや、防災食など二日間を通して経験した全てのことが本当に貴重で、実際に被災した際に活用できる知識、技術を学ぶことができたと感じています。

このような体験をさせていただけたのは、多くの方のお力とご協力があったからだと思います。コロナ禍の今であるにも関わらず、このような機会を作り、実施してくださって本当にありがとうございました。防災キャンプで経験できたこと、学んだことを実際に活かせるようにしっかりと自分のものにしたいと思います。

法学部3年



ブルーシートを使った担架



防災リュックの確認、説明を受ける



感染予防を徹底した寝所づくり



最後に全員で集合写真

34. 飯田橋駅周辺散策&清掃ボランティア ～清掃しながら自分のお薦めスポットを見つけよう～

1. 日時 2021年10月16日(土)

2. 場所 飯田橋駅周辺、外濠校舎

3. 概要

東京メトロ飯田橋駅ボランティアは昨今のコロナ禍により本来の活動である飯田橋駅での見守り活動が全くできずにいました。そんな中でも私たちにできることをやろうという目的でVSPとコラボし飯田橋駅周辺の清掃活動を行うと同時に散策して大学周辺についての知識を深めようという活動を企画しました。

当日はメトボラメンバーから8名、VSP及び一般学生から16名が参加し、神楽坂チームA、B、靖国チームA、Bの4グループに分かれて清掃活動及び散策を行いました。いざ活動してみると靖国神社周辺は清掃が十分にされていてきれいでしたが大学から飯田橋駅に向かう道の植え込みや神楽坂にはところどころゴミが落ちており予定時間を少しオーバーするほど活動できました。どのグループも和気あいあいとした雰囲気を楽しみながら散策し、大学周辺の知らなかった一面を学ぶと同時に交流を深めることができ、有意義な時間を過ごしました。

10月30日からはついにメトボラの活動が本格的に再開します。今回の活動での手応えそのままに活発に活動できればと思います。また、活動終了後、参加した一般学生からはなかなか大学に行く機会が十分ではないなか大学周辺について知識を深めると同時に友達ができたのでよかったという感想をいただいたので今後も清掃&散策活動はメトボラから企画しても良いと思いました。

東京メトロ飯田橋駅ボランティア 人間環境学部人間環境学科2年 齊藤 総一郎

4. 学生参加者数 24名

5. 参加学生の感想

清掃中や交流会の雰囲気もよく、とても楽しめました。私はサークルに入っておらず、特に他の学部や学年の知り合いがほとんどいないので、交流できて嬉しかったです。このご時世、私と同じような方も少なくないと思うので、こういった企画はすごくありがたいです。また、メールもわかりやすく、初めてでも応募しやすかったのも良かったと思いました。ありがとうございました！

文学部日本文学科2年 恋水 友美

清掃ボランティアに参加し、周りの方々と分担してゴミを拾うと、いつもの景色とは違う観点で、周りを見渡せたと感じました。例えば、普段何気なく通っている飯田橋周辺でも、路上にゴミが落ちていないかと注意深くなりました。また、ボランティアに参加した方々との会話やコミュニケーションをとることは、コロナ禍の影響でなかなか難しかったですが、貴重であり必要な体験だと思いました。

国際文化学部国際文化学科2年 中村 大翔



2コース(神楽坂・靖国)に分かれて自己紹介



参加者同士交流しながら清掃を行った

35. 富士山自然保護ボランティアツアー

1. 日程 10月17日(日)

2. 場所 静岡県・富士山麓

3. 概要

我々 VSP の学生スタッフは、例年 NPO 法人の富士山クラブさんの主導のもと、富士山に出向き、外来種の駆除などの様々な活動を実施してまいりました。しかしながら、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、富士山ボランティアは実施できませんでした。ですが、今年度は感染者数の減少もあり、現地での「富士山自然保護ボランティア」の活動が可能となりました。参加する学生には自然保護の重要性を理解してもらうため、現地での活動の前に、富士山クラブさんによる講義を実施しました。新型コロナウイルスの影響を鑑みて、講義はオンラインでの実施となりましたが、多くの学生から好評を博しました。そして、現地で学生自らの手足を動かして、自然保護を生で体感してもらうとともに、自然に親しんでもらうことを目的としました。

企画前半は富士山クラブさんによる活動のご説明を受け、その後チーム分けを行い、1チーム6から7人ほどで、森林保全活動に取り組みました。網で弱った木を倒す、周囲に散らばった木を拾い上げて穴に捨てる、などほとんど機械に頼らず、マンパワー中心の活動となりました。企画日当日は雨が降っていたということもあり、作業が難航することもありましたが、参加者皆楽しそうに活動していました。この他にもまき割り体験・木のプランコを使った遊びを通じて、自然に親しみを覚えることが出来ました。今回の活動を通じて、普段あまりピンとこない「自然保護活動」の実態を学び、いかに大変であるかということに身染みを感じることが出来ました。それと同時に、自然の恵みを肌で感じる事が出来たのも今回の大きな学びであったかと思えます。今後も富士山の自然に関わるボランティアを継続していければと考えております。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科3年 清宮 幹太

4. 学生参加者数 46名

5. 企画学生の感想

海外の森のオーバーユーズの問題はニュースで見たことがあったが、日本のアンダーユーズの問題は知らなかった。またアンダーユーズであるのに日本は森林資源の7割を輸入に頼っていることも今回の活動で初めて聞いた。自然は身近なものでもあるが都会に住んでいるためなかなかそこにあるという実感を持つことがない。そのため今回の活動は改めて自身と自然との向き合い方を見つめ直す良い機会になった。初めての体験ばかりだったのでとても良い経験になった。機会があればまた是非行ってみたい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 山本 流功

6. 参加学生の感想

この企画に参加したことで、机上のものであった研究テーマをより自分ごとに落とし込むことができました。予てより農林水産業の活性化や都市農山漁村間交流の推進、森林保全と防災などを学部における研究対象としていきたいと考え活動してきたものの、なかなか林業と水産業の現場を視察したり参加する機会がなく「なぜなり手が減少するのか」、「そもそも林業や森林保全が社会に与える影響とはなにか」といった疑問を解決できずにいました。しかしこの企画に参加し富士山クラブの方々と交流する中でこれまで解決できていなかった課題や気が付かなかった林業の魅力・課題にアプローチすることができました。そういう意味で非常に楽しい1日を過ごさせていただきました。

今後も継続的にあの森の整備や保全に参画したいと思います。

企画・運営してくださった VSP の皆さん、ありがとうございました & お疲れさまでした！

人間環境学部人間環境学科1年 齋藤 貴宏

現在多くの資源や設備が次から次に誕生しているが、それらはただ単に人間のためだけに生産されたものではなく、様々な生き物の犠牲の上に成り立っている貴重で蔑ろにできないものであるということを再確認させられた。また、このような森林での作業を経験しないと、いともたやすくモノが生産されているかのように感じ、物を大切にしようという気持ちは湧いてこないだろう。今回のような体力や知恵を使う体験をすることで、日々身の回りで使うような物、施設、食べ物全てに感謝をしなければならぬと考えることができた。

文学部英文学科2年 富永 もも



スタッフから薪割りのレクチャーを受ける



数十キロある岩を動かして整地を行った



力を合わせて大木を倒す作業



雨天の中作業を終えて集合写真

36. 自主法政祭献血企画

1. 日程 2021年10月29日（金）、30日（土）

2. 場所 富士見坂校舎F309教室

3. 概要

昨年12月に行った献血企画「学べば、献血は怖くない。あなたを一押し10時間配信」から約1年が経ち、実際に献血をする企画を実施することができました。今回の献血実施は配信企画と違い、新型コロナウイルス感染症対策という観点もあり、予約制を採用しました。その選択が功を奏して、2日間で100名以上の方にご来場いただき、計90名の方に採血いただけました。無事、大学祭という場で献血を実施できたのは、日本赤十字社様とボランティアセンター職員の皆様、企画メンバー、そして学祭実行委員会の皆様の誠意なご協力があったからです。改めて皆様に感謝したいです。7月ごろから何度も連絡を取り合い、準備をしてきていても、当日うまくいかない点がありました。校舎の立替工事実施と新型コロナウイルス感染症拡大により長らく法政大学での献血実施が実現できていなかったという状況がありましたが、今回の取り組みが基盤となり、今後再び法政大学で活発に献血が実施されるようになり、「献血をしよう！」という心意気が学生間で広まっていくと嬉しいです。また、自分が献血できなくても、「献血が必要とされている」という事実を伝えていくことが大切なのだと多くの方に伝えていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部哲学科4年 佐久間 喜望

4. 参加者数 101名

5. 企画学生の感想

正直、コロナ禍の献血というのに対して最初はボランティアとして、ハードルが高いのではないかと私自身思っていました。しかし、日本赤十字社さんとのやり取りを経ていくうちに築かれた信頼関係によって、かなり円滑に準備から実施までやり通せたのではないかなと思います。また、初歩的ではありますが、ボランティアスタッフとして何が出来るのかであったり、どうすれば献血にご協力いただけるのかを同じ学生目線で考えられたりしたのは、今後の活動に繋げる貴重な経験ではないでしょうか。この新しい切り口としての“学祭献血”がもっと浸透していけば嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 杉山 裕都

6. 参加学生の感想

・献血は初めてで献血カーク等に入るのは少し勇気がいると感じていたため、学校で実施されるのはとても良いと感じました。また参加したいと思います。

・ただ自分が作っている血液を少しだけ分けるということであるのに、様々な特典があったり、丁寧に対応していただけたり、本当に気分良く受けることができました。学祭で協力された方々、そして医療関係の皆様にご感謝申し上げます。また、協力させていただきます。



受付時の血圧測定、健康チェックの様子



多くの学生が献血に参加した

37. 防災推進国民大会2021(ぼうさいこくたい2021)

1. 日程 2021年11月7日(日)

2. 場所 Zoom・釜石市民ホール TETTO

3. 概要

「つながりが創る復興と防災力」をテーマに、個々人が改めて震災と向き合うことで、日本全体の防災力の向上につながる場となるように開催された、防災推進国民大会2021(ぼうさいこくたい2021)に法政大学ボランティアセンター所属のチーム・オレンジが参加させていただきました。私たちチーム・オレンジは、多様な防災教育教材の具体的な活用方法について現地とオンラインで体験してもらうことを目的とし、以前独自に制作した防災かるたをZoomで行いました。

発表内容は、PowerPointを使った防災かるたの実践が主で、その前にチーム・オレンジの活動紹介をさせていただきました。問題を読み、現地のブースで参加している人は配布資料の裏面に印刷された番号を提示し、オンライン参加者はZoomのコメント機能から解答を提示してもらい、解答発表と問題解説を行いました。チーム・オレンジの防災かるた終了後は、災害支援・防災教育コーディネーターの宮崎賢哉氏のクイズに参加しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、私たち学生は現地に行かずリモートでの参加となり、現地での参加者とのコミュニケーションの取り方やパソコンでの操作などたどたどしかった部分もあり、ハイブリッド方式での開催の難しさを感じたので、今回の反省点を踏まえて次の機会に活かそうと思いました。また、参加者からのアンケートにおいて問題の不十分さを指摘された問題がありました。私たちの中での認識が曖昧なまま出題してしまった問題もあれば、新たな観点から意見を聞くことができた問題もありました。これらの意見を活かして、かるたの問題を今一度見直し内容に漏れのないように、そして新たな情報を随時追加し説明することができるよう、改善していきたいと思えます。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科1年 角 優子

4. 学生参加者数 6名

5. 企画学生の感想

今回は初めてカルタを運営して、4年生の先輩を頼りすぎたり読みの練習不足などの課題が出たので、4年生の先輩に頼らず、事前にリハーサルもした為、大事な部分を強調できた。また、パワーポイントを改良した為、解説を読むだけになっていた課題も克服できた。しかし、今回もオンラインでカルタを実施した際、画面の向こうに多くの参加者がいて反応がわかりずらかったり、一方的にクイズをするだけになってしまい、画面の向こうの参加者の考えを聞けなかったという課題も出た。代が変わりカルタを改良し、それとは別に新しいものを作ることになったので今回出た課題を克服できるものにしていきたい。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 経済学部経済学科1年 滝野 健太

初めてのオンラインでの防災クイズカルタの運営だったので、先輩方や宮崎さんに頼りすぎてしまったところもあったかと思えます。やはり、オンラインで大勢での防災クイズカルタをすると画面の向こうの参加者がどの札を出したかなど反応が分かりづらかったと思えます。オンラインで大勢の方が出来るように工夫していきたいと思えます。至らない点も多々ありましたが、釜石で行われた災害講座にオンラインで参加させていただけたことをとてもうれしく思えます。被災していない地域に住む私たちも被災地でのボランティア活動や防災に目を向け、自分たちができることは何かを考えて行動していることを、被災地の皆さんに理解していただけたら幸いです。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科1年 角 優子



オンライン上での防災クイズカルタ体験



「ぼうさいこくたい」での発表を終えて

38.「あすチャレ！ Academy」

1. 日 時 2021年11月11日(木)

2. 場 所 Zoom

3. 概 要

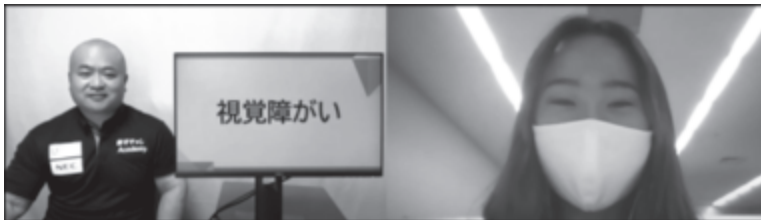
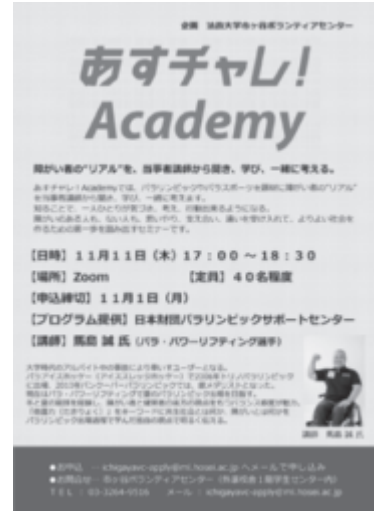
「あすチャレ！ Academy」は日本財団パラリンピックサポートセンターが行っているパラアスリートから障がいやパラリンピックについて学び共生社会、より良い社会について考える研修プログラムで、今回はパラ・パワーリフティング選手として活躍している馬島誠氏に講師として登壇いただきました。馬島氏はご自身が大学時代のアルバイト中の事故により車いすユーザーとなり、2010年のバンクーバーパラリンピックではパラアイスホッケーで銀メダルを獲得、現在はパラ・パワーリフティングで次のパラリンピックを目指しています。本研修は、Zoomでの開催でしたが、講義、体験、ディスカッションがバランスよく組み合わせられており、講義では馬島氏の車いすユーザーとしての体験談やアスリートとしての苦悩や葛藤等リアルな経験を基に講義をいただき、体験で視覚障がいや聴覚障がいのある方の疑似体験をしました。ディスカッションでは日常にある場面を想像できる問題をテーマとし、積極的に学生達が意見を交わされました。最後は研修のタイトルともなっている『あすチャレ！』について、「明日から何にチャレンジしていく？」かを一人一人が考え、決意表明をして閉幕となりました。普段は中々聞けないような障がい者のリアルな話が聞ける、質問できる貴重な機会となっており、学生も積極的に研修に参加している姿が印象的でした。

4. 学生参加者数 23名

5. 参加学生の感想

・視覚に障がいを持っていて駅にいるという状況の疑似体験をした際、こうやって誘導されたり声をかけられると安心だな、逆にこれされると不安だななどと感じたことから、改めて当事者の方の視点に立ってみる、そしてそこで感じたことをその後のコミュニケーションで生かしていくということが大事だなと思いました。また、「顔晴る」など印象に残る言葉が多くあり、今回の講座に参加したことで、気持ちが前向きになったような気がします。本日はこのような貴重な機会を設けてくださり、ありがとうございました。 20代 男性

・できないことを数えるのではなく、できることに全力で取り組んでいこうとする姿勢は障がいの有無にかかわらず誰もが目指すべきだと感じました。講義の中で特に驚いたのは消毒液のお話です。足で踏むタイプのものは非接触で液を出せるのでとても画期的で良いものだと思っていました。しかし、車いすや松葉杖などで足で押すことが難しい人々にとっては使いにくいものであると初めて気づきました。自分が使いやすい＝バリアフリーではなく、他の立場に置かれた人のことも考えていかないと感じました。 10代 女性



講師の馬島氏に質問をしている様子



明日からチャレンジしたいこと『あすチャレ！宣言』を書いた紙を持つ集合写真

39. 〈麒麟福祉財団助成事業〉 つながるゼミ with 岩手大学「三陸委員会ここより」

1. 日程 2021年11月13日(土)
2. 場所 大内山校舎5階Y506教室、Zoom

3. 概要

今回の企画は、もともと今年2021年8月に行う予定であった「東北被災地ボランティアツアー」が新型コロナウイルスの影響で11月に延期することになったため、その代わりとなる企画として提案されたものである。しかしその後感染者が減少した為、日程を変更し、無事実施できることとなった。そのことから、「東北被災地ボランティアツアー」の事前説明会の後に、被災地に関する事前学習的な意味合いも込めて行われる運びとなった。

この企画は岩手大学の『三陸委員会ここより』さんのご協力のもと、ハイフレックス形式で行われた。これまでのチーム・オレンジ主催の企画の中には現地の語り部さんに協力していただく企画はあったものの、我々と同世代の現地の大学生と話す企画というものはなかったため、今までにない企画となった。企画内容は以下の通り。

- (1) 本企画の概要説明
 - (2) チーム・オレンジの紹介
 - (3) 『三陸委員会ここより』さんの紹介
 - (4) チーム・オレンジから『三陸委員会ここより』さんに対し、パワーポイントを使って東日本大震災で被災した関東の被害状況の説明
 - (5) 『三陸委員会ここより』さんからチーム・オレンジに対し震災に関する質問提起、それに対する我々チーム・オレンジ側からの回答
 - (6) チーム・オレンジから『三陸委員会ここより』さんに対し震災に関する質問提起、それに対する相手側からの回答
 - (7) 『三陸委員会ここより』さんとチーム・オレンジ、そして「東北被災地ボランティアツアー」一般参加者を交えてのグループディスカッション
- 本企画は今のチーム・オレンジメンバーにとって、より震災について、そして被災地について理解を深めようと意識を高めるきっかけになったと感じる。それはチーム・オレンジメンバーだけでなく、参加者全員にとってもそうであつたらうと信じている。こういった、被災地への理解に一歩踏み出そうとしている人の背中を押せるような企画をこれからも考えていきたいと強く思う。

最後に、『三陸委員会ここより』さんのご協力があったからこそこの本企画である為、お礼を述べてこの場を締めさせていただきます。このご縁をまた新たな企画・交流につなげていけたら良いと思う。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部法律学科2年 石田 里菜

4. 学生参加者数 34名

5. 参加学生の感想

東日本大震災当時の状況や心境を同年代の方々から直接聞くことができ、東北被災地ボランティアとは違った発見があった。ディスカッションの時間には、ディスカッションテーマ「これからの災害支援ボランティアのあり方」について、ここよりさんが「災害支援にはこころの傷を負った方を助けるためにそれなりの技術が必要だから、研修を行うべき」という意見を出されていて、現地で被災された方のこういった意見はとても貴重だと感じた。つながるゼミで得た交流を自分達のボランティア活動にも活かしていきたい。

法学部政治学科2年 高橋 果蓮



チーム・オレンジの被災地支援活動を紹介



Zoom を使い岩手大学と意見交換

40. 東京メトロ飯田橋駅ボランティア研修会

1. 日 程 2021年11月13日(土)

2. 場 所 富士見ゲート1階 学生ホール、
東京メトロ飯田橋駅構内

3. 概 要

東京メトロさんの協力の下、5回目となる「メトロボランティア講習会」が行われました。この研修は、東京メトロ飯田橋駅構内で見守りサポートボランティアを行うための知識を得たりスキルを高めたりするためのものです。研修を終えると、ボランティア認定証を受け取る事が出来て駅構内でのボランティア活動が可能になります。5時間にわたる長丁場でしたが、参加者同士で声を掛け合いながら楽しく学ぶ事が出来ました。

企画の前半は、日本ケアフィット協会インストラクター八木桃子さんのご指導によるサービス介助基礎研修を受講しました。前半は座学中心の講義を受講しました。障がい者が感じる社会的障壁や様々な障がいの特徴について学びました。白内障を体験できるゴーグルを身に付けて歩いたりして、当事者の気持ちを身をもって理解することが出来ました。後半は、車椅子を利用するお客様や白杖をお持ちのお客様のサポートの仕方を学びました。ロールプレイを通して実際に学んだことを実践しました。介助する側とされる側の両方の経験が出来て、いかに当事者にとって私たちのお声かけが安心に繋がるかということを理解しました。

研修の後は、実際に飯田橋駅に向かって駅構内の見学を行いました。見学では、メトロの社員さんと先輩メトロボランティアメンバーが分かりやすく案内してくれました。お客様によく聞かれやすい場所やエレベーターの設置場所などボランティアに生かせる知識をポイントで学ぶことが出来ました。さらに、構内見学を通じて既存メンバーと新規メンバー間での交流も生まれました。見学の後は、メンバー各々が自己紹介を行い、「メトロボランティアを行いたいと思ったきっかけ」などを共有しました。ボランティアへの更なる意欲向上に結びついたと思います。

今回の講習会で得た知識をこれからの駅構内での活動に活かしていきたいです。さらに、普段から駅を利用する際にも今回学んだことを心に留めておきたいと思います。

東京メトロ飯田橋駅ボランティア学生スタッフ 法学部国際政治学科3年 金沢 ひなた

4. 学生参加者数 18名

5. 参加学生の感想

今まで車椅子に乗ったことも押したことも無かったので、安定していて安全な乗り物だと考えていた。しかし、実際に乗って押してもらった際に、自分で動かしていないのに、非常に簡単に動いてしまうことがあったり、段差を上り下りする時には、体が物凄く斜めになるという感覚があり、凄く怖かった。きっと、車椅子をご利用のお客様はこのような気持ちをしているのだということを知ることができたので、相手の方が不安な思いをしないように、細かなところにも気を配りながら、対応したいと思った。

法学部法律学科2年 桜井 菜摘

先日のメトロ研修会に参加をして、飯田橋駅構内での活動に必要な知識を得たとともに、それ以外の様々な場所でも応用できる知識や考え方を身につけることができ、とても有意義な時間を過ごせました。なかでも、社会に生きる上で様々な人が生活をしているということを頭では理解はしていても、経験をして初めて自分とは違う境遇にある人の気持ちが分かるものだなと様々な体験会を通じて学べたことが特に意義深く感じました。

経営学部経営学科3年 五味 祥紀





段差を使って車いす使用の方のご案内方法を学ぶ



東京メトロ社員さんから駅構内の案内を受ける



講習室でボランティアの心構えを聴く



研修会終了後、全員で集合写真

41. [3大学連携事業] 琵琶湖ツーリズム! 大学生で考える環境ボランティアの未来

1. 日程
- ・オンライン講座、事前説明会 9月15日(水)
 - ・事前交流会 11月1日(月)
 - ・実践編(ボランティア活動) 活動日 11月14日(日)

2. 場所
- オンライン講座、事前説明会、事前交流会 Zoom
実践編(ボランティア活動) 滋賀県・琵琶湖畔

3. 概要

11月14日関西大学合同琵琶湖企画に法政大学から8名で参加しました。実施日の前にはオンライン(Zoom)で勉強会と交流会が開催され、琵琶湖博物館の担当者をお招きし、琵琶湖の環境保全(外来植物)と駆除活動に係る心構えなどを学びました。また、関西大学と近況報告等も行いました。当日は、胴長を着用しオオバナミズキンバイとナガエツルノゲイトウを中心に駆除活動を行いました。この2つの植物は繁殖能力が非常に高く、少しの莖でも断片から成長し、面積を拡大していく特徴があるため出来るだけ残さないように丁寧に駆除活動を行う必要がありました。膝まで水に浸かり、動きにくい中で作業でしたが作業前と比べると外来植物がかなり減り、達成感を感じることができました。外来植物について知識を得るだけでなく、関西大学の方と交流しながら実際に琵琶湖で駆除活動を経験することができ、とても良い機会になりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科2年 中野 日菜

4. 学生参加者数
- | | |
|---------------|-----|
| オンライン講座事前説明会 | 45名 |
| 事前交流会 | 20名 |
| 実践編(ボランティア活動) | 37名 |

5. 参加学生の感想

今回、琵琶湖に行ったのも初めてでしたが、私はこれまで環境系ボランティアにはあまり参加したことがなかったので富士山企画と合わせて2回目でした。外来種生物の影響などは普段あまり意識することがなく、この企画で初めてオオバナミズキンバイとナガエツルノゲイトウという外来植物の存在を知りました。実際に琵琶湖内で見分けるのは難しかったですが、少しでも外来植物を減らすことに貢献できていれば良いと思います。また、活動しながら関西大学の学生さんたちと交流できたのもとても楽しかったです。ボランティアセンターの学生スタッフをしている方とは、普段どのような活動をしているのかという話や、それ以外の方ともお互いの大学生活、学部のことなどを話すことができました。今後もっと、関わりを増やし、仲を深めることもできたらより楽しく活動できそうだと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部心理学科2年 緒方 晴香

今回の活動は自分にとって初めてのことはばかりでした。琵琶湖を訪れたこと、外来植物の駆除活動、他の大学の人と関わったこと全てが新鮮で自分の知っている世界の狭さを痛感しました。普段の生活では感じることでできないものを多く得られたように思います。多くのことを感じた一日でしたがその中でも外来植物問題の深刻さをとても強く感じました。今回の活動はわずかな範囲でしか行っていないにも関わらず大勢による一日作業になりました。琵琶湖中で同じ作業を行わなければ良好な生態系を維持することができないということに外来植物問題の大変さを強く感じました。人間が原因を生み出してしまった問題には責任をもって人間が解決していく必要があると思います。なかなか成果が見えづらく大変な作業でも無責任にならず、協力しながら地道に活動を行っていくことが大切なのだと感じました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部建築学科3年 遠山 開



湖面に生息する外来植物を駆除する



駆除した植物を協力して運搬する

42. “食べきることで地球に手助け”フードロスヘキサゴン

1. 日 時 2021年11月15日(月)

2. 場 所 Zoom

3. 概 要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ VSP は、学生に食品ロスの現状と改善策を考えてもらうための企画を行いました。NPO 日本もったいない食品センターの高津博司様に食品ロスについて現状と改善策を知るための講義していただいた後、ワークショップを行いました。ワークショップでは肉、魚、野菜、フルーツ、乳製品、食品加工品のグループに分かれそれぞれの食材が作られ私たち消費者の元に届くまでのサプライチェーンで「どのような食品ロスが発生しているのか、どうすれば減らせるのか」をテーマにディスカッションし全体に共有を行いました。

参加者の中には法政大学以外にも共立女子大学、東京家政学院大学から熱意のある学生が参加して下さり非常に活気の溢れるディスカッションを行うことが出来ました。

企画を行うにあたって苦労した点は、メンバーのほとんどが企画初心者であり何から始めていいかも分からない状態だったため、探し探りて企画を進めていくのが大変でした。企画を通してこれからの社会を担う学生に食品ロスについて考えて欲しいというメンバーの思いがあり、参加した方々が少しでも食品ロスへの意識が変われば幸いです。



ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経済学部経済学科2年 橋本 悠史

4. 学生参加者数 32名

5. 企画学生の感想

フードロスをテーマにしたことについて、近のSDGsの推進、国をあげてのロス削減推進などから、時流に即した内容だと評価できる。また、時間が限られている中で講義とディスカッションを一度に盛り込めたのは、参加者を飽きさせることなく企画を進行できた要因の一つだと感じる。当日ハプニングが起ってしまったが、何かを成し遂げるには、頭で描いた計画だけでなく入念な準備が必要であることを実感でき、個人的には収穫だった。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科3年 飯嶋 幸喜

6. 参加学生の感想

私は、食事を残すという行為が絶対に許されるべきことではないと前々から感じており、それに対する知見を深めようと今回参加させていただきました。今まで関心があったテーマでしたが、初めて知れたことも多くあったので充実した時間になりました。特に、「美味しく食べる時間を伸ばす努力をすること」という観点を持つといった点と、規格外野菜をただ安価で売るのはなく、子ども食堂や困窮者に譲渡すべきなのは、といった意見は自分自身、考えたことがなかったのでとても良い気づきとなりました。

スポーツ健康学部スポーツ健康学科1年 浅見 拓海



6食品群のフードロス解決について話し合った



問題解決について各グループから発表

43. ファストファッション沼救出作戦！ ～環境に配慮した自分なりのおしゃれを見つけたい人大集合！～

1. 日 時 2021年11月18日（木）

2. 場 所 大内山校舎Y603教室

3. 概 要

2021年現在、企画から販売まで一か月も要しないファストファッションがファッションの主流となっている。ファストファッションによる大量生産・大量消費が引き起こしたのは文化の画一化だけでなく、環境への悪影響だった。しかし大学生である私たちが、サステナブル素材を使用したブランド服を買うには限界がある。そこで考えついたのが「ファッションの楽しみ方が人それぞれならばサステナブルの取り入れ方も人それぞれ違っていいのではないか」ということだ。

私たち企画メンバーは、ファストファッションへの依存脱却を望む参加学生一人一人が自分なりのサステナブルファッションを見つけることを目的として本企画を実施した。本企画は、国際環境NGOグリーンピース・ジャパンの儀同千弥様にお越しいただき、ファッション産業が環境に与えている影響とその実態について講義を受けた後、参加学生同士でグループディスカッションを行った。グループディスカッションでは各々が洋服の購入時に意識していることや購入失敗談、サステナブルファッション情報の共有を、また講義を踏まえた上で今後どのようなことに考慮して洋服を購入するか計画を立てた。

普段から環境負荷を考えながら洋服を購入している学生もいれば企画タイトル通りファストファッション沼にしっかりとハマっている学生もいて、いつもとは異なる視点から意見交換をすることができたのではないかなと思う。サステナブルファッション＝環境に良い服という枠に捉われず、自分に合ったアプローチ方法を見つけるきっかけになれていることを願っている。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科1年 田中 菜生

4. 学生参加者数 21名

5. 企画学生の感想

この企画が始まった当初と比べて自分の知識も消費者としての意識もより深くなり、変化しました。しかしまだやっとスタートラインにいる状況なので、ファッションが環境に与える負担を解決するのに自分達に何ができるのかをより追求していき、そのための実践的な企画などもできたらいいなと思っています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科1年 イザディ アイナース

今回のファストファッション沼救出企画では、多くの参加者を募ることができ、やりがいを感じられた。また参加者はファッションに関心がある人が多かったため、ディスカッションの場では参加者同士が積極的に意見交換を行い、この問題に対して一人一人がどう向き合っていくかを他者の意見を聞きながら考えるという目標を達成することができた。そして企画実施後には参加者から第二弾実施の希望や今後どのような場が欲しいかなど、多くの意見をいただくことができ非常に嬉しかった。ここで得られたことを今後のボランティア活動に活かし、また第二弾も企画したいと感じた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部国際文化学科2年 山本 綾夏



多くの学生が関心を持って集まった



VSPメンバーによる司会の様子

44. ダウン症のある方と巡る市ヶ谷キャンパス！ ～ミッションを通して新たな仲間と繋がる～

1. 日程 2021年11月19日（金）
2. 場所 外濠校舎5階S505教室、市ヶ谷キャンパス内
3. 概要

「ダウン症」という言葉は知られている一方、当事者に対する理解は深まっていないという問題意識がある。偏見や差別的意識を持たず「個人として」関わるには、彼らのことを知り、実際の交流を持つ必要があると考え、ダウン症のある方々との交流を主とした対面型イベントとして実施した。

当日はダウン症のある方と学生で3、4人のチームに分かれ、市ヶ谷キャンパスを巡るツアー形式で実施した。初めはチーム名を決めるなどアイスブレイクを各チームで行い、自己紹介をした。その後、チームごとにミッションのクリアを目指したキャンパス内ツアーを実施。ここでのミッションとは、「法政大学のロゴマークを見つけて写真を撮る」、「配布されたミッションカードと同じ色の大内山校舎のフロアを見つけて写真を撮る」等、計5つ設定されたものである。ツアー中は本部で待機する保護者の方々に様子をお届けするために、LINEのオープンチャット機能を用いて随時写真を共有し、盛り上がりの様子をリアルタイムで確認できることを可能にした。ゴール後は参加者全員で感想共有を行うことでアウトプットの機会を設けた。

今回のダウン症企画は第3弾としての位置づけであり、第1弾、第2弾はオンラインで実施した。第1弾では、協力団体さんによる共生社会についての講義とそれを踏まえたワークショップを実施。第2弾では、当事者の方々とオンライン交流を行うイベントを行った。これらの経緯を経て第3弾は対面での交流が実現し、立案当初からの希望が叶えられた瞬間であった。ルートの下見や配布資料であるミッションカードの作成等、念入りの準備を行った。今後はさらに充実した企画が実施できるよう検討を重ね、継続していきたい。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 宇野 瑠奈
法学部政治学科2年 平津 桜那

4. 学生参加者数 19名（法政大14名、共立女子大5名）

5. 企画学生の感想

ダウン症の企画を立ち上げてからこれまで2回にわたりイベントを開催し、今回初めて対面でお会いすることができて何より「楽しかった」という気持ちが率直な感想です。企画者側としては、参加してくれた方々と学生さんの生き生きとした姿を見られたことが、何より達成感を得る瞬間でした。学生の感想にあったように、実際に肌で感じ、交流する経験は想像とは全く違った様々な気づきにつながることを改めて感じました。双方にとって良い機会になっていたらうれしいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 宇野 瑠奈

初めての対面企画で開催当日のトラブルへの不安がありましたが、アクセプションさんが「トラブルも楽しんでほしい」と仰ってくださったため全力で企画に取り組むことができました。ダウン症の有無に関わらず1人の女の子と交流を深められたことをとても嬉しく思います。特にLINEでオープンチャットを作成し活動中の写真を流すという工夫で待機中の保護者の方にも楽しんでいただけたことが良かった点です。継続的な企画への要望も多かったため、交流を続けていけたらなと思っています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科3年 百瀬 沙彩



私は今回初めてこの企画に企画メンバーとして参加しました。今回初めての対面での実施ということで、これまでの2回で企画メンバーが積み上げてきたものを大切に、対面で成功させられるよう、慎重に企画を進めることができましたと思います。当日は参加者の皆さん、学生の皆さんが楽しそうな表情でミッションツアーをしており、とてもうれしかったですし、私自身もミッションツアーに参加して、とても楽しかったです。多くの方々から楽しかったというお声を頂いたため、継続してこの企画を続け、さらに交流を深めていきたいと思っています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科2年 平津 桜那

6. 参加学生の感想

今回のイベントを通して、ダウン症に対する印象が大きく変わりました。イベント参加前は、ダウン症の人との交流を楽しむことは難しいと考えていました。しかし実際、子供達は気持ちを素直に話してくれて、感情表現豊かに楽しんでくれました。また、自由に様々な絵を描く姿に想像力の豊かさも感じました。そして、このような子供達と接する中で、子供達が何を考えているのかを想像し、理解していくことが楽しかったです。今後は先入観を持たず、彼らを理解することに努めたいと思います。

法学部法律学科4年 福地 寿希



最初に参加者による自己紹介を行った



ミッションクリアして景品を手に入れた



待ち時間は黒板に絵を描いて楽しんだ



参加者全員で記念撮影、また会いましょう

45. むすびえ子ども食堂講座

- 1. 日程 2021年11月20日(土)
- 2. 場所 大内山校舎Y405教室、Zoom
- 3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンターの学生スタッフVSPは、子ども食堂に興味はあるが、参加できていない人に向けて、子ども食堂とは何かを知ってもらい、子ども食堂に関わる一歩を踏み出す機会を提供するために本企画を実施しました。新型コロナウイルスの影響により、オンラインとオフライン両方を組み合わせたハイフレックス型での実施となりました。本企画には、NPO法人 全国子ども食堂センター・むすびえから複数の講師の方がいらしてください、子ども食堂とは何かについて講義をしてくださいました。また、阿佐ヶ谷の子ども食堂「ガヤガヤ食堂」にもご協力いただき、子ども食堂の様子を動画で紹介したり、実際に中継したりして講義内で映像を流しました。講義後はその内容を踏まえて、「子ども食堂のイメージがどう変わったか」「子ども食堂の将来像について」をテーマとしたグループディスカッションを行いました。

同年代の講師の方のお話を聞いたことや、子ども食堂の普段の姿を動画などで見たことで、子ども食堂について知識を深め、実際にボランティアに行きたいという姿勢が見受けられました。本企画は次のボランティアに繋がる良い機会となったと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科2年 田中 みのり

- 4. 学生参加者数 50名(法政大29名、共立女子大8名、東京家政学院大13名)

5. 企画学生の感想

今回は本学学部生だけでなく、他大学の学生も参加し、多角的な視点から子ども食堂について考えるいい機会となった。講義の前に現段階での子ども食堂のイメージを、グループごとにチャットで共有することで、Zoom参加者や講師の方々と、対面の学生や企画者の温度感に差が生まれず、全員が能動的に講義に参加することができた。また、当日はハイフレックスだったこともあり、予定していたタイムスケジュール通りに開催することができなかった。想定外のトラブルが生じることを加味した上で、対面のみで開催する企画よりも、時間に余裕を持たせる事が重要だと感じた。今回は講義やディスカッションに加えて、動画や現場の中継など、多くを盛り込んだ企画に携われた経験を今後のVSPの企画にも活かしていきたい。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科1年 今給黎 優那

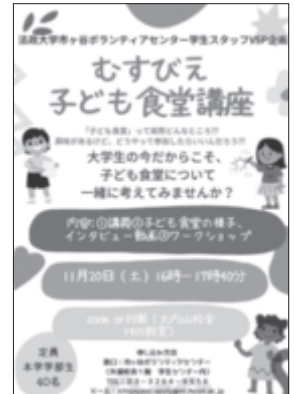
6. 参加学生の感想

子ども食堂に実際に携わっている人たちの話や、動画やリアルタイムでの現場を見ることができたので、より興味を持つことができたし、地域によって特色が違うと思うので、さまざまな子ども食堂に行ってみたいと思いました。このような企画を作ってください、ありがとうございました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 銘苅 円花

子ども食堂の役割について、知らなかったことを学べて良かったです。子どもだけでなく、高齢者など地域の人々が交流する場所として子ども食堂が意義を果たしているのは、とても素晴らしいことだと思いました。大学生はいるだけでいいという言葉から、あまりハードルを上げすぎないで参加をしてみてもいいのかもしれないと考える機会になりました。ありがとうございました。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 木島 有彩



NPO法人むすびえの方の講義



対面参加の学生によるディスカッション

46. 〈キリン福祉財団助成事業〉 東北被災地ボランティアツアー

- 1. 日程**
- 事前説明会 2021年11月13日(土) ※つながるゼミ with 岩手大学の前半が事前説明会
 - 第43次隊 2021年11月20日(土)～21日(日)
 - 第44次隊 2021年11月27日(土)～28日(日)
 - 事後報告会 2021年12月10日(金)
- 2. 場所** 岩手県陸前高田市・釜石市

3. 概要

2021年11月20日～21日、11月27日～28日の2回にわたって東北被災地ボランティアツアーを行いました。本企画は、NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークさんのご協力のもと、実際に現地へ足を運び被災地の今を知ること、現地の方の講和や資料館見学を通じた震災学習、そして現地でのボランティア活動、この3点の目的を中心に開催されました。本来は8月に開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により延期が繰り返されました。現地の方たちのご協力のもと、感染症対策をした上でようやくこの企画を実施することが出来ました。

1日目は、陸前高田市の高田松原公園で、震災遺構や現在の陸前高田市についてガイドを行っていただき、震災当時から現在に至る被災地を知ることが出来ました。次に、3.11 仮設住宅体験館へ行き、実際の仮設住宅の中を見学しました。仮設住宅の窮屈さや不便さを身をもって感じました。その後、NPO法人LAMPさんと共に、リンゴ農園で収穫後の後片付けのボランティア活動を行いました。LAMPの方々とお話をしながら楽しく活動出来ました。最後に、東日本津波伝承館に行き、震災当時について学びました。実際に被害を受けたものの展示や、震災直後の映像をみて、改めて津波の恐ろしさを感じました。また、ニュースで大きく報道されていない、震災の裏で多くの命を救おうとした人々の姿を知ることが出来ました。

2日目は、釜石市の宝来館で、女将さんからの講和を行っていただきました。海が向かい側にある宝来館も実際に津波にのまれ、女将さん自身も一度津波にのまれたそうです。その時の映像はとても衝撃的でした。当時の状況の悲惨さから、未来に向けた釜石市の取り組みまで、幅広くお話していただき、今の私たちに出来ることを考え直し、これからの防災のあり方について見つめなおしました。その後行った根浜海岸で根浜MINDの方々と清掃ボランティアでは、海浜植物の保全を目指す地域の方々に、少しでも協力できるように頑張りました。この2日間、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。実際に現地へ訪れ、生の声を聞くことがどれだけ重要で価値があることなのかが分かりました。震災から10年が経ちましたが、このツアーを通し、東日本大震災を風化させてはならないと改めて感じました。ここで得た学びを次は私たちが伝えていく必要性を感じ、これからのチーム・オレンジの活動に繋げていきたいと思えます。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科2年 宮本 花穂

4. 学生参加者 29名

5. 企画・参加学生の感想

今回初めて被災地に訪れボランティアを行うことで、当時の大変さなどを学ぶことが出来ました。仮設住宅では家としての構造はしっかりしていても、4人以上で2人用の部屋に5、6年暮らすと考えると、家具なども増えさらに狭い空間になり、精神的ストレスは想像以上だなと感じました。津波伝承館では、当時震災を受けた車や信号などが展示されており、本当に津波の損傷とは考えられなかったです。現地の方からは、町の復興の9割は回復していると聞いて、あとは精神面の回復の方が優先されるのかなと今回のボランティアをとおして感じました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ デザイン工学部建築学科1年 滝 隆也



今回の東北被災地ボランティアツアーに参加して良かった。震災から10年が経過し被災地のことを知る機会が減っている中、現地の方々のお話や震災遺構を見学することによって、当時を知る機会を得られたことは非常にいい経験だった。現地の方々の復興への思いや未来に繋げていこうとする思いがひしひしと伝わってきた。この方々の思いをどのように微力ながら助けることができるのかが課題であると感じた。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部日本文学科1年 中田 敬人

私の地元も被災地の岩手県の沿岸にあるが、陸前高田市には初めて訪れた。地元と比べると空き地と震災遺構が多いと思った。震災当時のことを思い出すため震災遺構を保存するには葛藤があったと思うが、保存すると津波の恐ろしさが伝わりやすいと思った。宝来館の岩崎女将から、震災の時に家に戻って犠牲になった人が多かったと聞き、また女将の「戻った人は戻らない」が印象的だった。女将が震災後に車椅子用の避難道を整備したことを仰っていたので、障がい者や高齢者が災害時にどうしたら安全に避難できるか学びたいと思った。この2日間を通して実際に現地の方々から要望が多かった、被災地の魅力を伝えたいと思った。被災地の魅力を伝え、実際に現地を訪れてもらって、震災のことを学んでもらいたい。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 経済学部経済学科1年 滝野 健太



リング畑で収獲後の片付けを手伝った



現地の語り部ガイドの方からお話を聴く



作業を終えて集合写真



海岸近くでのボランティア作業

47. 空き家リノベ×地域再生 ～空き家を生かした地域再生方法を考えよう～

1. 日程 2021年11月22日(月)

2. 場所 Zoom

3. 概要

空き家は年々増加しており、景観に対する苦情や放火など、地方では深刻な問題となっています。我々は持続可能な社会を実現するためには、空き家問題を解決する必要があると考えました。しかしながら、空き家問題は複雑で、我々学生が空き家問題解決のために何ができるのかわかりませんでした。

そこで、NPO 法人すまいるより福田徹氏をお招きし、オンラインで空き家問題についてオンライン講義をして頂きました。約 40 分間の講義を通し、空き家がなぜ発生するのか、空き家の何が問題なのか、空き家問題の解決方法について学ぶことができました。講義の後、講義で学んだことと事前資料をもとに具体的な空き家の利活用方法についてディスカッションを行いました。このディスカッションでは、空き家の利活用方法だけでなく、その利活用方法を実施することで発生するインパクトについても考えてもらいました。このディスカッションを通して、様々な意見が飛び交い、我々企画学生だけでは考えつかないような新しい視点も得ることができました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部国際文化学科1年 水上 明莉

4. 参加学生者数 28名

5. 企画学生の感想

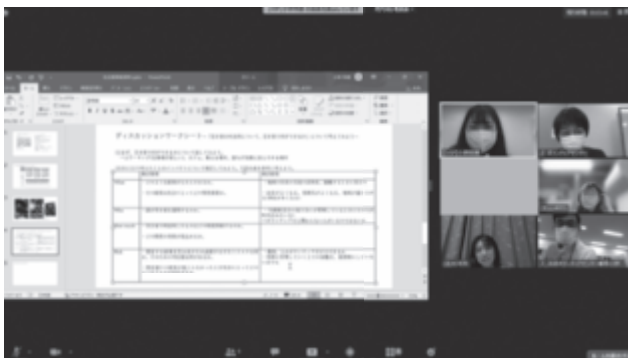
空き家問題から地域再生につながるボランティアを考えてみたいと思い、今回企画メンバーとして参加しました。ディスカッションでは小田原市の現状からインパクトをより具体的に問題を考えて欲しく、参加学生に事前資料を配布しました。多くの学生がそれに目を通し、加えて自分で周辺情報を調べて議論に臨んでいました。そのためディスカッションの最初から意見が飛び交い、非常に濃い時間を過ごすことができた学生が多かったです。ディスカッションに関して、高評価をいただけたのでやりがいを感じました。今後の企画でもディスカッションが活発になるような工夫をしていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部地理学科1年 小林 咲穂

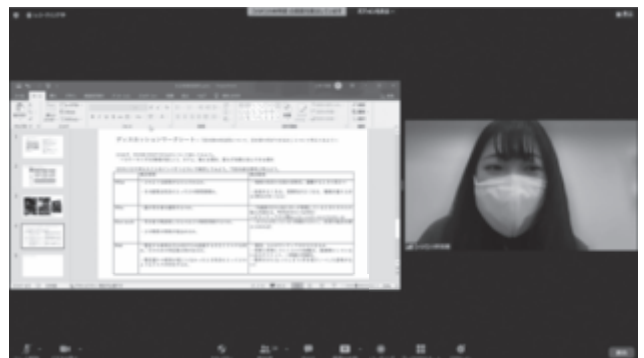
6. 参加学生の感想

空き家の活用方法はやはり、カフェや民泊などの宿泊施設といった考えが出がちですが、ディスカッションを通して様々な意見を聞き、塾としての活用や、近くに言語学校があるため日本の文化を学ぶための場にするなどの面白い意見を聞けることができ、自分のなかでの空き家の活用方法の考えが広がりました。また、それを誰が運用するのが良いのかなど、空き家をリノベーションした後のことも考える良い機会となりました。また機会があればボランティアに参加してみたいです。

3年 女子



空き家の利活用についてのグループワーク



VSP 企画メンバーによる司会進行

48. 石川県学生災害ボランティア講座

1. 日 程 2021年11月27日(土)
2. 場 所 Zoom・石川県地場産業振興センター

3. 概 要

公益財団法人石川県民ボランティアセンター・学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会の主催による「石川県学生災害ボランティア講座」が11月27日(土)に行われ、チーム・オレンジのメンバー8名が講師として参加しました。

当イベントは新型コロナウイルス(COVID-19)感染症対策としてオフラインとオンライン両方での開催となり、私たちチームオレンジはオンラインで防災カルタ班と防災キャンプ班の活動報告を行いました。また、防災カルタ班からはzoomを通して参加者の方々と防災カルタの実演も行いました。

当日のスケジュール

- (1) チームオレンジの活動についての説明
- (2) 防災キャンプの概要
- (3) 2021年度防災キャンプの活動報告
- (4) 防災カルタの概要
- (5) 防災カルタの実演
- (6) 防災カルタアンケートの案内
- (7) チームオレンジの発表終了

今回は新型コロナウイルス感染症を考慮しzoomを用いたオンラインでの開催となったため、各班はそれぞれオンラインにおいてどう発表を行うか綿密な打ち合わせを行ってきました。中でも防災カルタ班はカルタの実演を行うこともあり、前日まで何度もリハーサルを重ねてきました。その苦勞があったからこそ、発表終了後のアンケートにて良い反応が得られたのではないかと考えています。一方その後の事後報告会にてメンバーからいくつかの改善点が出ました。当イベント発表の成功を喜びつつ反省すべき点は反省し、今回の反省を今後の活動に活かしていきたいと思えます。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 1年 吉岡 拓人

4. 参加学生者数 8名(チーム・オレンジ) 講座参加者29名(金沢大学)

5. 参加学生の感想

今回の金沢大学とのオンラインカルタではゲームの進行がスムーズでなかったと思う。宮崎さんに頼ることになってしまい、私たちの進行も一方的なものになってしまったと感じている。パソコン同士がつながっているとはいえ、画面の向こうにいる参加者は複数いて、その参加者全員の反応を見ながら進めていくのは難しいと感じた。また、正解発表と解説がセットで行えていないことに課題があると思うので、ただ正解を知るだけでなく補足情報をしっかりと伝えられるような流れを考えなければならないと思った。カルタの内容や形態に関する指摘も多く頂けたので、それらの意見をもとにカルタを改善し、対面でもオンラインでも楽しみながら防災の知識を身につけられるものを作りたいと思う。

前回のぼうさいこくたいは初めてカルタを運営して、4年生の先輩を頼りすぎたことや読みの練習不足などの課題が出た。今回は4年生の先輩に頼りきりにならず、さらに事前のリハーサルもした為、大事な部分を強調できた。また、パワーポイントを改良した為、単に解説を読むだけになっていた課題も克服できた。しかし、今回もオンラインでカルタを実施する上で特有の課題が浮き彫りになった。前回と同様に画面の向こうに多くの参加者がいて反応がわかりやすかった。また、一方的にクイズをするだけになってしまい、画面の向こうの参加者の考えを聞けなかったという課題も出た。代が変わりカルタを改良し、それとは別に新しいものを作ることになったので今回出た課題を克服できるものにしていきたい。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 経済学部経済学科1年 滝野 健太



学生災害ボランティア育成講座・石川県の会場の様子



防災キャンプと防災クイズカルタについての説明をする様子

49. 学生応援！お米の配付

1. 日程 (第1弾) 2021年12月4日(土)～5日(日)
(第2弾) 2021年12月20日(月)～24日(金)

2. 場所 (第1弾) 福島県アンテナショップ(日本橋)
(第2弾) 法政大学市ヶ谷ボランティアセンター

3. 概要

千代田区社会福祉協議会と福島県西会津市の農業者の方々の「コロナ禍で困窮する学生さんに食べてもらいたい」とのご厚意により、一人あたり2キロ分のお米計400kgのご寄付をいただき、2回に分けて約200名に無料配布を行いました。第1弾は12月初旬に福島県のアンテナショップ(日本橋)で100名へ配付していただきましたが、第2弾は学内での配付となりました。お米を受け取った学生にはお礼のカードを書いてもらい、寄付をいただいた福島の農業者の方々へお渡ししました。

新型コロナウイルス感染症のため、アルバイトがなくなったり仕送りが減ったりと、学生達の生活が影響を受けていることもあり、お米を頂いた学生は皆嬉しそうでした。

4. 配布したお米の数 (第1弾) 200名程度
(第2弾) 100名

5. 学生の感謝の言葉

- ・新型コロナウイルスの影響により社会全体が苦しい中にもかかわらず、企画していただき、ありがとうございました。私も社会に貢献できる人になろうと思いました。
- ・このたびはありがとうございました。コロナ禍で苦しいのは学生だけでなく農家の皆さんも同じだと思います。私も頑張ろうと思いました。
- ・お米が無くなって本当に困っていたところです。本当に助かりました。ありがとうございます。



お米を頂いたお礼のメッセージ



ボランティアセンターでの配付を行った

50. 福島被災地スタディツアー

1. 日程 2021年12月5日(日)

2. 場所 福島県田村市、三春町

3. 概要

2021年12月5日に福島被災地スタディツアーを行いました。本企画は市ケ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」が企画し、チーム・オレンジだけではなく、学内の一般学生も参加し、福島県の被災状況や復興に向けた様々な取り組みを学ぶことができ、多様な視点から福島県の現状を知ることができました。本企画のスローガンは、「福島と放射線～震災から10年・「当時」と「今」～」でした。

午前中には、田村市にある「あぶくま洞」に訪れました。悠久の時をかけて創られた大自然の造形美を生で見ることができ、感銘を受けました。また、震災当時どのような影響を受けたのか、周辺地域のお話も含め詳しく話していただきました。

バス車内では、参加者全員で防災かるたを実施し、チーム・オレンジメンバーの被災した当時の体験談等の企画を行いました。バス内でも有意義な充実した時間を過ごすことができ、防災についての意識を高めることができました。

午後は、三春町にある「コミュタン福島」に訪れました。放射線や環境問題を身近な視点から見て、環境の回復と創造への意識を深めました。福島の放射線の現状をパネルや360°シアターを通して理解を深め、正しい放射線の知識を身につけました。

今回のツアーを通して、10年経った福島県の現状を知ることができ、防災意識の向上に結びつけることができました。1日という短い時間の中で、貴重な体験ができ、参加学生の意識を変えることに繋がったのではないかと思います。3月にも宿泊型の東北スタディツアーを企画していますので、それに向け企画・運営を頑張っていきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科2年 常盤 歩未

4. 学生参加者数 39名

5. 企画学生の感想

今回、初めて福島を訪れたが、あぶくま洞では震災後の観光客の現状について話を伺うことが出来た。コミュタン福島では初めて放射線や原発事故について詳しく学んだ。訪れた2つの施設より、福島県の人々は放射線やその風評被害により被災当時から今でも苦しめられているということが分かった。放射線について自分の中で誤った知識が沢山あることを知った。私たちは、このツアーで得た正しい知識や学びを周りに伝えていく必要があると感じた。ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科2年 宮本 花穂

6. 参加学生の感想

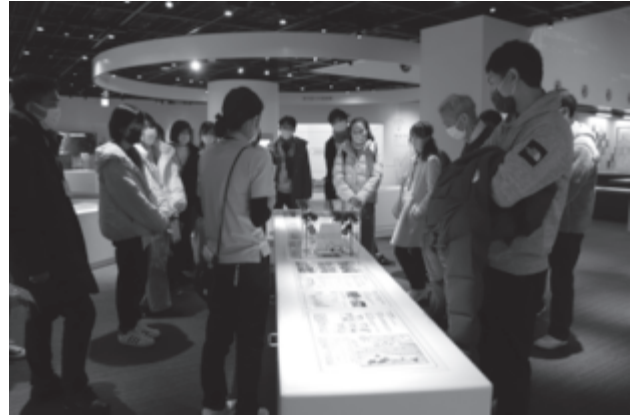
・10年という時が流れ、当時から関東に住んでいた私にとってはだんだん記憶が薄れていってしまっていた。そんな中で今回このツアーに参加して、当時の状況や、この地震による被害、影響について聞いていく中で忘れてはいけないものだということを改めて思い出した。特に福島の原発事故は当時大きなニュースとなっていて、さまざまな風評被害も広がっていた中で現状について特に気にかけてこなかった。今回コミュタン福島を訪れたことにより、正しい情報を得ることができた。当時から放射線が危ないものとは分かっていたし、福島でそれが大量に放出されたということは知っていた。しかし、10年たった今、それにまだ苦しめられている地域もあれば、人が暮らしてもなんら問題ない地域があることが分かった。今でも人が暮らせないほどなのではないかと考えていたが、地域によってはここよりも高い数値で普通に暮らしている国もあるのだと初めて知った。私にとって様々な発見のあるツアーだった。

・今までただただ先入観で福島は放射能濃度が高く、福島の作物を食べたり、福島に行ったりすることは危ないことだと思っていたが、原発事故関係なく放射線は日常的に浴びているもので今の福島の放射能濃度は危険なレベルではないと言うことをこのツアーを通して知れたのでよかった。日本人として、実際3.11を経験した身としてもっと前から知っておくべきことだと思ったが、今回知れて良かった。

福島被災地スタディツアー
法政大学ボランティアセンター主催/チームオレンジ企画
実施日: 2021年12月5日(日)
募集対象: 本学部学生 40名
参加費用: 3000円
申込締切: 11月22日(月)
申込方法: (市ヶ谷生) 市ヶ谷ボランティアセンターにて申込書に記入 (小金井・多摩生) メールまたは電話にてお問い合わせ
～スケジュール～
7:10 法大市ヶ谷体育館前集合
7:20 法大市ヶ谷体育館前出発
11:10 あぶくま洞到着
12:45 あぶくま洞出発
13:20 お食事処 ほうろく亭到着
14:30 お食事処 ほうろく亭出発
14:40 コミュタン福島到着
16:30 コミュタン福島出発
20:30 法大市ヶ谷体育館前到着
20:35 解散
お申し込み・お問い合わせ
市ヶ谷ボランティアセンター(内法政大1階学生センター内)
Tel: 03-3264-9516 E-mail: ichigaya-apply@fpu.ac.jp
Twitter: @teamorange



バス内で企画メンバーが行った震災学習



コミュタン福島で説明を受ける様子



東洋一と言われるあぶくま洞を見学



あぶくま洞見学後、集合写真

51. 手話講座（入門編）

1. 日程 2021年10月6日、13日、20日、
11月10日、17日、24日、
12月1日、8日（毎水曜日）

2. 場所 大内山校舎5階Y506教室

3. 概要

本講座は、手話の入門として、毎年、NHK手話キャスターをされていた中野佐世子先生をお招きし、手話の基本的な挨拶や指文字などを学ぶことができる講座になっています。前年度は、新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となりましたが、今年度は、対面で実施をすることができました。『みんなで遊べる手話ゲームブック』をもとに、ペアを組んでゲームをしたり、手話を使いながら歌を歌うなどして、とても楽しみながらたくさんの手話を身に着けることができました。

また、手話の勉強だけでなく、聴覚障害や視覚障害などへの理解を深めるために、障害のある人等に関するマークについて勉強したり、実際に街中で視覚障害の方とお会いした際のヘルプガイドの方法なども教えていただきました。

今回の講座を通して、手話の学習だけではなく、街中には様々な人々が使いやすいように工夫された仕組みがあることを知ることができました。今回の講座で学んだことが活かせるように、いろいろな視点に立って、困っている方がいたらお声がけできるようになりたいです。

また、参加して下さった学生さん方から「ぜひ習った手話を使って、ろう者の方をお話がしてみたい。」という意見をたくさんいただいたので、そのような企画を今後、実施できたらいいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科2年 並木 優衣

4. 学生参加者数 282名（全8回の延べ人数）

5. 参加学生の感想

今回の講座に参加し、手話に関する知識だけでなく、共生の在り方についても学ぶことができました。特に、周囲の人との共生には、「配慮」を意識することが大切であると強く感じました。例えば、難聴の方に対する声のかけ方です。どの方向からの声かけが、聞こえやすいのかを事前に把握しておくことで、お互いがスムーズに会話を行うことができます。常に自分ができることを探し、お互いが心地よく生活できるように心掛けたいです。

国際文化学部国際文化学科4年 花立 七彩

私が手話を勉強したいと思ったきっかけは、偶然、ある方が私の好きな曲を手話で歌っている動画を見たことでした。動画を作っていた方々のことはそれまで知らなかったのですが、日本語とは違う言語として、直訳ではなく意識して歌われているのを見て、英語に初めて出会った時のような、手話の奥深さに惹かれました。その方が、手話を学ぶ理由について、手話は、様々な方とつながり、夢と笑顔にあふれる世界をつくる第一歩だとおっしゃっていました。私も、人と人をつなげ、温かく平和な世界をつくりたいと漠然と思っていたので、手話を勉強し始めました。

手話講座を受講し、手話を学ぶだけでなく、様々な障がい者の方々と関わってこられた中野先生のお話を聞くことは、今まで学んできたことを仲間とともにより深く学ぶ良い機会になりましたし、これからの生活で、より多くの方に寄り添い、平和な世界をつくるきっかけになったと思います。学んだことを生かし、手話を続けることはもちろん、得た知識を生かしてすべての人が暮らしやすい社会を作りたいと思いました。

グローバル教養学部グローバル教養学科2年 佐野 風音

少し手話が身につけば良いなと思って通い始めたこの講座によって普段の生活での意識まで変わることができて本当に感謝しています。手話を覚えるだけではなく、障がい者を取り巻く環境やその問題について考えたり、学んだりする時間があつたからこそもっと手話を勉強したいと思えることができました。実際にエスカレーターではなるべく真ん中の方に立ってみることにしたり、バイト先に視覚障がいの方がいらっした時なるべく声で景色を説明するよう心がけたりすることができました。講座は終わってしまったけれどこれをきっかけにもっと人のことをみて行動できる人間になりたいし、手話も続けていきたいと思いました。私たちが親しみを持ちながら楽しんで手話に触れられるように教えてくださいましてありがとうございました。

文学部哲学科1年 山岸 奈央

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター主催・ボランティアプログラム

手話講座

入門編

楽しい歌やゲームも交えて簡単な会話を学びます。新型コロナウイルス感染防止のため、講座をオンライン（Zoom）で行う場合があります。

※手話初心者対象です。完全ゼロから出来る限り参加できる方を募集します。

10月6日（水）～全8回

10月6日、13日、20日、11月10日、17日、24日、
12月1日、8日（予定日12月15日）毎週水曜日に開催します。

時間：16:50～18:30（5限） 場所：Y603教室またはZoom
募集対象：法学部学生・定員40名（定員に達し次第締め切り）
講師：加藤寿広ニュースホースター 中野 佐世子 氏
申込方法：メール、またはZoom・各ボランティアセンターにて申込書記入

申し込み・問い合わせ 市ヶ谷ボランティアセンター
Tel:03-3264-9516
Mail: shikagaya.vol@fpu.ac.jp



講師の中野佐世子先生



歌に合わせて手話を覚える



2人一組での手話練習の様子



全員で手話のポーズで集合写真

52. 手話講座特別講演会

1. 日 程 2021年12月15日(水)

2. 場 所 大内山校舎5階Y506教室

3. 概 要

約2か月間にわたって行われていた手話講座の発展企画として、国際手話通訳をされている高桐尊史先生をお招きし、講演会をしていただきました。企画の前半は、高桐先生に講演をしていただきました。先生の幼少期の生活や、手話との出会い、コミュニケーションをとることの素晴らしさなどをお話していただきました。後半では、参加学生のみなさんに実際に手話を使って高桐先生に質問をしていただきました。参加して下さった学生さん全員が高桐先生と話す機会を設けることができ良かったです。今回の講演会で、手話でコミュニケーションが取れることの楽しさを実感することができました。高桐先生と楽しくお話できた時間は、かけがえのない素晴らしい時間でした。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科2年 並木 優衣

4. 学生参加者数 32名

5. 参加学生の感想

・人とコミュニケーションが取れることがどんなに素晴らしいことかということを改めて気づかされた時間でした。自分の思いや考えを誰かに伝えられて、受けとめてもらえること、相手の思いを受け取れること。会話のキャッチボールができること。コミュニケーションを通して相手と親密な関係を築いていけること。これらができることを当たり前に思っていました。コミュニケーションが取れないことで壁を作ってしまう、作られてしまうということがない社会になるといいなと強く思います。私はこれからも手話の勉強だけでなく、福祉の勉強を続けたいと思います。

・高桐さんのお話を聞いて、手話は人と人をつなげるとも大切なコミュニケーション手段なのだと改めて学ぶことができました。質問コーナーで、自分で調べて考えた手話が、高桐さんに伝わった時に、とても嬉しく感じたとともに、自信もつきました。アルバイトで聴覚障がい者とかかわる機会があるのですが、誤解を防ぐために、回りくどい言葉を使わず、簡潔に伝えるよう意識したいと思いました。



講師の高桐先生



手話を使ってコミュニケーションを取る



中野先生から手話の指導を受ける



集合写真

53. Happy Valentine2022 ～法政大学×バイラー大学～

1. 日程 2022年2月11日(金)

2. 場所 Zoom

3. 概要

週に1度行っているバイラー大学とのオンライン交流会である「お茶の時間」に、昨年に引き続き、バレンタイン企画を行いました。法政大学から一般学生の募集を行った他、日本からは西南学院大学の学生も参加して下さり、法政大学、西南学院大学、バイラー大学の3大学で企画を開催しました。今回の企画内容としては、まず初めにブレイクアウトルームに分かれて嬉しかった出来事、印象に残っているプレゼント、バレンタインの失敗談などバレンタインに関連する思い出を共有しました。国を越えた共通のイベントでありながらも、お互いの国で異なる部分もあり、ちょっとした文化交流にもなったと思います。そしてその後、ジャムボードというGoogleの機能を用いてあらかじめ用意したケーキのテンプレート上に、グループごとに写真を張り付けてケーキをデザインするという企画を行いました。そして最後は今年も折り紙企画を行い、今回はプレゼントボックスのメッセージカードを折りました。

法政大学の一般募集では募集定員を上回る応募があり、バイラー大学や西南学院大学からも多くの方が参加して下さいたおかげで活気のある企画となりました。しかしその分、事後アンケートではもっと交流したかった、ブレイクアウトの人数が多かったという意見も頂きました。人数分けなどを工夫するなど、より活発に交流ができるようにし、今回の反省点を来年度の企画につなげていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部心理学科 2年 緒方 晴香

4. 参加学生者数 20名(法政大)、15名(バイラー大)、6名(西南学院大)

5. 企画学生からの感想

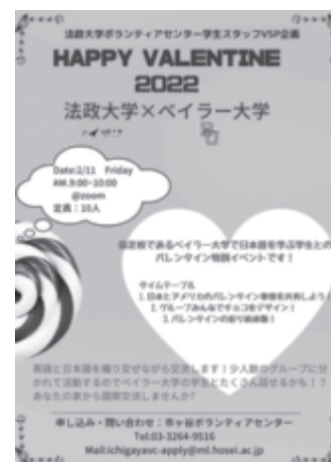
多くの人が企画に参加し、私の参加したブレイクアウトルームでは日本語と英語を少しずつ使い、理解したり伝えたりというコミュニケーションを取ろうとしている姿が多く見られよかったです。バレンタインの思い出共有では渡すものや楽しみ方の違いなど新しい発見、学びもあり有意義な時間とすることができました。気軽に国際交流ができる貴重な機会だったと思うのでこれからも参加、企画に携われたらと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部 1年 浅香 光希

6. 参加学生の感想

英語を話せるようになりたいと思いつつも中々そういった機会がこれまでなかったため、今回英語でコミュニケーションをとる機会がもてて良かったと感じています。また、外国の方々が一生涯懸命日本語を話そうとしている姿を見て自分ももっと積極的にならなければならないと感じ、今後の学習のモチベーションにもなったためこの企画に参加することができたことを嬉しく思います。改善点を強いてあげるのならばもう少しグループでフリートークをする時間が長くてよかったかなと感じました。

経営学部市場経営学科 1年 吉田 明日香



VSPメンバーが担当した司会進行



全員で折った折り紙を手にポーズ

54. HOSEI パラ五輪 きみもパラリンピアン！

1. 日時 2022年2月21日(月)
2. 場所 富士見坂校舎体育館、富士見坂校舎F407、F408教室
3. 概要

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催国となった日本では、スポーツへの関心が高まったと感じています。しかしながら、パラスポーツの認知度は低く、分からないことが多いというのが現状です。そこで、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPは、大学生へのパラスポーツ啓発活動の一環として、学生から学生にパラスポーツボランティアの関心や参加を促すことを目標に、ゴールボール元日本代表主将である信澤用秀氏とゴールボール国際審判員である小野和人氏をお招きし、パラスポーツに関する講義やお話をいただきました。また、学生からは、パラリンピックの歴史やパラスポーツに用いられている技術、パラスポーツボランティアについてなどの講義を行いました。そして、講義終了後は、「ゴールボール」「シッティングバレー」「ボッチャ」の競技体験を実施しました。最後の感想共有では、パラスポーツへの見方が変わったと感じている学生が多く見受けられました。対面での活動が難しい中、今回の企画を通して、参加学生が笑顔になり、出会った学生達の間で友情が生まれたことに、パラスポーツの可能性と魅力を改めて感じました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 国際文化学部国際文化学科1年
長尾 美紅

4. 学生参加者数 33名

5. 企画学生の感想

今年度は2度のオリンピック、パラリンピックがあり世界中でスポーツに注目が集まっており、パラスポーツの知識を深めるためにこの企画に参加しました。今回は学生側からの講義を実施し、自分自身で情報を収集することが多くありました。そのため多くのことを知ることができ楽しかったです。また視覚障がい者の方とコミュニケーションを取る上で、「音」が大切であると改めて学びました。今どのような状況であるかを言葉にしたり、話を聞いているときに相づちではなく言葉に発したりすることが重要であると思いました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部地理学科1年 小林 咲穂

私は信澤さんの講義を聞いている際、感心する点が多々あり、その度に相槌を打ってしまっていたなと思いました。信澤さんには自分が頷いている姿は見えていないんだ、拍手したり声を出したりしなきゃいけないのだと気がつき、自分自身が感じたことをすぐに伝えるためにはどうしたらよいかを考えさせられる時間になりました。また、シッティングバレーの体験をした際、アイゼイドを使用する前と後ではコートが広がっているように感じ、一瞬不思議な感覚になりました。たった10分目が見えなくなっただけで怖さは増し、意識が聴覚に向いていることを感じました。自分が今何不自由なく生活できていることに感謝し、これが当たり前なことではないということを常に思う必要があるなと感じました。

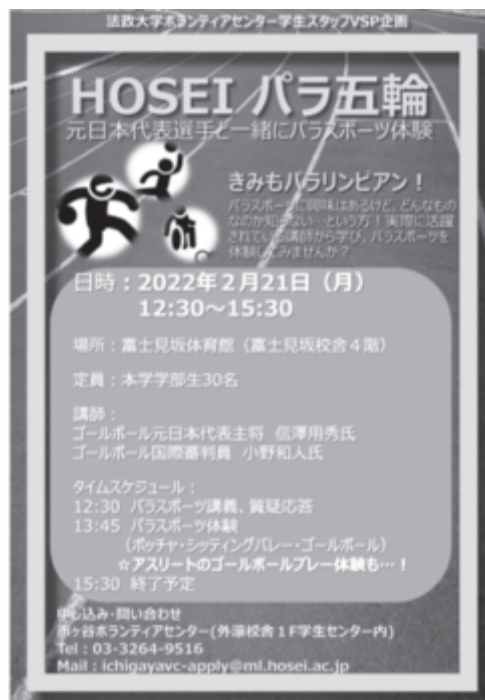
ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部法律学科2年 飯村 美南

6. 参加者学生の感想

やはり自分で体験して初めてパラスポーツが何たるかを理解できると思う。まさにゴールボールはその際たる例で、目が見えないことの恐怖を身をもって感じる事ができた。それによって、視覚障害のある方への配慮の心が持てる。 文学部日本文学科1年 高橋 梨咲

パラスポーツを普及させるには、実際に体験することが1番なのかなと思った。私はこの経験を他の人にも話して、少しでもこういった機会が増えたらいいと思う。今回このような機会に参加できてよかった。ありがとうございました！

スポーツ健康学部スポーツ健康学科2年 中原 菜摘





講師の方の講義を真剣に聞く学生達



ゴールボールを実際に体験する。



シッティングバレー体験



終了後の集合写真。みんな笑顔でバラスポーツを楽しみました。

55. 3.11を再考する

- 1. 日 程 2022年2月21日(月)
- 2. 場 所 法政大学市ヶ谷キャンパス 大内山校舎 Y406
- 3. 概 要

2022年2月21日に岩手・宮城被災地スタディツアーの事前勉強会として「3.11を再考する」を実施しました。当企画は「東北地方太平洋沖地震から学び、首都直下型・南海トラフ地震に備える」ことを目的に法政大学人間環境学部の杉戸信彦教授による講義と参加者によるグループワークを行いました。

杉戸先生からは地震災害のメカニズムの解説のほか、東北地方では過去にも沈み込み帯を震源とする大地震が繰り返し発生していたという事実があり、東北地方太平洋沖地震は決して未曾有の自然災害ではないというお話をいただきました。また東北地方太平洋沖地震が社会に与えた影響を学ぶことが、来る首都直下型地震や南海トラフ巨大地震に備えることになることをお話いただきました。

グループワークでは東北地方太平洋沖地震の発災当時、自分がどのような場所でどのような行動をとったかを振り返り共有するとともに首都直下型地震や南海トラフ巨大地震が発生した際に想定される被害(身近なものから社会全体のものまで)を検討し共有しました。

当企画を通じて、私は現在の日本社会が首都直下型地震や南海トラフ巨大地震に対する用意が社会全体的に見ても不十分であり、個人が想定されるリスクをしっかりと認知し対策をするとともに社会のステークホルダーとして被災時にどのような共助ができるかについて検討することが重要であると考えました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 人間環境学部 人間環境学科 1年 齋藤貴宏

- 4. 学生参加者数 31名

5. 参加学生の感想

地震に関する知識が深められました。グループワークでは、中国の方もいらっしゃったので、日本という視点だけでなく、他の国の様子を伺えて、面白かったです。東日本大震災の記憶が薄れてきていることもあるので、こうしたきっかけに思い出せてよかったです。また、他の方が当時どのようにしていたかを聞く機会もないので、貴重な経験になりました。

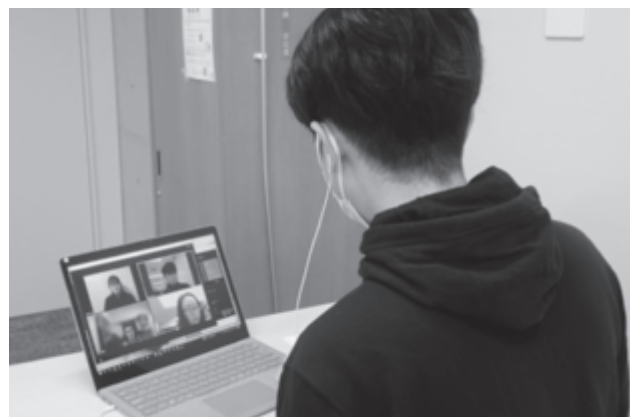
人間環境学部 人間環境学科 3年 横山 萌

日々、災害について客観的(前半のお話)にも、主観的(後半のワークショップ)にも、「再考する」ことが大切だと感じました。私は3.11当時は中学生でしたが、当時小学生だった方々とのワークショップで、年の差もあると、この企画からの学びや思いは違うのかなと少し不安もありました。しかし、お話を聞いていくと、やはり「しっかり備えることへの姿勢や思い」は皆1つだったことが改めて分かり、とても安心しました。

関西大学 大学院生



学生が司会・進行を行った



Zoomを使っでのグループディスカッション

56. フードロスヘキサゴン2

～廃棄されてしまう食材を使った料理対決企画。
私たちの工夫でロスを楽しく減らそう～

1. 日時 2022年2月24日(木)
2. 場所 千代田区役所神保町区民館(2F調理室)、
大内山校舎4階Y404教室

3. 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPは、「日常から出る食品ロス」を減らすための工夫を調理を通して考える企画を行いました。参加者をそれぞれ異なる食材で4つのグループに分け、調理を行いました。調理で用いる食材は、ロスしがちな野菜に関する参加者への事前アンケート結果を元にもやし、大根、人参、ピーマンの4つの食材を選定しました。調理時間は片付けを含め2時間だったのですが、手際良く調理が進み各グループ3～4品のメニューを作ることができました。家庭から出る食品ロスを少しでも減らす為に、それぞれの食材をなるべく捨てる部分を減らして作ることを目標とし、普段あまり馴染みのない大根の葉やピーマンを丸ごと使った料理を作りました。神保町区民館で調理を行なった後、学校に移動して、調理した料理を食べて感想を共有しました。フードロスを考えた料理であることはもちろんですが、料理のクオリティもとても高くお店で出されても違和感がないものばかりでした。

本企画の参加者の方の感想の中には、これから実践していきたいや家族にも共有していきたいなど食品ロスに前向きな感想も多々ありました。今後もVSPではフードロス問題を考える企画を定期的実施していきたいと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 経済学部経済学科2年 橋本 悠史

4. 学生参加者数 19名

5. 企画学生の感想

この企画を実施するにあたり私たち企画メンバーは、ただ調理をして楽しかったで終わるのではなく、調理を通してフードロスを削減するにはどのような工夫が出来るのか、削減するために明日から出来ることは何かを参加者に考えてもらえるような企画にすることを心掛けました。参加者からは楽しくフードロス削減を考えるきっかけになったとの声を多く聞き、この企画の実施目的を達成する事が出来たのではないかと思います。この企画を通して少しでも多くの方がフードロスに関心を持ち、削減するための工夫を覚えてもらえたら嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 人間環境学部人間環境学科1年 佐藤 莉乃

6. 参加学生の感想

最近自宅で料理の手伝いをする機会があり料理に興味を持ったのと、SDGsについてのニュースをたくさん目にし、私に出来る事が何かあるか少しでも知りたいと思ったため今回、この企画に参加したが、普段自分ではしない料理や、食材の使い方、買い方を学べてとても有意義な時間を過ごせた。使う分だけの食材を買うことも大切だと改めて思った。

法学部法律学科2年 高久 菜緒



感染対策をしたうえで試食をする



賞味期限が切れがちなもやしを使って料理に挑戦

57. 災害救援ボランティア講座登壇（立教大学）

1. 日 程 2022年3月5日（土）

2. 場 所 Zoom

3. 概 要

立教大学で行われている災害救援ボランティア講座の1コマを担当している防災教育コーディネーターの宮崎賢哉氏にお声がけいただき、講座内でチーム・オレンジが取り組んでいる防災啓発活動の紹介を行いました。活動紹介は防災キャンプと防災クイズカルタを中心に説明、カルタはオンラインでも実施できるようにクイズ形式に実際に参加者の方に体験してもらいました。15分と限られた時間の中でしたが、チーム・オレンジの防災啓発活動を参加者の皆さんに知ってもらう貴重な機会となりました。

また、本学の他にも青山学院大学、東洋大学のボランティアセンター、学生が登壇し活動の紹介をしました。我々も他大学の取り組みの説明を聞く機会はあまりないのでとても勉強になりました。

市ヶ谷ボランティアセンターは防災啓発関連の企画を実施することはもちろん、団体内の活動の成果を学外に広めることで防災啓発活動を促進していきたいと考えています。

4. 学生参加者数 5名

5. 参加学生の感想

災害救援ボランティアに登壇し、まず第一に我々チーム・オレンジの説明や企画の詳細をより分かりやすく伝えることができたのではないかと感じました。また自分自身のパワーポイント使用時のミスやカルタに回答してもらう際の手際の悪さが色濃く出てしまう結果になったこともあり、今後同じような企画に参加する際の教訓として反省することが必要なのではないかと感じた。しかし、全体を通してみると、よい発表ができたので方向性は間違っていないのではないかと感じました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部政治学科2年 竹内 健晃

今回この災害救援ボランティア講座に出席し、青山学院大学や東洋大学の学生がどんな思いでどんな活動を行なっているのか、またボランティアセンターの方々のサポート体制や、周辺地域の方々とどのように連携を取っているのかなどについて知ることができました。他大学の学生や団体がどのように災害救援のボランティアの活動をしているのか、今まであまり知ることができなかったのでとても貴重な機会となりました。講座で学んだことを今後の活動に活かしていきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 茂木 捺々穂



防災キャンプ企画について学生が説明



防災クイズカルタ体験

58. 東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会

1. 日 時 2022年3月14日(月)

2. 場 所 Zoom

3. 概 要

東京メトロ飯田橋駅で行っている見守りボランティアに関して、東京メトロの職員の方、日本ケアフィット共育機構の方、在学生に向けた報告会を行いました。今年度は、新型コロナウイルスの影響により、報告会はZoomで開催されました。

この報告会の開催目的としては第一に、日頃から私たちの活動を支援してくださっている東京メトロの方、またサービス介助研修を行ってくださる、日本ケアフィット共育機構の方、ボランティアセンターの方々への感謝の気持ちを、報告を通して伝えるということです。

また、学生スタッフにおいては、今後活動していく上での意義・目的の再確認や、活動の改善点の共有なども報告会を開催する目的です。そのため、報告内容としては、私たちが普段行なっている活動内容はもちろん、ボランティア活動を始める上で、受講必須となる研修会での学びや、その学びを日々の生活に活かした点、その他私たちが自主的に行っている活動内容などを報告しました。

報告会に登壇する学生スタッフは、報告会をより良いものにするために、事前に何度もZoom上での打ち合わせを行ったり、使用するスライド等を共有して、互いに修正案を提示したり、リハーサルを行い、本番に向けて沢山の準備を行いました。当日は、学生スタッフからの報告、東京メトロさんからの表彰、日本ケアフィット共育機構の方からのコメント、今年度卒業される先輩方からのコメントというプログラムで行われました。

先輩方からのコメントでは、後輩達への激励の言葉を沢山頂き、先輩方が作り上げてきた、この活動を私たちは更に大きく、そして、より良いものにしていかねばならないと感じました。しかし、それは大きなプレッシャーと言う意味ではなく、メンバーが楽しく活動をしていくことで、更に良いものになるというアドバイスであると私は考えています。今後は私たちが、メトロボランティアを盛り上げていく番です。自分達に出来ることから少しずつ取り組んでいこうと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ 東京メトロ飯田橋駅ボランティア 法学部法律学科2年 櫻井 菜摘

4. 学生参加者数 17名

5. 企画学生の感想

メトボラ報告会を久しぶりに開催できたことを嬉しく思います。各メンバーが工夫を凝らして準備してくれたおかげで素晴らしい報告になったと思います。大学職員の皆さんや東京メトロの皆さんが参加された中発表し、メトボラの活動がいつも多くの人たちの支えがあってこそ成り立っているのだと改めて実感しました。今後も感謝の気持ちを忘れることなく駅での見守り活動をやっていけたらと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ 東京メトロ飯田橋駅ボランティア 人間環境学部人間環境学科2年 齊藤 総一郎

初めての報告会は、とても緊張しました。私が担当したのは定例会資料の作成と司会進行でしたが、どちらも初見のため、骨のある内容でした。定例会資料の方は、先輩方が以前作成したものを参考にしました。わかりやすい説明をスライドにする考え方がよく伝わっていて、資料作成時にとても助けになりました。次いで司会進行の方は、原稿作成時に丁寧な言葉遣いや言い回しに注意しました。それゆえに本番では緊張しましたが円滑に司会を進められたと感じました。

ボランティアセンター学生スタッフ 東京メトロ飯田橋駅ボランティア 国際文化学部国際文化学科2年 中村 大翔



3年近く活動をして、初めての報告会でした。今回の報告会を通して、これまで行ってきた活動の内容とその目的を再確認することができました。また土橋様をはじめとするメトロの社員様からフィードバックを頂いたことで、この活動の重要性を改めて認識し、今後の活動のモチベーション向上に繋がりました。さらにメトロさんだけでなくケアフィット共育機構様やボラセンの職員さんなど様々な方に支えられてこの活動ができていますと感じました。報告会で得た気づきを今後の活動に反映していきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ 東京メトロ飯田橋駅ボランティア 理工学部機械工学科3年 茂木 巧麻

6. 参加学生の感想

私はメトロボランティアに参加したことは無いのですが、どのような活動をしているのか興味を持ち、今回お話を聞かせて頂きました。飯田橋駅でお客様を見守るまでに研修で車椅子体験、盲目の方の対応、さらに手話の学習まで行っているとは知らず、驚きました。学生の皆さんが研修で学んだことを実践し、お客様から感謝の言葉を貰った時の喜びとやりがいはいとも大きかったと思います。少子高齢化で介助が必要な人が増えている中、この経験は今後も生きてくると思いました。また、私より年下の皆さんが、司会進行・プレゼンなど分かりやすく上手に進められていることに感心しました。

私は来年度4年生となり、就活と卒論などで忙しい為、どうなるか分かりませんが是非機会があれば参加させて頂きたいと思います。この素晴らしい活動がいつまでも続くよう願っております。ありがとうございました。

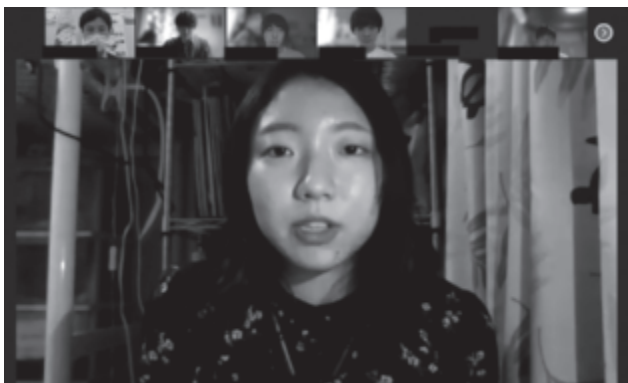
文学部地理学科3年 足坂 昂世



学生からの活動報告



学生スタッフが司会進行



先輩から後輩へのメッセージ



終了後の記念撮影

59. もしもの体験をしてみよう～HUGと防災食体験会～

1. 日 時 2022年3月28日(月)
2. 場 所 大内山校舎5階 Y504教室
3. 概 要

今回、チーム・オレンジではHUGと呼ばれる避難所運営ゲームと防災食の試食を行いました。防災をもっと身近に感じ、日頃の備えがいかに重要であるかを伝えたいという思いで企画を実施し、16名の学生が参加しました。HUGとは、避難所を運営する立場となって、避難者を教室や体育館に配置していくゲームです。ゲームの後は、避難所を運営して工夫した点や、気づきなどを班で話し合い、全体でも意見共有を行いました。HUGの後は、普段食べる機会が中々ない防災食の試食会を行い、防災食をもっと身近に感じてもらいました。参加者の感想より、避難所運営の難しさや大変さが分かったという意見がいくつか見受けられました。いつ起こるか分からない自然災害だからこそ、日頃からの備えが重要であることを改めて感じました。これからも、災害に備えるために私たちが出来る事を考えていきたいと思えます。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科2年 宮本 花穂

4. 学生参加者数 16名

5. 企画学生の感想

今回、もしもの体験をしてみよう～HUGと防災食体験会～の企画運営を行い、改めて日頃から防災意識を高めていく、また高められるような活動を行うことが重要だと改めて感じました。私たち企画者も、参加者の方に避難所運営ゲーム(HUG)の目的や防災食について紹介するために、今までよりさらに避難所運営や防災食について考えることができ、企画を通じてより深い学びや意識を高めることができました。今後も私たち自身やみなさんにとって関心のある防災啓発の企画や活動を行っていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 茂木 捺々穂

グループ内で話し合うことでより良い選択を選ぶことができ、またその後グループごとの発表により新たな気づきを得ることが出来ました。また今までに避難したことはないけれど、実際に被災し避難所の運営に関わることになったらどのように行動すれば良いかを深く考えることができました。ゲームを通して得られた気づきを、災害に対する備えに活かしていきたいと思えます。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 小林 なな

6. 参加学生の感想

HUGというゲームの名前は知っていたが、実際にやったことは無かったのでこの企画に参加した。やってみると、避難所には障がいのある方、病気持ちの方、ペットを連れてきた方、車で生活したい方など多種多様な人が訪れ、考えるべきことが多く難しかった。またHUGゲームを行う機会があれば、今回考えたことをもとにさらに良いアイデアを生み出したい。



HUGの体験。学生同士話し合いながら進める



HUGを通しての気づきを発表する様子